

【MB】ピアノ I		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴						
資格・制限等	P・P/MTコース必修						
実務家教員	横井 : 音楽教室講師・10年 三ツ橋 : 音楽教室講師・9年						
授業内容	エチュード、バロック、古典派の作品を学びながら、ピアノを弾く姿勢、楽譜を正確に読む、指使いの考え方、スケール・アルペジオ、楽曲の構成を理解することから表現へ繋げるなど、演奏の基本を確認し、毎日の練習を実りある練習にするために、基本的な練習法を細かく指導します。						
授業方法	音楽的知識や技術修得に向け、個々のレベルや進度に合わせて、演習を中心とした個人レッスンを行います。						
到達目標	知識・理解	基礎的な音楽知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。			○		
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。			◎		
	技能	基礎テクニックを修得し、演奏技術の向上に努めることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	中間試験		-	5	5	-	10
	受講態度		15	-	-	15	30
	合計(点)		15	35	35	15	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社、または手持ちのもの(1,296円) ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ:インヴェンション・シンフォニア』指定なし						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業説明 各々が選んだ課題を演奏 [準備・課題] 選んだ曲をレッスンできるように準備しておく (2~3h)						
2	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (1) 正確な譜読み (課題の確認) [準備・課題] 各曲1曲ずつ譜読みをする (2~3h)						
3	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (2) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する (2~3h)						
4	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (3) 強弱・速度・音楽用語 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、楽譜に忠実に強弱、速度、音楽用語を表現する (2~3h)						
5	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (4) 暗譜 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む (2~3h)						
6	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (5) 弾き込み (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める (2~3h)						
7	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (6) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、中間試験に向けて仕上げる (2~3h)						
8	中間試験 (調号1つまでのスケール・アルペジオ、練習曲) 試験曲を選曲 (古典派の作品) ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (試験曲) (1) 正確な譜読み (課題の確認) [準備・課題] 試験曲の譜読みに取り組む (2~3h)						
9	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (試験曲) (2) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する (2~3h)						
10	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (試験曲) (3) 曲想 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける (2~3h)						
11	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (試験曲) (4) 音色 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する (2~3h)						
12	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (試験曲) (5) 音楽表現 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を高める (2~3h)						
13	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (試験曲) (6) 暗譜 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする (2~3h)						
14	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (試験曲) (7) 弾き込み (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める (2~3h)						
15	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 (試験曲) (8) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽性を高め仕上げる (2~3h)						
時間外での学修	レッスン時に次回までの課題が提示されますので、毎日怠らずに練習し、毎回のレッスンでレベルアップできるように、日頃の練習に取り組んでください。						
受講学生へのメッセージ	レッスン内容を楽譜やノート等に書き留めるなど、自ら学ぶ姿勢で積極的に受講してください。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。						

【MS】ピアノⅡ		音楽総合学科		1年後期		
		2単位	必修	演習	30時間	
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴					
資格・制限等	P・P/MTコース必修					
実務家教員	横井 : 音楽教室講師・10年 三ツ橋 : 音楽教室講師・9年					
授業内容	前期に引き続き、練習曲、バッハの作品に取り組みながら、ロマン派の作品も学びます。前期に学んだ基礎テクニックや練習法を更に発展させ、演奏技術、表現力を高めます。					
授業方法	音楽的知識や技術修得に向け、個々のレベルや進度に合わせて、演習を中心とした個人レッスンを行います。					
到達目標	知識・理解	音楽的知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。			○	
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。			◎	
	技能	演奏技術の向上に努めることができる。			◎	
	関心・意欲・態度	音楽的感性を養う努力をし、指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	30	30	-	60
	中間試験	-	5	5	-	10
	受講態度	15	-	-	15	30
	合計(点)	15	35	35	15	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社、または手持ちのもの(1,296円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ:インヴェンション・シンフォニア』指定なし					
参考書・教材	個々に合わせて選択します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(1) 休暇中の課題のレッスン、譜読みの再確認 (課題の確認) [準備・課題] 課題をレッスンできるように準備しておく 各曲1曲ずつ正確に譜読みの再確認をする (2~3h)					
2	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(2) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する (2~3h)					
3	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(3) 曲想 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける (2~3h)					
4	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(4) 音楽性 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽性を高める (2~3h)					
5	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(5) 暗譜 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む (2~3h)					
6	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(6) 弾き込み (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める (2~3h)					
7	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(7) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、中間試験に向けて仕上げる (2~3h)					
8	中間試験(調号3つまでのスケール・アルペジオ、バッハ:インヴェンション) 試験曲を選曲(ロマン派の作品) ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)(1) 正確な譜読み (課題の確認) [準備・課題] 試験曲の譜読みに取り組む (2~3h)					
9	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)(2) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する (2~3h)					
10	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)(3) 曲想 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける (2~3h)					
11	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)(4) 音色 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、各曲にふさわしい音色を研究する (2~3h)					
12	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)(5) 音楽表現 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を高める (2~3h)					
13	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)(6) 暗譜 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする (2~3h)					
14	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)(7) 弾き込み (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める (2~3h)					
15	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品(試験曲)(8) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽的な演奏になるよう仕上げる (2~3h)					
時間外での学修	レッスン時に提示される各々の課題を毎日怠らず練習し、毎回のレッスンが質の高いレッスンとなるよう、日頃の練習に取り組んでください。					
受講学生へのメッセージ	レッスンでアドバイスを受けたことを自分の演奏に活かし、演奏力の向上に努めてください。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。					

【MB】電子オルガン I		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	松井 宏行・上園 弥生						
資格・制限等	Or・Or/MTコース必修						
実務家教員	松井： 楽器メーカー専属インストラクター・14年／楽器店 音楽講師・10年 上園： 音楽講師・30年						
授業内容	電子オルガンにおける様々な音楽ジャンルの演奏を経験・追究し、トータルで安定した演奏基盤を身につけます。具体的には、前半で 得意な音楽ジャンルのレパートリー演奏を追究し、後半では その他様々なジャンルの演奏を広く経験し、多様なジャンルへの演奏対応力を身につけ、新たな得意ジャンルを探索します。個人の演奏力や知識に応じて、その場で必要な楽器の操作／レジストレーション等の制作力もカバーしていきます。						
授業方法	個人レッスン						
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。			○		
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に演奏に取り入れて表現することができる。			◎		
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って演奏することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	各曲を演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	25	25	-	70
	準備・課題		5	5	5	-	15
	受講態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだうちの2曲（得意ジャンル1曲／その他ジャンル1曲）の演奏発表で評価します。また、準備・課題は、毎週の練習の結果で評価します。						
テキスト	これまで自身で取り組んだことのある得意ジャンルのレパートリーから2曲程度ピックアップし、第1週授業の際に 楽譜・レジストデータなどを準備してきてください。（この授業のために、新たに選曲し取り組んだ曲でも構いません。） その他に、個人の必要に応じて授業開始後テキストを案内する場合があります。						
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて参考書・楽譜などを案内します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	これまでの演奏経験や現在の演奏レパートリーの確認／今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 [準備・課題]決定した得意ジャンルの演奏曲を練習し、まず自身の力の範囲内で仕上げてくる(2～3h)						
2	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(1) 例. 演奏全体へのアドバイス (リズムの感じ方など) [準備・課題]全体的にアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
3	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(2) 例. 鍵盤タッチ奏法 [準備・課題]アドバイスされた箇所 (例. 鍵盤タッチ奏法) を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
4	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(3) 例. エクスプレッションペダル奏法 [準備・課題]アドバイスされた箇所 (例. Exp. ペダル奏法) を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
5	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(4) 例. まとめのアドバイス [準備・課題]アドバイスされた箇所を全体を復習し、演奏に反映する(2～3h)						
6	その他ジャンルへの演奏取り組み[1曲目](1) 例. クラシック [準備・課題]アドバイスされた箇所 (例. タッチ奏法) を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
7	その他ジャンルへの演奏取り組み[1曲目](2) [準備・課題]アドバイスされた箇所 (例. Exp. ペダル奏法) を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
8	その他ジャンルへの演奏取り組み[2曲目](1) 例. Jazz [準備・課題]アドバイスされた箇所 (例. リズム感) を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
9	その他ジャンルへの演奏取り組み[2曲目](2) [準備・課題]アドバイスされた箇所 (例. タッチ奏法) を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
10	その他ジャンルへの演奏取り組み[3曲目](1) 例. ラテン [準備・課題]アドバイスされた箇所 (例. リズム感) を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
11	その他ジャンルへの演奏取り組み[3曲目](2) [準備・課題]アドバイスされた箇所 (例. タッチ奏法) を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
12	その他ジャンルへの演奏取り組み[4曲目](1) 例. フェュージョン／ニューエイジミュージック [準備・課題]アドバイスされた箇所 (例. 2nd Exp. ペダル奏法) を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
13	その他ジャンルへの演奏取り組み[4曲目](2) [準備・課題]アドバイスされた箇所 (例. ホリゾンタルタッチ奏法) を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
14	得意ジャンルのレパートリー曲 演奏の仕上がり確認と最終アドバイス [準備・課題]得意ジャンルのレパートリー曲について、演奏全体を仕上げる(2～3h)						
15	その他ジャンルからの選択曲 演奏の仕上がり確認と最終アドバイス [準備・課題]その他ジャンルからの選択曲について、演奏全体を仕上げる(2～3h)						
時間外での学修	・各回における[準備・課題]への取り組み状況を、その次の回にて確認します。 ・第6週～第13週の間も、第14週授業に向けて、前半で取り組んだ曲の練習を継続しましょう。 ・第15週授業では、第6週～第13週で取り組んだその他ジャンルの演奏曲の中から、実技試験で演奏したい1曲を選曲して取り組みます。第13週授業を終えた段階で、取り組む曲を決定して練習しましょう。						
受講学生へのメッセージ	皆さんが既に演奏しているレパートリーも、実はまだまだ奥の深いものかも知れません。この授業前半では、その奥深さを知り、一歩踏み込んだ演奏に取り組んでみましょう。また後半で、新たな得意ジャンルを開拓しましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度						

【MS】電子オルガンⅡ		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	松井 宏行・上園 弥生						
資格・制限等	Or・Or/MTコース必修						
実務家教員	松井： 楽器メーカー専属インストラクター・14年／楽器店 音楽講師・10年 上園： 音楽講師・30年						
授業内容	電子オルガンの演奏力向上とともに、レパートリーの拡充に取り組みます。具体的には、前半で 自身で選曲した新規レパートリーの演奏に取り組み、後半では 与えられた課題曲の演奏に取り組みます。どちらの曲においても、細部にまでこだわった演奏を目指します。個人の演奏力や知識に応じて、その場で必要な楽器の操作／レジストレーション等の制作力もカバーしていきます。						
授業方法	個人レッスン						
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。			○		
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に演奏に取り入れて表現することができる。			◎		
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って演奏することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	各曲を演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	25	25	-	70
	準備・課題		5	5	5	-	15
	受講態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲1曲/課題曲1曲の演奏発表で、準備・課題は、毎週の練習の成果で評価します。						
テキスト	第1週授業の際に、前半で取り組む自由曲の候補曲（2曲程度）の楽譜・レジストデータなどを準備してください。その他に、個人の必要に応じて 授業開始後 テキストを案内する場合があります。						
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて 参考書・楽譜などを案内します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	前半で取り組む自由曲の候補曲を確認／今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 [準備・課題]決定した自由曲の練習を開始し、まず自身の力の範囲内で曲の冒頭から1/3程度まで仕上げてくる(2～3h)						
2	自由曲における演奏追究（1） 曲の冒頭から1/3程度まで [準備・課題]曲の冒頭から1/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
3	自由曲における演奏追究（2） 前回と同範囲 [準備・課題]曲のつづき～2/3程度まで 仕上げてくる(2～3h)						
4	自由曲における演奏追究（3） 曲のつづき～2/3程度まで [準備・課題]曲の2/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
5	自由曲における演奏追究（4） 前回と同範囲 [準備・課題]曲のつづき～最後まで 仕上げてくる(2～3h)						
6	自由曲における演奏追究（5） 曲全体 [準備・課題]曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
7	自由曲における演奏追究（6） 前回と同範囲 [準備・課題]後半で取り組む課題曲の練習を開始し、まず自身の力の範囲内で曲の冒頭から1/3程度まで仕上げてくる(2～3h)						
8	課題曲における演奏追究（1） 曲の冒頭から1/3程度まで [準備・課題]曲の冒頭から1/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
9	課題曲における演奏追究（2） 前回と同範囲 [準備・課題]曲のつづき～2/3程度まで 仕上げてくる(2～3h)						
10	課題曲における演奏追究（3） 曲のつづき～2/3程度まで [準備・課題]曲の2/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
11	課題曲における演奏追究（4） 前回と同範囲 [準備・課題]曲のつづき～最後まで 仕上げてくる(2～3h)						
12	課題曲における演奏追究（5） 曲全体 [準備・課題]曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2～3h)						
13	課題曲における演奏追究（6） 前回と同範囲 [準備・課題]前半で取り組んだ自由曲を再度仕上げてくる(2～3h)						
14	自由曲演奏の仕上がり確認と最終アドバイス [準備・課題]自由曲の演奏全体を仕上げ、課題曲も仕上げてくる。(2～3h)						
15	課題曲演奏の仕上がり確認と最終アドバイス [準備・課題]課題曲のアドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる(2～3h)						
時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各回における[準備・課題]への取り組み状況を、その次の回にて確認します。 ・授業開始前に、この授業前半で取り組む自由曲の候補曲を2曲用意し、簡単に譜読みを済ませておいてください。 ・第8週～第13週の間も、第14週授業に向けて、前半で取り組んだ自由曲を練習しましょう。 						
受講学生へのメッセージ	自分で選んだ曲と、与えられた課題曲という2つの対照的な演奏を、平等に取り組んでみましょう。いずれの楽曲においても深くこだわった練習をしていきます。魅力的な演奏に仕上げると同時に、皆さんのレパートリーを増強していきます。[オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度						

【MB】副科ピアノ I		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	Or・Or/MTコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業内容	鍵盤楽器演奏において、ピアノ演奏の修得は基本となります。ピアノ演奏に必要とされる強く独立性のある指作り、自らの体で強弱や音色を創り出し表現する演奏技術を修得します。						
授業方法	音楽的知識や技術修得に向け、個々のレベルや進度に合わせて、演習を中心とした個人レッスンを行います。						
到達目標	知識・理解	幅広い音楽的知識を身に付け、ピアノ演奏法を理解することができる。			○		
	思考・判断・表現	楽曲に対する思考力を働かせ、ふさわしい演奏表現をすることができる。			◎		
	技能	演奏技術を向上することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、常にピアノに関心を持って積極的な取り組みができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		20	-	-	20	40
	合計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(1,296円) ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『ソナチネアルバム1 またはソナタアルバム1』指定なし						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業説明 曲決め [準備・課題] 楽譜を持っている学生は楽譜を持参する (1~2h)						
2	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ (1) 正確な譜読み (課題の確認) [準備・課題] 各曲1曲ずつ正確に譜読みをする (1~2h)						
3	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ (2) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する (1~2h)						
4	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ (3) 強弱 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、強弱を付けて弾けるようにする (1~2h)						
5	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ (4) 曲想 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける (1~2h)						
6	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ (5) 音楽表現 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を身に付ける (1~2h)						
7	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ (6) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで仕上げる (1~2h)						
8	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲 (1) 正確な譜読み (課題の確認) [準備・課題] 各曲を正確に譜読みをする (1~2h)						
9	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲 (2) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する (1~2h)						
10	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲 (3) 強弱 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、強弱を付けて弾けるようにする (1~2h)						
11	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲 (4) 曲想 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける (1~2h)						
12	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲 (5) 音楽表現 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を身に付ける (1~2h)						
13	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲 (6) 暗譜 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む (1~2h)						
14	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲 (7) 弾き込み (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、よく弾き込む (1~2h)						
15	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲 (8) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、試験に向けて仕上げる (1~2h)						
時間外での学修	毎日ピアノを練習する習慣を身に付け、毎回のレッスンでレベルアップするように取り組んでください。						
受講学生へのメッセージ	レッスン内容を自ら楽譜やノート等へ書き留めるなど、自ら学ぶ姿勢で積極的に受講してください。オフィスアワーはB206で授業前後の休み時間です。						

【MS】副科ピアノⅡ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	Or・Or/MTコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業内容	前期に修得した基礎を土台とし、個々の目標に合わせた曲目やバッハや古典派の作品も取り入れながら、更にピアノの演奏技術を高め、表現力を身に付けていきます。						
授業方法	音楽的知識や技術修得に向け、個々のレベルや進度に合わせて、演習を中心とした個人レッスンを行います。						
到達目標	知識・理解	幅広い音楽的知識を身に付け、ピアノ演奏法を理解することができる。			○		
	思考・判断・表現	楽曲に対する思考力を働かせ、ふさわしい演奏表現をすることができる。			◎		
	技能	演奏技術を向上することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、常にピアノに関心を持って積極的な取り組みができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		20	-	-	20	40
	合計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(1,296円) ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『ソナチネアルバム1 またはソナタアルバム1』指定なし						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ (1) 休暇中の課題のレッスン (課題の確認) [準備・課題] 初回の授業でレッスンできるよう練習しておく (1~2h)						
2	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ (2) 譜読みの確認 (課題の確認) [準備・課題] 譜読みが正確にできているか確認する (1~2h)						
3	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ (3) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する (1~2h)						
4	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ (4) 強弱 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、強弱を付けて弾けるようにする (1~2h)						
5	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ (5) 曲想 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける (1~2h)						
6	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ (6) 音楽表現 [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を身に付ける (1~2h)						
7	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ (7) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで仕上げる (1~2h)						
8	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲 (1) 正確な譜読み (課題の確認) [準備・課題] 各曲を正確に譜読みをする (1~2h)						
9	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲 (2) テクニック練習 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する (1~2h)						
10	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲 (3) 強弱 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、強弱を付けて弾けるようにする (1~2h)						
11	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲 (4) 曲想 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける (1~2h)						
12	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲 (5) 音楽表現 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を身に付ける (1~2h)						
13	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲 (6) 暗譜 (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む (1~2h)						
14	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲 (7) 弾き込み (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、よく弾き込む (1~2h)						
15	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲 (8) 仕上げ (課題の確認) [準備・課題] レッソンの復習をし、試験に向けて仕上げる (1~2h)						
時間外での学修	毎日の練習を怠らず、毎回のレッスンでレベルアップするように取り組んでください。						
受講学生へのメッセージ	自らの指や体で音色を創り出して、自然な演奏ができるよう、積極的に演奏法を修得しましょう。 オフィスアワーはB206で授業前後の休み時間です。						

【MB】副科電子オルガン I		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	上園 弥生・相原 里美						
資格・制限等	P・P/MTコース必修						
実務家教員	上園：音楽講師・30年 相原：音楽教室講師・25年						
授業内容	電子オルガンの演奏法を学びます。ステージアの基本的な操作を勉強します。又、市販のデータを分析し、入力技術を学び、演奏法を研究し修得します。						
授業方法	毎週1回の個人レッスンです。個々のレベルにあった指導をします。時には、数名で協力しあってデータを入力することもあります。						
到達目標	知識・理解	色々なジャンルの音楽を体験し理解できる。			○		
	思考・判断・表現	楽譜からアレンジャーの意図が読み取れる。			○		
	技能	データをいかした演奏力の向上 表情豊かな演奏ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	学んだ内容を復習、理解し、練習する。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	授業態度		-	-	-	15	15
	課題に対する練習状況		-	-	-	15	15
	合計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲演奏の発表で、評価します。						
テキスト	個々に合わせて選択します。						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方について [準備・課題]電子オルガン演奏を視聴してみる(1~2h)						
2	曲決め [準備・課題]練習にとりかかる(1~2h)						
3	電子オルガンの操作、奏法など [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
4	レジストについて [準備・課題]学んだ内容を理解し、さらに進める(1~2h)						
5	レジスト分析 [準備・課題]学んだ内容を理解し、さらに進める(1~2h)						
6	ベース奏法について [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
7	レバートリー拡大 [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
8	レバートリー拡大 [準備・課題]学んだ内容を復習し、さらに進める(1~2h)						
9	レバートリー拡大 [準備・課題]学んだ内容を復習し、さらに進める(1~2h)						
10	タッチについて [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
11	タッチをいかして [準備・課題]学んだ内容を理解し、さらに進める(1~2h)						
12	オルガン奏法について [準備・課題]学んだ内容を復習する(1~2h)						
13	試験に向けての取り組み [準備・課題]学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1~2h)						
14	弾き込み 暗譜 [準備・課題]学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1~2h)						
15	弾き込み 仕上げ [準備・課題]学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1~2h)						
時間外での学修	色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。						
受講学生へのメッセージ	空き時間を利用して、毎日練習しましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間の前後5分程度						

【MS】副科電子オルガンⅡ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	上園 弥生・相原 里美						
資格・制限等	P・P/MTコース必修						
実務家教員	上園：音楽講師・30年 相原：音楽教室講師・25年						
授業内容	色々なジャンルの音楽を体験します。市販曲の構成、編曲を理解しながらデータを分析、参考にして、入力技術を学び、小アレンジに挑戦します。前期と同様、演奏法を研究し修得します。						
授業方法	毎週1回の個人レッスンです。個々に適した指導を行います。						
到達目標	知識・理解	色々なジャンルの音楽を体験し理解できる。			○		
	思考・判断・表現	楽譜からアレンジャーの意図が読み取れる。			○		
	技能	データをいかした演奏力の向上。 表情豊かな演奏ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	学んだ内容を復習、理解し、練習する。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	授業態度		-	-	-	15	15
	課題に対する練習状況		-	-	-	15	15
	合計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ即興演奏の発表で、評価します。						
テキスト	個々に合わせて選択します。						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	休暇中の宿題を発表する [準備・課題] 次の課題に取り組む(1~2h)						
2	前期の復習 [準備・課題] 次の曲の練習にとりかかる(1~2h)						
3	電子オルガンの操作、奏法など ステージアの機能について [準備・課題] 学んだ内容を復習する(1~2h)						
4	レジストについて [準備・課題] 学んだ内容を理解し、さらに進める(1~2h)						
5	レジスト分析 [準備・課題] 学んだ内容を理解し、さらに進める(1~2h)						
6	レパトリーを増やす [準備・課題] 学んだ内容を復習する(1~2h)						
7	レパトリー増やす [準備・課題] 学んだ内容を復習する(1~2h)						
8	レパトリー増やす [準備・課題] 学んだ内容を復習し、さらに進める(1~2h)						
9	小アレンジに挑戦 [準備・課題] 学んだ内容を理解し、さらに進める(1~2h)						
10	小アレンジ実習 [準備・課題] 学んだ内容を復習し、さらに進める(1~2h)						
11	小アレンジ実習 [準備・課題] 学んだ内容を理解し、さらに進める(1~2h)						
12	オルガン奏法について [準備・課題] 学んだ内容を復習する(1~2h)						
13	試験に向けての取り組み [準備・課題] 学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1~2h)						
14	弾き込み 暗譜 [準備・課題] 学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1~2h)						
15	弾き込み 仕上げ [準備・課題] 学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1~2h)						
時間外での学修	色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。						
受講学生へのメッセージ	毎日の練習を怠らない様、空き時間を利用して、電子オルガンに向いましょう。 [オフィスアワー] 当授業の教室にて、授業時間の前後5分程度						

【MS】P・O r アンサンブル I		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・相原 里美						
資格・制限等	P・Or・P/MT・Or/MTコース必修						
実務家教員	横井：音楽教室講師・10年 相原：音楽教室講師・25年						
授業内容	ピアノ連弾や2台ピアノ、2台電子オルガン、ピアノと電子オルガンのデュオなど、ソロとは違ったアンサンブルの音色や魅力、連帯感を楽しみながら、アンサンブルにおける演奏技術や表現力を身に付けます。また、アンサンブルを通して人と合わせることの難しさや大切さ、協調性や責任感なども学びます。						
授業方法	演習を中心として、アンサンブル演奏の知識・技術修得に向けて、1組ずつ演奏・指導をしながら授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	各アンサンブル形態における演奏法についての知識を身に付け、理解することができる。			△		
	思考・判断・表現	楽曲についてパートナーと研究し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。			◎		
	技能	アンサンブル演奏の技術を身に付け、各パートを把握・理解しながら、バランスの良いハーモニーで息の合った演奏をすることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	パートナーと十分なコミュニケーションを図りながら積極的に取り組み、協調性・責任感を養うことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	中間発表		-	5	5	-	10
	受講態度		10	-	-	20	30
	合計(点)		10	35	35	20	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業説明（今後の授業の進め方等） パートナー決め 選曲（ピアノ連弾1曲と2台電子オルガン1曲） [準備・課題] 選曲後、各自譜読みに取り組む（1～2h）						
2	レッスン（1）譜読みの確認（課題の確認） [準備・課題] 見落としのないよう、正確に譜読みを行う（1～2h）						
3	レッスン（2）合わせ（課題の確認） [準備・課題] ゆっくりなテンポで合わせて弾けるようにしておく（1～2h）						
4	レッスン（3）バランスの確認（課題の確認） [準備・課題] 自分のパートの役割を理解して、全体のバランスを考える（1～2h）						
5	レッスン（4）曲想（課題の確認） [準備・課題] パートナーと楽曲を研究し、曲想を付ける（1～2h）						
6	レッスン（5）音楽表現（課題の確認） [準備・課題] 表現力豊かな演奏ができるように弾き込む（1～2h）						
7	レッスン（6）仕上げ（課題の確認） [準備・課題] バランス、呼吸、音楽表現を確認しながら仕上げる（1～2）						
8	中間発表 試験曲決め [準備・課題] 中間発表に向けて弾き込む（1～2h）						
9	試験曲（1）譜読みの確認（課題の確認） [準備・課題] 各自正確な譜読みをする（1～2h）						
10	試験曲（2）合わせ（課題の確認） [準備・課題] レッスンまでにパートナーと合わせをする（1～2h）						
11	試験曲（3）テクニックの向上（課題の確認） [準備・課題] テクニック練習をし、自然に流れるような演奏を目指す（1～2h）						
12	試験曲（4）バランス（課題の確認） [準備・課題] 各パートの把握・理解をしてバランスづくりをする（1～2h）						
13	試験曲（5）曲想（課題の確認） [準備・課題] 楽曲にふさわしい曲想を付ける（1～2h）						
14	試験曲（6）音楽表現（課題の確認） [準備・課題] 弾き込んで表現力を磨く（1～2h）						
15	試験曲（7）仕上げ（課題の確認） [準備・課題] バランス、呼吸、音楽表現を確認しながら仕上げる（1～2h）						
時間外での学修	アンサンブル演奏の前提として、個々のパートの演奏力が必要ですので、責任を持って個々の練習を行いましょう。 そして授業までにパートナーとの合わせ練習を行い、毎回の授業でアンサンブル演奏が成立するように準備してください。						
受講学生へのメッセージ	一人でも授業を欠席するとアンサンブルとしてのレッスンができませんので、欠席をしないようにしてください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。						

【MS】伴奏法(P)		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業内容	伴奏法として誰もが思い浮かぶことの一つに、メロディよりも控えめに演奏するということが挙げられるでしょう。しかし、それだけでは充分ではないことも周知のことです。この授業では、主に歌曲を用いて伴奏法を学修しますが、伴奏譜を弾くだけではなく、メロディの歌詞の理解、呼吸、フレージング、構成などを深く理解することが大切であり、その理解が楽曲にふさわしい音楽表現に繋がると考えられます。これらを理解するために効果的な弾き歌いも学修し、また、様々な場面に対応するために、コードネーム付きメロディ譜の伴奏付けも学修します。						
授業方法	演習を中心として、伴奏法の知識と技術を身に付けながら、一人ずつ演奏・指導して授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	音楽的知識を身に付け、理解することができる。			△		
	思考・判断・表現	楽曲を深く研究して理解し、ふさわしい演奏表現をすることができる。			◎		
	技能	適切な呼吸、フレージング、メロディとのバランスを考えた伴奏ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	伴奏者としてのコミュニケーション力や協調性を養いながら、積極的に学修することができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	40	-	70
	受講態度		10	-	-	20	30
	合計(点)		10	30	40	20	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『コンコーネ50番 中声用』全音楽譜出版社(972円) ISBN:978-4-11-711420-1						
参考書・教材	その都度提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方について・伴奏について 弾き歌い(1) 伴奏の譜読み [準備・課題] ピアノ伴奏のある演奏会や動画等で、伴奏とはどのようなものか観ておく(1~2h)						
2	弾き歌い(2) 伴奏の確認(課題の確認) [準備・課題] ひと通り弾けるようにしておく(1~2h)						
3	弾き歌い(3) メロディの把握(課題の確認) [準備・課題] メロディを歌いながら伴奏を付けて弾き歌いができるようにしておく(1~2h)						
4	弾き歌い(4) ブレス・フレージング・バランス(課題の確認) [準備・課題] メロディとともにブレスを取り、フレージング、バランスを考える(1~2h)						
5	歌曲伴奏(1) メロディと伴奏の把握(課題の確認) [準備・課題] メロディと伴奏を弾けるようにしておく(1~2h)						
6	歌曲伴奏(2) ブレス・フレージング・バランス(課題の確認) [準備・課題] メロディとともにブレスを取り、フレージング、バランスを考える(1~2h)						
7	歌曲伴奏(3) 曲想・音楽表現(課題の確認) [準備・課題] 楽曲にふさわしい曲想・表現を考える(1~2h)						
8	コードネーム付きメロディ(1) コードネームについて(課題の確認) [準備・課題] コードネームの知識を修得する(1~2h)						
9	コードネーム付きメロディ(2) 片手伴奏・両手伴奏について(課題の確認) [準備・課題] 譜読みをしておく(1~2h)						
10	コードネーム付きメロディ(3) 曲想・音楽表現(課題の確認) [準備・課題] 楽曲にふさわしい音楽表現ができるようにする(1~2h)						
11	試験曲(1) 譜読み・コード付け(課題の確認) [準備・課題] 正確な譜読み、コード付けをしておく(1~2h)						
12	試験曲(2) テクニックの向上(課題の確認) [準備・課題] スムーズに弾けるようにする(1~2h)						
13	試験曲(3) ブレス(課題の確認) [準備・課題] メロディのブレスに合わせて弾けるようにする(1~2h)						
14	試験曲(4) 音楽表現(課題の確認) [準備・課題] 楽曲にふさわしい音楽表現を考える(1~2h)						
15	試験曲(5) 仕上げ(課題の確認) [準備・課題] メロディとのバランス、曲想などを再確認する(1~2h)						
時間外での学修	歌曲や器楽曲の演奏会に出掛けたり、CD等を積極的に聴くなどして、メロディと伴奏のバランス、伴奏の理解に努めましょう。						
受講学生へのメッセージ	伴奏によって楽曲の完成度が違ってきます。演奏技術や表現力を磨き、伴奏に活かしてください。オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。						

【MS】オーケストレーション		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	石原 朱実						
資格・制限等	P・Or・P/MT・Or/MTコース必修						
実務家教員							
授業内容	管楽器の音域や特色を理解しスコアリーディング（読譜）を通して、必要楽器・配置や編成を電子オルガン（ステージ）の三段楽譜に編曲する。						
授業方法	演習授業で、1人ずつ指導を行う。電子オルガン（ステージ）のレジストレーション（音色研究、エフェクト効果）にて、オーケストラの様々な楽器を置き換え学ぶ。						
到達目標	知識・理解	電子オルガンを用いて、ソロ・アンサンブルの音色、レジスト作りができる。			◎		
	思考・判断・表現	電子オルガンのソロ・アンサンブルのアナリゼ、編曲ができる。			◎		
	技能	クラシック曲のスコアを見て、楽器の特徴を把握し、電子オルガンの演奏表現に活かすことができるようにする。			○		
	関心・意欲・態度	意欲を持って授業に参加、課題に取り組む。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		20	20	-	-	40
	実技試験		10	10	20	-	40
	受講態度		10	-	-	10	20
	合計(点)		40	30	20	10	100
評価の特記事項							
テキスト	『スコアリーディングを始める前に』ドレミ楽譜出版社(1,620円) ISBN:978-4-285136-20-3						
参考書・教材	資料はレッスン時にコピーを配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	電子オルガン（ステージ）の楽器操作の確認 [準備・課題]楽器の操作がスムーズにできるように練習する(1~2h)						
2	オーケストラ楽器の編成、配置 木管・金管楽器の音出し 各楽器の持つ特徴と音域について [準備・課題]木管、金管、各楽器の特徴などを理解し、定着させる(1~2h)						
3	オーケストラ楽器を電子オルガン（ステージ）上に、レジスト作り、各楽器の名曲鑑賞と実際の音出し [準備・課題]自分で曲を選び、電子オルガン上で再現してみる(1~2h)						
4	クラシック弦楽四重奏曲のスコアリーディング モーツァルト作曲 アイネクライネナハトムジーク [準備・課題]アイネクライネナハトムジークのスコアリーディングを復習する(1~2h)						
5	四名ずつグループ分け アンサンブル、ハイドン作曲 皇帝 [準備・課題]皇帝をスコアリーディングしてみる(1~2h)						
6	四名ずつグループ分け アンサンブル、ハイドン作曲 皇帝 [準備・課題]皇帝のスコアリーディングと音だしを復習、練習する(1~2h)						
7	オーケストラ フルスコアリーディング、パレエ組曲 白鳥の湖よりワルツ [準備・課題]ワルツのスコアリーディングを復習し、音だしに繋げる(1~2h)						
8	アンサンブル～ソロへの音作りと音だし [準備・課題]自分のパートと他パートとのアンサンブルを意識しつつ、復習練習する(1~2h)						
9	アンサンブル～ソロへの音作りと音だし [準備・課題]今まで学んだ内容を活かしてソロ曲へ繋げる(1~2h)						
10	アンサンブル～ソロへの音作りと音出し [準備・課題]今まで学んだ内容を活かしてソロ曲へ繋げ、まとめる(1~2h)						
11	ソロ曲の個人チェックから演奏へ [準備・課題]ソロ曲として仕上げる(1~2h)						
12	音色、レジストetc.(ステージ)の編曲、楽譜 個人チェック [準備・課題]今まで学んだ内容の総復習(1~2h)						
13	ピアノから電子オルガンへ ブルクミュラー曲の中から選曲しアレンジ [準備・課題]アレンジをまとめる(1~2h)						
14	実技試験に向けて、ワルツ、ブルクミュラーより一曲 チェック [準備・課題]アレンジの内容を深め、弾き込む(1~2h)						
15	筆記試験：移調楽器、各楽器を主役とする曲名 [準備・課題]今まで学んだ内容の総復習をする(1~2h)						
時間外での学修	クラシック、名曲リストにある曲は出来るだけすべて聴いて曲を覚えて欲しい。 クラシック楽器（弦、木管、金管、打楽器など）出来るだけ触れること。						
受講学生へのメッセージ	音楽の作品を聴くときはなるべく楽譜を手元に置き見ながら聴くようにすることで自然に楽譜に親しんで欲しい。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40~12:55です。						

【MS】ポピュラーリズム&コードプログ レクション		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	石原 朱実・野々垣 行恵						
資格・制限等	P・Or・P/MT・Or/MTコース必修						
実務家教員							
授業内容	電子オルガン（ステージア）を用いて、ポピュラー音楽の様々なリズムとルーツを探り、ラテン楽器の使用とポピュラー音楽のコード・リズム表現を学ぶ。						
授業方法	演習授業で、1人ずつ指導を行う。 前半5回レッスンで、ラテン楽器の理解と使用方法を学び、それを電子オルガン（ステージア）に表現できるようにする。 ポピュラー音楽発祥の地ラテンアメリカの音楽を学ぶ。						
到達目標	知識・理解	ポピュラー音楽の理解と表現が電子オルガン（ステージア）に反映できる Jazzなどポピュラーで使用されるコード、和声進行の理解ができる			○		
	思考・判断・表現	ラテンリズムを電子オルガン（ステージア）で演奏・表現できるようにする			○		
	技能	本来踊りの曲であることを認識し、演奏をすると自然に身体が動く様に、リズムを体感し表現できるようにする			◎		
	関心・意欲・態度	ラテン音楽で踊りを楽しむなど、体感表現することへの興味を高める事			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		10	10	20	-	40
	筆記試験		15	15	-	-	30
	受講態度		-	-	15	15	30
	合計(点)		25	25	35	15	100
評価の特記事項							
テキスト	ありません。						
参考書・教材	実習課題はコピーで配布します。各ジャンルのCDを聞かせます。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1(野々垣)	ラテンパーカッションの理解と体験 [準備・課題]学んだ内容の復習(1~2h)						
2(野々垣)	ラテンパーカッションの理解と体験 [準備・課題]学んだ内容の復習(1~2h)						
3(野々垣)	ラテンパーカッションの理解と体験 [準備・課題]学んだ内容の復習(1~2h)						
4(野々垣)	ラテンパーカッションの理解と体験 [準備・課題]学んだ内容の復習(1~2h)						
5(野々垣)	ラテンパーカッションの理解と体験 [準備・課題]学んだ内容の復習(1~2h)						
6(石原)	ポピュラー音楽、リズムの基礎 リズム楽器・打楽器の体験 [準備・課題]電子オルガンの音色を使って、ポピュラー音楽リズムの復習をする(1~2h)						
7(石原)	ラテン音楽の歴史 曲を聴かせ、そのルーツを探る [準備・課題]ラテン音楽のCDを聴き、電子オルガンの演奏に活用できるようにする(1~2h)						
8(石原)	ラテンアメリカの国々のリズムと名称を覚え、そのリズムパターンを表現する [準備・課題]ラテンリズムのパターンを知り、習熟する(1~2h)						
9(石原)	ビギン・ルンバの曲を聴き、表現する。コードの特徴を理解する [準備・課題]ビギン・ルンバのCDを聴き、習熟し、電子オルガンの演奏に活用する(1~2h)						
10(石原)	アンサンブルにて体験する [準備・課題]アンサンブルの体験を活かし、電子オルガンのソロ演奏に繋げる(1~2h)						
11(石原)	タンゴ・サンバの曲を聴き表現する。コード進行や特徴を覚える [準備・課題]タンゴ・サンバのCDを聴き、習熟し電子オルガンの演奏に活用する(1~2h)						
12(石原)	アンサンブルにて体験する [準備・課題]アンサンブルの体験を活かし、電子オルガンのソロ演奏に繋げる(1~2h)						
13(石原)	Swing、8・16ビートの曲を聴き、コード進行や特徴を覚える [準備・課題] Swing、8・16ビートのCDを聴き、習熟し、電子オルガンの演奏に繋げる(1~2h)						
14(石原)	今までのまとめとして電子オルガン（ステージア）で個々に発表・表現し、個人チェックをする [準備・課題]今まで学んだ内容の復習(1~2h)						
15(石原)	筆記試験（ラテン音楽の歴史とリズムの特色） 16回目：実技試験（課題を与えソロ演奏） [準備・課題]今まで学んだ内容の総復習(1~2h)						
時間外での学修	2・4・8・16ビートなど、ポピュラー音楽をCDやコンサートetc.などで積極的に聴いて、体でリズムを覚える事。						
受講学生へのメッセージ	リズムの世界をCD・ライブ演奏などから直接耳にし、体で感じて欲しい。 音楽を聴く時は、必ず体の一部で拍子・テンポをとって聴くようにする事。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40~12:55です。						

【MS】サウンドメイク I		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	松井 宏行						
資格・制限等	Or・Or/MTコース必修						
実務家教員	楽器メーカー専属インストラクター・14年／楽器店 音楽講師・10年						
授業内容	現代の音楽には様々な表現手法が存在します。現代で音楽を演奏する者として知っておくべき、社会に溢れる音楽の様々な表現手法を、電子オルガンにおいて仮想的に体験し認識を深めます。前期は、具体的には、電子オルガンの操作習得／電子音の仕組み理解／エフェクトの知識学習／リズムの打ち込み制作などに取り組みます。						
授業方法	<演習> ・種々の表現手法について紙面上で知識を学習し、それらを電子オルガン上で再現していきます。 ・電子オルガンを活用し、詳細な操作・再現手法をマスターしていきます。 ・授業終盤では、学んだ知識や操作を活かし、総合的な応用制作に取り組みます。						
到達目標	知識・理解	様々な表現手法を知り、世の中に溢れる音楽において、それらの存在を理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	与えられた情報をもとに、適切な表現手法を選択し、適切なサウンドを構成できる。			◎		
	技能	種々の表現手法において、こだわりをもった調整ができる。			○		
	関心・意欲・態度	表現手法を研究する上で生じる疑問を、自ら発見し、質問できる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		20	10	-	-	30
	実技試験		15	20	15	-	50
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		35	30	15	20	100
評価の特記事項	筆記試験は、習得した知識に関する設問に対して、紙面上で回答する形式です。実技試験は、与えられる課題に対して、楽器を操作して制作物を作り、提出します。						
テキスト	なし						
参考書・教材	各回の内容の必要に応じて受講資料をプリントで配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業の概要紹介～電子オルガンの操作習得（1）パネル上のボタン配置の把握 <準備・課題>パネル上のボタンの操作・知識を復習する（0.5～1h）						
2	電子オルガンの操作習得（2）ディスプレイセレクトについて <準備・課題>ディスプレイセレクトの操作・知識を復習する（0.5～1h）						
3	電子オルガンの操作習得（3）各種の詳細設定画面の概要把握 <準備・課題>各種の詳細設定画面の操作・知識を復習する（0.5～1h）						
4	電子オルガンの知識（1）音源について <準備・課題>音源について知識を復習する（0.5～1h）						
5	電子オルガンの操作習得（4）ボイスのセレクト～ボイスコンディショニングについて <準備・課題>ボイスのセレクト～ボイスコンディショニングの操作・知識を復習する（0.5～1h）						
6	電子オルガンの操作習得（5）リズムの基本操作 <準備・課題>リズムの操作・知識を復習する（0.5～1h）						
7	電子オルガンの知識（2）RPPの仕組みについて <準備・課題>RPPの仕組みについて知識を復習する（0.5～1h）						
8～10	電子オルガンの操作習得（6）リズムパターンの作成 <準備・課題>リズムパターン作成の操作・知識を復習する（0.5～1h）						
11	電子オルガンの知識（3）エフェクトについて：空間系・モジュレーション系 <準備・課題>空間系・モジュレーション系エフェクトの知識を復習する（0.5～1h）						
12	電子オルガンの知識（4）エフェクトについて：歪み系・ダイナミクス系・その他 <準備・課題>歪み系・ダイナミクス系・その他のエフェクトの知識を復習する（0.5～1h）						
13	電子オルガンの知識（5）ボイスエディットについて <準備・課題>ボイスエディットについて知識を復習する（0.5～1h）						
14	電子オルガンの操作習得（7）ボイスエディットの活用 <準備・課題>ボイスエディット活用の操作・知識を復習する（0.5～1h）						
15	前期で習得した事項を活かしたトータル制作 <準備・課題>実技試験に向けた制作練習（1～2h）						
時間外での学修	各回の演習で学ぶ電子オルガンの操作は、同様の操作を繰り返し経験していくことで身につくものです。演習で取り扱った内容は、日頃から積極的に操作してみるようにしましょう。また、演習で得た知識は、電子オルガンに限らず、現代の様々な音楽の表現手法につながります。身の回りの音楽ではどのように活用されているか、常に意識して音楽と接すると良いでしょう。						
受講学生へのメッセージ	細かい操作や耳馴染みのない用語が多く登場するかもしれませんが、実はいずれも身近にある音楽に深く関わっているものです。電子音楽の視点から、様々な音楽のサウンドを多角的に探求してみましょう。[オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度						

【MA】サウンドメイクⅡ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	松井 宏行						
資格・制限等	Or・Or/MTコース必修						
実務家教員	楽器メーカー専属インストラクター・14年／楽器店 音楽講師・10年						
授業内容	現代の音楽には様々な表現手法が存在します。現代で音楽を演奏する者として知っておくべき、社会に溢れる音楽の様々な表現手法を、電子オルガンにおいて仮想的に体験し認識を深めます。後期は、具体的には、オーケストラ系/ポピュラー系などのジャンルごとに楽曲例を取り上げ、精巧なサウンドメイク（音作り）に取り組みます。						
授業方法	<演習> ・種々の表現手法について紙面上で知識を学習し、それらを電子オルガン上で再現していきます。 ・電子オルガンを活用し、詳細な操作・再現手法をマスターしていきます。 ・授業終盤では、学んだ知識や操作を活かし、総合的な応用制作に取り組みます。						
到達目標	知識・理解	様々な表現手法を知り、世の中に溢れる音楽において、それらの存在を理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	与えられた情報をもとに、適切な表現手法を選択し、適切なサウンドを構成できる。			◎		
	技能	種々の表現手法において、こだわりをもった調整ができる。			○		
	関心・意欲・態度	表現手法を研究する上で生じる疑問を、自ら発見し、質問できる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		20	10	-	-	30
	実技試験		15	20	15	-	50
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		35	30	15	20	100
評価の特記事項	筆記試験は、習得した知識に関する設問に対して、紙面上で回答する形式です。実技試験は、与えられる課題に対して、楽器を操作して制作物を作り、提出します。						
テキスト	なし						
参考書・教材	各回の内容の必要に応じて受講資料をプリントで配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業の概要紹介～精巧なサウンドメイク（1）電子オルガンにおける効果的な音作りについて <準備・課題>効果的な音作りについて知識を復習する（0.5～1h）						
2	精巧なサウンドメイク（2）音作りのポイントについて <準備・課題>音作りのポイントについて知識を復習する（0.5～1h）						
3	様々な楽器と奏法（1）アコースティック楽器を知る：管楽器 <準備・課題>管楽器について知識を復習する（0.5～1h）						
4	様々な楽器と奏法（2）アコースティック楽器を知る：弦楽器・打楽器 <準備・課題>弦楽器・打楽器について知識を復習する（0.5～1h）						
5	オーケストラ系のサウンドメイク（1）ボイスの選択～組合せ <準備・課題>ボイスの選択～組合せの操作・知識を復習する（0.5～1h）						
6	オーケストラ系のサウンドメイク（2）リズム制作 <準備・課題>リズム制作の操作・知識を復習する（0.5～1h）						
7	オーケストラ系のサウンドメイク（3）制作実習 <準備・課題>ここまでの操作・知識を復習する（0.5～1h）						
8	ポピュラー系のサウンドメイク（1）ボイスの選択～組合せ <準備・課題>ボイスの選択～組合せの操作・知識を復習する（0.5～1h）						
9	ポピュラー系のサウンドメイク（2）リズム制作 <準備・課題>リズム制作の操作・知識を復習する（0.5～1h）						
10	ポピュラー系のサウンドメイク（3）制作実習 <準備・課題>ここまでの操作・知識を復習する（0.5～1h）						
11	任意楽曲のサウンドメイク（1）ボイスの選択～組合せ <準備・課題>ボイスの選択～組合せの操作・知識を復習する（0.5～1h）						
12	任意楽曲のサウンドメイク（2）リズム制作 <準備・課題>リズム制作の操作・知識を復習する（0.5～1h）						
13	任意楽曲のサウンドメイク（3）仕上げ <準備・課題>ここまでの操作・知識を復習する（0.5～1h）						
14	サウンドメイクの周辺知識（1）PAについて <準備・課題>PAについて知識を復習する（0.5～1h）						
15	サウンドメイクの周辺知識（2）DAW・スマートツールの活用～サウンドの共有について <準備・課題>DAW・スマートツールの活用～サウンドの共有について知識を復習する（0.5～1h）						
時間外での学修	各回の演習で学ぶ電子オルガンの操作は、同様の操作を繰り返し経験していくことで身につくものです。演習で取り扱った内容は、日頃から積極的に操作してみるようにしましょう。また、演習で得た知識は、電子オルガンに限らず、現代の様々な音楽の表現手法につながります。身の回りの音楽ではどのように活用されているか、常に意識して音楽と接すると良いでしょう。						
受講学生へのメッセージ	細かい操作や耳馴染みのない用語が多く登場するかもしれませんが、実はいずれも身近にある音楽に深く関わっているものです。電子音楽の視点から、様々な音楽のサウンドを多角的に探求してみましょう。[オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度						

【MB】演奏グレード対策(ピアノA) I		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	ピアノグレード試験官・25年、音楽講師・30年						
授業内容	ヤマハの演奏グレードの項目の実習 主に、即興演奏、初見演奏の実習を行います。						
授業方法	グループレッスンですが、各々のレベルに合わせて個別指導もおこないます。						
到達目標	知識・理解	変奏の方法を理解し、まとめられる。			○		
	思考・判断・表現	即興課題を音楽的に演奏できる。			○		
	技能	その場で思った通りに即興演奏できる力をつける。			◎		
	関心・意欲・態度	課題に積極的に取り組む。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	受講態度		-	-	-	15	15
	課題に対する練習状況		-	-	-	15	15
	合計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項							
テキスト	『						
参考書・教材	授業開始後提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 即興演奏の要素について [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(3~6h)						
2	バスの進行について [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(3~6h)						
3	コードネームについて [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(3~7h)						
4	伴奏形について [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
5	変奏の仕方について [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
6	曲の構成について [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(3~6h)						
7	まとめ方 [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
8	重音奏について [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
9	モチーフ即興について [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(3~5h)						
10	実習 [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
11	実習 [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
12	実習 [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
13	実習 [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
14	実習 試験に向けての取り組み [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(6~9h)						
15	実習 試験に向けての取り組み [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(6~7h)						
時間外での学修	学習した事を毎日トレーニングしましょう。						
受講学生へのメッセージ	苦手意識を持たないで、積極的にとりくみましょう。 オフィスアワーは、講義後教室にて行います。						

【MS】演奏グレード対策(ピアノA)Ⅱ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	ピアノグレード試験官・25年、音楽講師・30年						
授業内容	引き続き、ヤマハのグレードの項目、即興演奏の基礎から応用まで、個々のレベルに合わせて勉強します。変奏パターンの定着と演奏表現を学びます。初見演奏のポイントを理解し練習します。						
授業方法	グループレッスンですが、個別にも指導します。						
到達目標	知識・理解	変奏の方法を理解し、まとめられる。			○		
	思考・判断・表現	即興課題を音楽的に演奏できる。			○		
	技能	その場で思った通りに即興演奏できる力をつける。			◎		
	関心・意欲・態度	課題に積極的に取り組む。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	受講態度		-	-	-	15	15
	課題に対する練習状況		-	-	-	15	15
	合計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項							
テキスト	ありません。						
参考書・教材	そのつど提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	前期の復習と確認 カデンツ、コードネーム について [準備、課題]学んだ事を理解し復習する。課題に取り組む。(3~5h)						
2	伴奏付け 変奏の仕方について 確認 [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(3~5h)						
3	バス進行について確認 [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
4	もりあげ方について [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
5	クライマックスをどこにおくか [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
6	モチーフ即興実習 [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
7	Bの和音進行について [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
8	形式について 色々な拍子におけるまとめ方 [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
9	モチーフの発展の仕方について [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
10	和音進行と配置について [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
11	まとめ方について [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
12	即興演奏A課題実習 (試験に向けて) [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
13	即興演奏B課題実習 (試験に向けて) [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
14	初見演奏の予見について [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
15	初見演奏実習 [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5~7h)						
時間外での学修	学習した事を毎日繰り返し練習しましょう。						
受講学生へのメッセージ	苦手意識を持たないで、積極的に取り組みましょう。 オフィスアワーは、講義後教室にて行います。						

【MB】演奏グレード対策(ピアノB) I		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	カワイピアノ演奏グレードの課題である和音記号付きメロディー&ベース、コード&ベースなどの伴奏付けを学修します。そのために必要な調や和音記号、コードネームなどの基礎知識を理解し、実習しながら修得します。						
授業方法	演習を中心として、伴奏付けの知識の理解を深めながら、一人ずつ演奏・指導して授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	調性、和音、コードネームなどの基礎知識を理解することができる。			○		
	思考・判断・表現	課題に適したベースやコードを的確に判断して演奏することができる。			◎		
	技能	調性感や和声感をもって演奏することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	積極的に取り組み、技術修得のための努力を継続することができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	40	30	-	70
	受講態度		20	-	-	10	30
	合計(点)		20	40	30	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『キーボードトレーニング集A』カワイ出版(1,512円)ISBN:4-7609-7477-6						
参考書・教材	必要に応じて配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	カワイピアノ演奏グレードについて 調・調号・和音記号・コードネームについて [準備・課題] これまでに学んだことのある楽典を復習し、調・調号・和音記号・コードネームを理解する(1h)						
2	固有和音：I・IV・V(1) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、I・IV・Vが演奏できるようにする(1h)						
3	固有和音：I・IV・V(2) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、I・IV・Vが確実に演奏できるようにする(1h)						
4	固有和音：VI・II・III(1) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、VI・II・IIIが演奏できるようにする(1h)						
5	固有和音：VI・II・III(2) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、VI・II・IIIが確実に演奏できるようにする(1h)						
6	借用和音：ドッペルドミナント(1) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントが演奏できるようにする(1h)						
7	借用和音：ドッペルドミナント(2) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントが演奏できるようにする(1h)						
8	借用和音：ドッペルドミナント(3) 復習 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントが確実に演奏できるようにする(1h)						
9	その他の借用和音：副属七の和音(1) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、副属七の和音が演奏できるようにする(1h)						
10	その他の借用和音：副属七の和音(2) (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、副属七の和音が演奏できるようにする(1h)						
11	その他の借用和音：副属七の和音(3) 復習 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、副属七の和音が確実に演奏できるようにする(1h)						
12	転回形によるベース(1) I・IIの第1転回形 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、I・IIの第1転回形が演奏できるようにする(1h)						
13	転回形によるベース(2) I-IVの第2転回形-I、IVの第2転回形→Vの第1転回形 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、IVの第2転回形、Vの第1転回形が演奏できるようにする(1h)						
14	転回形によるベース(3) IVの第1転回形、属七の和音の第1・2・3転回形 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、IVの第1転回形、属七の和音の第1・2・3転回形が演奏できるようにする(1h)						
15	まとめ・受験対策 (課題の確認) [準備・課題] 前期に学修した内容を復習し、受験に向けて準備をする(1h)						
時間外での学修	授業で学んだことを必ず復習しましょう。毎日の積み重ねが大切です。						
受講学生へのメッセージ	基礎的知識の理解ができていないと実践ができません。積極的に理解に努め、スムーズに演奏できるよう努力をしましょう。 オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。						

【MS】演奏グレード対策(ピアノB)Ⅱ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	前期に引き続き、カワイピアノ演奏グレードの課題である和音記号付きメロディー&ベース、コード&ベースなどの伴奏付けを学修します。修得した知識と技術を活かし、さらに発展していきます。						
授業方法	演習を中心として、伴奏付けの知識の理解を深めながら、一人ずつ演奏・指導して授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	調性、和音、コードネームなどの基礎知識を理解することができる。			○		
	思考・判断・表現	課題に適したベースやコードを的確に判断して演奏することができる			◎		
	技能	調性感や和声感をもって演奏することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	積極的に取り組み、技術修得のための努力を継続することができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	40	30	-	70
	受講態度		20	-	-	10	30
	合計(点)		20	40	30	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『キーボードトレーニング集B』カワイ出版(1,512円)ISBN:4-7609-7478-4						
参考書・教材	必要に応じて配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	前期の復習 転回形によるベース(1) I・IIの第1転回形 [準備・課題] 前期に学修した内容を復習し、I・IIの第1転回形が確実に演奏できるようにする(1h)						
2	転回形によるベース(2) I-IVの第2転回形-I、IVの第2転回形→Vの第1転回形(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、IVの第2転回形、Vの第1転回形が確実に演奏できるようにする(1h)						
3	転回形によるベース(3) IVの第1転回形、属七の和音の第1・2・3転回形(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、IVの第1転回形、属七の和音の第1・2・3転回形が演奏できるようにする(1h)						
4	固有和音(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、固有和音が演奏できるようにする(1h)						
5	借用和音(1) ドッペルドミナント、IIの第1転回形(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナント、IIの第1転回形が演奏できるようにする(1h)						
6	借用和音(2) IVマイナー、IVマイナーの第2転回形(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、IVマイナー、IVマイナーの第2転回形が演奏できるようにする(1h)						
7	借用和音(3) 副属七の和音の第1転回形①(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、副属七の和音の第1転回形が演奏できるようにする(1h)						
8	借用和音(4) 副属七の和音の第1転回形②、ドッペルドミナントの第1転回形①(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、副属七の和音の第1転回形、ドッペルドミナントの第1転回形が演奏できるようにする(1h)						
9	借用和音(5) 副属七の和音の第1転回形③、ドッペルドミナントの第1転回形②(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、副属七の和音の第1転回形、ドッペルドミナントの第1転回形が演奏できるようにする(1h)						
10	借用和音(6) 副属七の和音の第1転回形④(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、副属七の和音の第1転回形が演奏できるようにする(1h)						
11	復習、ディミニッシュ(1)(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、復習のページ、ディミニッシュが演奏できるようにする(1h)						
12	復習、ディミニッシュ(2)(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、復習のページ、ディミニッシュが確実に演奏できるようにする(1h)						
13	転調(1)(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、転調が演奏できるようにする(1h)						
14	転調(2)(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、転調が確実に演奏できるようにする(1h)						
15	まとめ、受験対策(課題の確認) [準備・課題] 後期に学修した内容を復習し、受験に向けて準備をする(1h)						
時間外での学修	授業で学んだことを必ず復習しましょう。毎日の積み重ねが大切です。						
受講学生へのメッセージ	基礎知識を確実に理解し、応用できるように努めましょう。オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。						

【MB】演奏グレード対策(電子オルガン) I		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	石原 朱実					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業内容	演奏グレード即興A、Bモチーフ即興 5級程度の課題演習 基礎編 (オルタネートベース、カウンター奏、メロディフェイク、ブロック奏)					
授業方法	テキストの項目順に基礎作りのためのトレーニング、カデンツ、スケールetc. # b 3つまでコードパターントレーニング					
到達目標	知識・理解	即興演奏とは何かを理解する。 音楽の形式、構造、和声の仕組みを理解できる。 即興A、新曲の形式を捉え、曲想を把握できる。			○	
	思考・判断・表現	与えられたテーマから曲想を読み取りリズムを感じられるようにする。			○	
	技能	楽譜を指示通り弾くのみでなく、自分なりのアレンジ演奏ができる。			◎	
	関心・意欲・態度	自分なりのアレンジ演奏ができるという喜びを感じるようになる。			◎	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	20	20	20	10	70
	受講態度 (課題消化)	-	-	10	20	30
	合計(点)	20	20	30	30	100
評価の特記事項						
テキスト	『エレクトーン即興演奏法基礎編』財団法人ヤマハ音楽振興会(1,404円) ISBN:4636134877					
参考書・教材	その他はコピーで渡します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	即興演奏とは何か A新曲課題 Bモチーフ即興 [準備・課題] 即興演奏とは何かをしっかりと理解して課題に取り組む(1~2h)					
2	即興における基礎トレーニング、コードネーム、カデンツ、スケールの確認 [準備・課題]コードネーム、カデンツ、スケールなど基礎トレーニングをこなし定着させる(1~2h)					
3	オルタネーティングベースについて I→V7 I→II7→V7 I→IV→V7 基本的ラインの説明 [準備・課題] オルタネーティングベースを復習し定着させる(1~2h)					
4	コードパターンによる演習 [準備・課題]学んだ内容を活かして課題演習する(1~2h)					
5	カウンターラインとは? 指導筆記グレードとの共通性について [準備・課題]カウンターラインを復習し定着させる(1~2h)					
6	コードパターンによる演習 [準備・課題]今まで学んだ内容を定着させる(1~2h)					
7	即興A新曲演奏:形式、構造、リズムの捉え方 [準備・課題]形式、構造、リズムの捉え方をしっかりと理解して即興演奏に繋げる(1~2h)					
8	リズムパターンの説明:ラテン(ビギン、ルンバ)スウィング、ロック(8,16ビート)ワルツ [準備・課題]各リズムパターンを復習し、定着させる(1~2h)					
9	既成曲をコピーして渡し、それを演奏する [準備・課題]今まで学んだ内容をしっかりと復習して演習課題に取り組む(1~2h)					
10	メロディーフェイクについて [準備・課題]メロディーフェイクを演習する(1~2h)					
11	課題による演習 [準備・課題]今まで学んだ内容の復習と演習(1~2h)					
12	ブロック奏とは? メロディにその他のパートを付ける方法 [準備・課題]ブロック奏の復習(1~2h)					
13	課題による演習 [準備・課題]今まで学んだ内容の理解を深め即興演奏に繋げる(1~2h)					
14	課題による演習 [準備・課題]今まで学んだ内容の理解を深め即興演奏に繋げる(1~2h)					
15	即興A新曲演奏のまとめ、個人チェック [準備・課題]即興演奏に習熟する(1~2h)					
時間外での学修	多くの音楽を注意深く聴き、多くの良質のアレンジ譜を演奏する中でフィーリングを培っていく。					
受講学生へのメッセージ	ひたすら粘り強く、着実に練習してください。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40~12:55です。					

【MS】演奏グレード対策(電子オルガン)Ⅱ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	石原 朱実						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	即興演奏A：前期に学んだ基礎の確認と応用 即興演奏B：モチーフ即興の演習と5級程度の課題実習						
授業方法	前期に学んだスケール、カデンツ、コード進行の基礎確認と演奏グレード5級実技試験問題集の実習						
到達目標	知識・理解	即興演奏を通じて楽曲構成と和声進行、リズム etc. を理解し、内容を即座に捉え演奏できるようにする。			○		
	思考・判断・表現	演奏グレード5級程度の課題に、音楽として曲想、表現力をつけられる。			○		
	技能	楽譜を指示通り弾くのみでなく、自分なりのアレンジ演奏ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	自分なりのアレンジ演奏ができるという喜びを感じるようになる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	20	20	10	70
	受講態度		-	-	10	20	30
	合計(点)		20	20	30	30	100
評価の特記事項							
テキスト	『エレクトーン演奏グレード5級 試験問題一覧2013～2015年』財団法人ヤマハ音楽振興会(1,080円) ISBN:9784864617185						
参考書・教材	コピーにて渡します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	前期で学んだ基礎項目(オルタネートベース・カウンターライン・リズム設定)の確認 [準備・課題]オルタネートベース・カウンターライン・リズム設定などの項目を復習し定着させる(1～2h)						
2	モチーフ即興について 曲の構成・2部3部形式 [準備・課題]モチーフ即興の曲の構成を復習する(1～2h)						
3	2小節程度のモチーフの発展の仕方 [準備・課題]モチーフの発展の仕方を復習し、演習する(1～2h)						
4	反復進行、ゼクエントについて [準備・課題]反復進行、ゼクエントを理解し、即興に活かす(1～2h)						
5	メロディーの反復とコード進行の反復について [準備・課題]反復を復習、理解し、定着させる(1～2h)						
6	サビのメロディーの作り方とコードパターンの説明 [準備・課題]サビのメロディーの作り方とコードパターンを復習し、それを活かした即興演習をする(1～2h)						
7	課題の演習 [準備・課題]今まで学んだ内容の復習と演習(1～2h)						
8	課題の演習 [準備・課題]課題演習に取り組む(1～2h)						
9	個人チェック 前もって与えられた課題を発表 [準備・課題]今まで学んだ内容を復習し、練習課題に取り組む(1～2h)						
10	過去の問題集より実習 [準備・課題]学んだ内容の復習と演習(1～2h)						
11	初見演奏とは [準備・課題]初見演奏の課題をこなす(1～2h)						
12	課題の演習 [準備・課題]学んだ内容の復習と課題の演習(1～2h)						
13	即興A 新曲演奏のまとめ [準備・課題]今まで学んだ内容を復習し、即興演奏の課題に取り組む(1～2h)						
14	即興B モチーフ即興のまとめ [準備・課題]即興の内容を理解定着させ、演習に取り組む(1～2h)						
15	実際の試験と同様、緊張感の中での即興演奏 [準備・課題]今まで学んだ内容の総復習(1～2h)						
時間外での学修	前期と同じく、多くの音楽を聴き、その曲の構成・和声進行をアナライズし、即興演奏に応用できるようにする。						
受講学生へのメッセージ	#b3つまでの長短調スケール・カデンツは確実にできるようにすること。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。						

【MB】指導グレード対策A I		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	石原 朱実						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	指導グレード 筆記・実技試験に向けての内容理解 課題問題のアナリゼ、基本トレーニング						
授業方法	演習授業で、1人ずつ指導を行います。 課題実習と過去問題集の分析、キーボードハーモニーの実習、コードトレーニング						
到達目標	知識・理解	指導グレード5級を目指し、同程度の問題の理解と実習ができる			◎		
	思考・判断・表現	指導グレード5級を目指し、同程度の問題の理解と実習ができる			◎		
	技能	ソルフェージュ力をつけ、楽譜を見て頭で音を鳴らすことができるようにする			○		
	関心・意欲・態度	筆記・実技演習を通して個々のハーモニーの理解と楽曲の解釈、演奏に繋げる			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		15	15	10	-	40
	実技試験		15	15	10	-	40
	受講態度(課題消化)		-	-	-	20	20
	合計(点)		30	30	20	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『指導グレード5・4・3級実技試験問題一覧 2013～2015年実施』ヤマハミュージックメディア(1,296円) ISBN:978-4-864617-42-0 『指導グレード5・4・3級筆記試験問題一覧 2013～2015年実施』ヤマハミュージックメディア(1,404円) ISBN:978-4-864617-43-7						
参考書・教材	その他の資料はコピーを渡します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	コードネームの理解、スケール・カデンツ# b 3つまで [準備・課題]コードネーム及び# b 3つのスケールカデンツを定着させる(1～2h)						
2	キーボードハーモニーとは? コード進行法 パターンの色々 [準備・課題]コード進行のパターンを覚える(1～2h)						
3	コードトレーニング、基本進行 I IV V I 各調に移調 [準備・課題]基本進行 I IV V I 各調に移調奏する(1～2h)						
4	コードトレーニング、基本進行 I IV V I 各調に移調 [準備・課題]学んだ内容の復習(1～2h)						
5	伴奏付けの基本マスター ベース進行法 [準備・課題]伴奏付けの基本を練習し、定着させる(1～2h)						
6	伴奏付けの基本マスター ベース進行法 [準備・課題]学んだ内容の復習(1～2h)						
7	伴奏付けの応用パターン トレーニング [準備・課題]応用パターンを反復練習する(1～2h)						
8	伴奏付けの応用パターン トレーニング [準備・課題]学んだ内容の復習(1～2h)						
9	筆記試験問題 課題 音程の確認 基本 [準備・課題]課題を練習する(1～2h)						
10	応用問題 課題 [準備・課題]学んだ内容の復習(1～2h)						
11	ソルフェージュ メロディ視唱 発声法 [準備・課題]メロディの新曲課題などを練習する(1～2h)						
12	弾き歌いに用いられるコードパターン [準備・課題]コードパターンの復習及び弾き歌いの課題に取り組む(1～2h)						
13	課題の分析と実習 [準備・課題]学んだ内容の復習(1～2h)						
14	前期のまとめとして、コード進行・キーボードハーモニーの確認 [準備・課題]今まで学んだ内容の復習(1～2h)						
15	筆記試験 第16回目:実技試験 [準備・課題]今まで学んだ内容の総復習をする(1～2h)						
時間外での学修	個々のピアノ、電子オルガンでのレパートリー曲集などアナリゼして、曲の構成を日頃から理解できるようにする。						
受講学生へのメッセージ	毎回授業で与えられた課題の復習、ドリルを欠かさずにやる事。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。						

【MS】指導グレード対策AⅡ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	石原 朱実						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	指導グレード：筆記・実技試験に向けての実習 筆記試験問題（コード進行法、カウンター、楽典）						
授業方法	演習授業で、1人ずつ指導を行います。 過去の問題集、新曲、キーボードトレーニング						
到達目標	知識・理解	指導グレード・5級程度の問題消化（実技・筆記）			◎		
	思考・判断・表現	個々にハーモニー、楽曲の解釈が身につけている事			◎		
	技能	ソルフェージュ力、楽譜を読み解く力を向上させ、演奏に繋げられるようにする			○		
	関心・意欲・態度	実際の試験と同じ緊張感の中で問題の消化ができる事			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		15	15	10	-	40
	実技試験		15	15	10	-	40
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		30	30	20	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『指導グレード5・4・3級実技試験問題一覧 2013～2015年実施』ヤマハミュージックメディア(1,296円) ISBN:978-4-864617-42-0 『指導グレード5・4・3級筆記試験問題一覧 2013～2015年実施』ヤマハミュージックメディア(1,404円) ISBN:978-4-864617-43-7 「指導グレード対策AⅠ」履修者は購入済						
参考書・教材	コピーにて渡します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	コード進行法、借用和音の説明 [準備・課題]借用和音について理解を深める(1～2h)						
2	借用和音を取り入れたパターンの説明 [準備・課題]借用和音を含んだコードの練習をする(1～2h)						
3	ベースライン、カウンターラインの効果的な使い方 [準備・課題]ベースライン、カウンターラインについて理解する(1～2h)						
4	ベースライン、カウンターラインの効果的な使い方 [準備・課題]ベースライン、カウンターラインの課題を練習する(1～2h)						
5	基本パターンの個人チェック [準備・課題]今まで学んだ内容を復習し、練習課題に取り組む(1～2h)						
6	カウンターライン、筆記問題への導入 [準備・課題]今まで学んだ内容を復習し、練習課題に取り組む(1～2h)						
7	応用問題の実習 [準備・課題]今まで学んだ内容を復習し、練習課題に取り組む(1～2h)						
8	コード進行法、カウンターラインの確認 [準備・課題]コード進行法、カウンターライン復習練習する(1～2h)						
9	課題の演習 [準備・課題]今まで学んだ内容の復習(1～2h)						
10	実技問題 伴奏付け・新曲視唱、弾き歌い [準備・課題]伴奏付け・新曲視唱、弾き歌いの課題に取り組む(1～2h)						
11	聴音、移調奏の導入 [準備・課題]移調奏の課題を色々な調に移調する(1～2h)						
12	問題の演習 [準備・課題]今まで学んだ内容全般の理解と復習(1～2h)						
13	問題の演習 [準備・課題]今まで学んだ内容の復習と練習(1～2h)						
14	筆記・実技試験における問題の最終チェック [準備・課題]今まで学んだ内容の復習(1～2h)						
15	実際の指導グレード試験と同じく全科目の筆記試験 ※定期試験時に実技試験を実施する [準備・課題]学んだ内容の総復習、及び自分の中に定着させる(1～2h)						
時間外での学修	前期と同じく個々のレパートリー曲の構成とアナリゼを必ずする事。						
受講学生へのメッセージ	課題の反復と、キーボードハーモニー、コードトレーニングを欠かさない事。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。						

【MB】指導グレード対策B I		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	横井 香織					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業内容	カワイピアノ指導グレードの内容である、音楽用語、楽語、音程、和音記号・コードネーム、音階などの知識を修得し、聴音を学修します。					
授業方法	演習を中心に、音楽的知識の理解を深め、問題を解きながら授業を展開していきます。					
到達目標	知識・理解	クラシック音楽を中心とした音楽に関連する知識を理解することができる。			◎	
	思考・判断・表現	音楽の指導者に必要な思考力・判断力を身に付けることができる。			△	
	技能	音楽聴取能力と楽譜を正確に記述する能力を身に付けることができる。			◎	
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	40	-	40	-	80
	受講態度	-	10	-	10	20
	合計(点)	40	10	40	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『音楽用語ハンドブック<改訂版>』カワイ出版(1,728円) ISBN:978-4-7609-5019-5 『キーボード・アレンジ ピアノ篇』カワイ出版(2,700円) ISBN:4-7609-7621-3					
参考書・教材	必要に応じて配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業説明 音名、音程、調について／聴音 [準備・課題] 音名、音程、調性などの基礎的知識を理解する (1h)					
2	音楽用語 (1) 【あ】～【い】／楽語 (1) P.142～P.143／音階／聴音 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、音楽用語・楽語を覚え、音階について理解をする (1h)					
3	音楽用語 (2) 【う】～【お】／楽語 (2) P.143～P.144／和音／聴音 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、音楽用語・楽語を覚え、和音について理解する (1h)					
4	音楽用語 (3) 【お】～【き】／楽語 (3) P.144～P.145／音階と和音／聴音 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、音楽用語・楽語を覚え、音階と和音について理解する (1h)					
5	音楽用語 (4) 【く】～【し】／楽語 (4) P.145～P.146／コードネーム (1) 3和音①／聴音 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、音楽用語・楽語を覚え、3和音とそのコードネームについて理解する (1h)					
6	音楽用語 (5) 【し】～【そ】／楽語 (5) P.146～P.147／コードネーム (2) 3和音②／聴音 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、音楽用語・楽語を覚え、3和音とそのコードネームについて理解する (1h)					
7	音楽用語 (6) 【そ】～【つ】／楽語 (6) P.148／コードネーム (3) 7の和音①／聴音 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、音楽用語・楽語を覚え、7の和音とそのコードネームについて理解する (1h)					
8	音楽用語 (7) 【て】～【は】／楽語 (7) P.149／コードネーム (4) 7の和音②／聴音 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、音楽用語・楽語を覚え、7の和音とそのコードネームについて理解する (1h)					
9	音楽用語 (8) 【は】～【ふ】／楽語 (8) P.150～P.151／コードネーム (5) その他の4和音①／聴音 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、音楽用語・楽語を覚え、その他の4和音とそのコードネームについて理解する (1h)					
10	音楽用語 (9) 【へ】～【ろ】／楽語 (9) P.151～P.152／コードネーム (6) その他の4和音②／聴音 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、音楽用語・楽語を覚え、その他の4和音とそのコードネームについて理解する (1h)					
11	音楽用語 (10) 復習①／楽語 (10) 復習①／楽典問題 (1) 音程の確認／聴音 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、音楽用語・楽語を確実に覚え、音程について確実に理解する (1h)					
12	音楽用語 (11) 復習②／楽語 (11) 復習②／楽典問題 (2) コードネームの確認／聴音 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、音楽用語・楽語を確実に覚え、コードネームについて確実に理解する (1h)					
13	音楽用語 (12) 復習③／楽語 (12) 復習③／楽典問題 (3) 和音記号の確認／聴音 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、音楽用語・楽語を確実に覚え、和音記号について確実に理解する (1h)					
14	音楽用語 (13) 復習④／楽語 (13) 復習④／楽典問題 (4) 音階の確認／聴音 (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、音楽用語・楽語を確実に覚え、音階について確実に理解する (1h)					
15	音楽用語 (14) 復習⑤／楽語 (14) 復習⑤／楽典問題 (5) 総合問題／聴音／まとめ (課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、音楽用語・楽語を確実に覚え、受験に向けて準備をする (1h)					
時間外での学修	自主的に様々な問題を数多く解きましょう。					
受講学生へのメッセージ	分からないことは質問するなどし、必ず解決しましょう。 オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。					

【MS】指導グレード対策BⅡ		音楽総合学科		1年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	横井 香織					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業内容	前期の内容に加え、カワイピアノ指導グレードの内容である、音楽用語、楽曲の知識、コードネーム、調判定・移調、楽曲分析などの知識を修得し、聴音を学修します。					
授業方法	演習を中心に、音楽的知識の理解を深め、問題を解きながら授業を展開していきます。					
到達目標	知識・理解	クラシック音楽を中心とした音楽に関連する知識を理解することができる。			◎	
	思考・判断・表現	音楽の指導者に必要な思考力・判断力を身に付けることができる。			△	
	技能	音楽聴取能力と楽譜を正確に記述する能力を身に付けることができる。			◎	
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	40	-	40	-	80
	受講態度	-	10	-	10	20
	合計(点)	40	10	40	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『音楽用語ハンドブック<改訂版>』カワイ出版(1,728円)ISBN:978-4-7609-5019-5 『キーボード・アレンジ ピアノ篇』カワイ出版(2,700円)ISBN:4-7609-7621-3					
参考書・教材	必要に応じて配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	曲種(1)【あ】～【お】／作品と作曲家(1)組曲①／コード・調判定・移調(1)／ 楽曲分析(1) 楽曲形式を生み出す諸要素／聴音 [準備・課題] 学修した内容を復習し、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する(1h)					
2	曲種(2)【か】～【く】／作品と作曲家(2)組曲②／コード・調判定・移調(2)／ 楽曲分析(2) 器楽の諸形式／聴音(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する(1h)					
3	曲種(3)【け】～【さ】／作品と作曲家(3)組曲③／コード・調判定・移調(3)／ 楽曲分析(3) 終止について／聴音(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する(1h)					
4	曲種(4)【し】～【つ】／作品と作曲家(4)歌劇曲①／コード・調判定・移調(4)／ 楽曲分析(4)／聴音(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する(1h)					
5	曲種(5)【て】～【は】／作品と作曲家(5)歌劇曲②／コード・調判定・移調(5)／ 楽曲分析(5)／聴音(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する(1h)					
6	曲種(6)【ふ】～【ま】／作品と作曲家(6)歌劇曲③／コード・調判定・移調(6)／ 楽曲分析(6)／聴音(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する(1h)					
7	曲種(7)【み】～【わ】／作品と作曲家(7)ピアノ協奏曲／コード・調判定・移調(7)／ 楽曲分析(7)／聴音(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する(1h)					
8	曲種(8)復習① 各種名称／作品と作曲家(8)ヴァイオリン協奏曲／コード・調判定・移調(8)／ 楽曲分析(8)／聴音(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する(1h)					
9	曲種(9)復習② 各種名称／作品と作曲家(9)弦楽曲／コード・調判定・移調(9)／ 楽曲分析(9)／聴音(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する(1h)					
10	曲種(10)復習③ 器楽・器楽合奏に関するもの／作品と作曲家(10)歌曲／コード・調判定・移調 (10)／楽曲分析(10)／聴音(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する(1h)					
11	曲種(11)復習④ 声楽に関するもの／作品と作曲家(11)ピアノ曲①／コード・調判定・移調(11)／ 楽曲分析(11)／聴音(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する(1h)					
12	曲種(12)復習⑤ 舞曲／作品と作曲家(12)ピアノ曲②／コード・調判定・移調(12)／ 楽曲分析(12)／聴音(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する(1h)					
13	曲種(13)復習⑥ 組曲／作品と作曲家(13)ピアノ曲③／コード・調判定・移調(13)／ 楽曲分析(13)／聴音(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する(1h)					
14	曲種(14)復習⑦ 色々な性格楽曲／作品と作曲家(14)ピアノ曲④／コード・調判定・移調(14)／ 楽曲分析(14)／聴音(課題の確認) [準備・課題] 学修した内容を復習し、曲種・作品を覚え、楽典・楽曲分析について理解する(1h)					
15	まとめ・受験対策(課題の確認) [準備・課題] 後期に学修した内容を復習し、受験に向けて準備をする(1h)					
時間外での学修	自主的に様々な問題を数多く解きましょう。					
受講学生へのメッセージ	分からないことは質問するなどし、必ず解決しましょう。 オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。					

【MB】和声学 I		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業内容	指導グレードに必要な和声学を身に付け、グレード取得を目指します。						
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。						
到達目標	知識・理解	和声の基礎的な知識を身に付ける。			◎		
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。			○		
	技能	グレード取得により、社会的評価を得る。			○		
	関心・意欲・態度	和声の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		50	20	20	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		50	20	20	10	100
評価の特記事項	欠席は、減点とし、3分の1以上欠席した学生には、単位を与えません。						
テキスト	『和声 理論と実習 I』島岡 譲 他 音楽之友社(3,024円)ISBN:978-4276102057						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	和声学の予備知識 [課題]教科書を購入して、読んでみましょう。(1h)						
2	基本位置3和音の配置 [課題]課題1.2を解いてみましょう。(1h)						
3	基本位置3和音の配置 [課題]課題3.4を解いてみましょう。(1h)						
4	基本位置3和音の配置 [課題]課題5(II→V)を解いてみましょう。(1h)						
5	基本位置3和音の配置 [課題]課題6(V→VI)を解いてみましょう。(1h)						
6	和音設定の原理 [課題]課題7(T,D,S)を解いてみましょう。(1h)						
7	和音設定の原理 [課題]課題8(複合カデンツ)を解いてみましょう。(1h)						
8	和音設定の原理 [課題]課題9(終止形)を解いてみましょう。(1h)						
9	各種の調(長調) [課題]課題10を解いてみましょう。(1h)						
10	各種の調(短調) [課題]課題11を解いてみましょう。(1h)						
11	各種の調(総合) [課題]課題12を解いてみましょう。(1h)						
12	補充課題 [課題]3和音基本位置(1~3)を解いてみましょう。						
13	補充課題 [課題]3和音基本位置(4~6)を解いてみましょう。(1h)						
14	補充課題 [課題]3和音基本位置(7~10)を解いてみましょう。(1h)						
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(1h)						
時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。						
受講学生へのメッセージ	和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【MS】和声学Ⅱ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業内容	指導グレードに必要な和声学を身に付け、グレード取得を目指します。						
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。						
到達目標	知識・理解	和声の基礎的な知識を身に付ける。			◎		
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。			○		
	技能	グレード取得により、社会的評価を得る。			○		
	関心・意欲・態度	和声の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		50	20	20	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		50	20	20	10	100
評価の特記事項	欠席は、減点とし、3分の1以上欠席した学生には、単位を与えません。						
テキスト	『和声 理論と実習 I』音楽之友社(3,024円) ISBN:978-4276102057 「和声学 I」履修者は購入済						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	3和音の第1転回位置 [課題]課題13,14,15を解いてみましょう。(1h)						
2	3和音の第1転回位置 [課題]課題16,17,18を解いてみましょう。(1h)						
3	3和音の第1転回位置 [課題]課題19(1~4)を解いてみましょう。(1h)						
4	3和音の第1転回位置 [課題]課題19(5~8)を解いてみましょう。(1h)						
5	3和音の第1転回位置 [課題]課題19(9~12)を解いてみましょう。(1h)						
6	補充課題の実習(3和音の第1転回位置) [課題]課題(1~5)を解いてみましょう。(1h)						
7	補充課題の実習(3和音の第1転回位置) [課題]課題(6~10)を解いてみましょう。(1h)						
8	3和音の第2転回位置 [課題]課題20,21,22,23を解いてみましょう。(1h)						
9	3和音の第2転回位置 [課題]課題24(1~6)を解いてみましょう。(1h)						
10	3和音の第2転回位置 [課題]課題24(7~12)を解いてみましょう。(1h)						
11	補充課題の実習(3和音の第2転回位置) [課題]課題(1~5)を解いてみましょう。(1h)						
12	補充課題の実習(3和音の第2転回位置) [課題]課題(6~10)を解いてみましょう。(1h)						
13	補充課題の実習(3和音総合) [課題]課題(1~5)を解いてみましょう。(1h)						
14	補充課題の実習(3和音総合) [課題]課題(6~10)を解いてみましょう。(1h)						
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(1h)						
時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。						
受講学生へのメッセージ	和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【MS】音楽総合特講 I		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	鈴木 孝育・矢田貝 真一						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	音楽の学びを深めていくために基礎的な教養の涵養を図るとともに、音楽に関して学んだ成果を公務として直接生かしていける職業（音楽活動によって職務を果たす自衛隊音楽隊・警察音楽隊・消防音楽隊などの公務員）に求められる基本的な教養についての理解を図ります。また音楽隊の隊員もしくは人事担当者、公務員対策の外部講師をゲスト・スピーカーとして招き、活動や求められる資質等の基本について理解を図ります。音楽隊以外の公務員希望者にとってもきわめて有意義な学修内容です。						
授業方法	高校までの国語・社会・数学の基礎的な内容について復習を行い、教養として必要な基本的事項の理解と定着を図ります。そのための教材として、実際の採用試験の問題等を活用しながら、学修を進めていきます。また、作文・面接試験についての説明・対策も行います。						
到達目標	知識・理解	音楽を学ぶ基盤となる国語、社会、数学についての基礎的な知識と社会人に教養として求められる知識を身につける。			◎		
	思考・判断・表現	復習した基礎的な知識を、音楽活動に必要な思考力や判断力、表現力を培うために活用させようと努力できる。			○		
	技能	音楽を学ぶために必要な教養の一つとして、知的操作や技法の基礎を身につける。			△		
	関心・意欲・態度	音楽を学ぶために必要となる豊かな教養を一層高められるよう、積極的に継続した学びの態度を身につけることができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	10	-	-	50
	学修記録表		10	10	5	-	25
	学修成果の自己評価		-	-	5	10	15
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		50	20	10	20	100	
評価の特記事項	受講態度は、学修・提出などの状況で評価します。 欠席は減点とし、授業回数の3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『短大生・専門学校生の就職筆記試験対策 一般常識チェック&マスター 改訂版』 山野晴雄 他著 実教出版(857円) ISBN:978-4-407-32160-9 授業で指示します。						
参考書・教材	授業で指示もしくは配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス：授業の目的と目標、授業の進め方や学修活動、準備物の説明、確認テスト [課題・準備]確認テストの復習と次時内容の予習を確実にを行う (3~5h)						
2	地理1・漢字1の定着と発展 [課題・準備]地理1・漢字1の復習と次時内容の予習を確実にを行う (3~5h)						
3	式の計算1・漢字2の定着と発展 [課題・準備]式の計算1・漢字2の復習と次時内容の予習を確実にを行う (3~5h)						
4	地理2・漢字3の定着と発展 [課題・準備]地理2・漢字3の復習と次時内容の予習を確実にを行う (3~5h)						
5	式の計算2・漢字4の読み書きの定着と発展 [課題・準備]式の計算2・漢字4の復習と次時内容の予習を確実にを行う (3~5h)						
6	日本史1・漢字5の定着と発展 [課題・準備]学日本史1・漢字5の復習と次時内容の予習を確実にを行う (3~5h)						
7	文字式と漢字6の定着と発展 [課題・準備]文字式と漢字6の復習と次時内容の予習を確実にを行う (2~6h)						
8	日本史2と漢字7の定着と発展 [課題・準備]日本史2・漢字7の復習と次時内容の予習を確実にを行う (3~5h)						
9	式の展開・因数分解と同字異読語の定着と発展 [課題・準備]式の展開・因数分解の復習と次時内容の予習を確実にを行う (3~5h)						
10	まとめ(第1回~9回までの学修の確認と定着) [課題・準備]学んだ内容の総合的な復習を確実にを行う (3~5h)						
11	公務員就職支援講座① 就職活動の流れ、心構え、進路希望調査 [準備・課題]個々の就職に対する意識を高め、将来について考える (3h)						
12	公務員就職支援講座② 公務員に適した人材、現在の就職状況 [準備・課題]公務員に適した人材の研究と現在の就職状況の把握、自己についての情報を集める (3h)						
13	公務員就職支援講座③ 自分について知る 進路発見ノート 職業観について グループ討議を行う [準備・課題]自己理解と、職業観についてのまとめ (3h)						
14	公務員試験について(警察音楽隊、自衛隊音楽隊、消防音楽隊) [準備・課題]公務員試験について過去の問題を解く (3~5h)						
15	公務員試験の過去問題演習 [準備・課題]学んだ内容の復習と全体の総合的な復習を確実にを行う (3~5h)						
時間外での学修	学修した問題や課題とされた問題を確実に自主学習し、内容の定着を図ってください。授業以外での学修の取組が希望の実現を確実に左右します。						
受講学生へのメッセージ	音楽を活用する公務員への就職をめざして、採用試験を想定した学修や音楽隊の活動内容を学びます。音楽隊以外の公務員をめざす学生にとっても活用可能な内容です。積極的に学ぼうとする意識をもって受講してください。*授業の順序や内容は、進度等の都合で変更されることがあります。 オフィスアワー：質問等があれば、授業後に担当教員に申し出てください。						

【MB】 ヴォーカル I		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	五島 由美子					
資格・制限等	P・Or・MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修					
実務家教員	声楽家43年、声楽指導40年、合唱指導26年					
授業内容	歌唱を通して音楽の表現力を身に着ける授業です。前期は日本歌曲を取り上げます。四季折々の歌曲を通して、作者の意図・感情移入の表現力を深めていきます。					
授業方法	グルーブレッスンを中心として、お互いの声を聴きながら学びます。					
到達目標	知識・理解	歌唱する上での、作曲家の意図・言葉の表現が理解できる。			◎	
	思考・判断・表現	言葉の由来を理解した上で、音楽的な表現ができる。			◎	
	技能	各自の歌唱技術の問題点を速やかに解決できる。			○	
	関心・意欲・態度	各自の課題に関心を持ち、積極的に努力して学習に取り組むことができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	試験	20	30	10	5	65
	発表・レポート	5	5	5	5	20
	学習成果の自己評価	5	5	-	-	10
	受講態度(学修や提出等の状況)	-	-	-	5	5
	合計(点)	30	40	15	15	100
評価の特記事項						
テキスト	『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『カンターレ』音楽之友社 手持ち可					
参考書・教材	なし					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス 正しい呼吸法 発声の演習 I 正しい姿勢、腹式呼吸について学ぶ			コンコーネ No. 1		
2	正しい呼吸法 発声の演習 II より深い呼吸 美しいフォームを意識する			コンコーネ No. 1		
3	日本歌曲演習 I 作詞・作曲家について学ぶ		花	コンコーネ No. 2		
4	日本歌曲演習 II 日本語の発声・発音について学ぶ		花	コンコーネ No. 2		
5	日本歌曲演習 III 作詞・作曲家について学ぶ		早春賦	コンコーネ No. 3		
6	日本歌曲演習 IV 歌詞の意味を理解し表現ができる		早春賦	コンコーネ No. 3		
7	日本歌曲演習 V 作詞・作曲家について学ぶ		夏の思い出	コンコーネ No. 4		
8	日本歌曲演習 VI 日本語の歌詞とリズムとの関係について学ぶ		夏の思い出	コンコーネ No. 4		
9	日本歌曲演習 VII 作詞・作曲家について学ぶ		浜辺の歌	コンコーネ No. 5		
10	日本歌曲演習 VIII 流れるようなリズムに乗せて歌唱できる		浜辺の歌	コンコーネ No. 5		
11	日本歌曲演習 IX 作詞・作曲家について学ぶ		赤とんぼ	コンコーネ No. 6		
12	日本歌曲演習 X 日本の秋を表現できる		赤とんぼ	コンコーネ No. 6		
13	日本歌曲演習 XI 作詞・作曲家について学ぶ		からたちの花	コンコーネ No. 7		
14	日本歌曲演習 XII 既習の言葉の表現を各自の音楽で表現できる		からたちの花	コンコーネ No. 7		
15	日本歌曲演習 XIII 伴奏者と音楽的コミュニケーションを図る		日本歌曲まとめ			
時間外での学修	毎日発声の訓練を怠らない事					
受講学生へのメッセージ	声楽の勉強は、ピアノ・楽器への応用が著しい課目です。しっかり技術を身につけましょう。 オフィスアワーは授業後教室にて 月曜日12:10~12:30					

【MS】ヴォーカルⅡ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Or・MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修						
実務家教員	声楽家43年、声楽指導40年、合唱指導26年						
授業内容	歌唱を通して、音楽の表現力を高める授業です。後期は外国曲を取り上げます。それぞれの作曲家の意図をくみ取り、言葉と音楽の関係を交え進めていきます。						
授業方法	グループレッスンの中で相互に他声を聴きあい、意見交換をする。						
到達目標	知識・理解	音楽の基礎的な理論や、曲の生まれた背景を理解し、人に音楽を伝えるための知識を習得することが出来る。			◎		
	思考・判断・表現	音楽演奏や教育を行うにあたって、必要な理論を適切に理解し、相手の理解に応じて伝えることが出来る。			◎		
	技能	音楽の専門家としての情報収集能力と技術を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。			○		
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		20	30	10	5	65
	発表・レポート		5	5	5	5	20
	学習成果の自己評価		5	5	-	-	10
	学習態度(学修や提出等の状況)		-	-	-	5	5
合計(点)		30	40	15	15	100	
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席の学生には単位を与えません。						
テキスト	『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『カンターレ』音楽之友社 手持ち可						
参考書・教材	なし						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	イタリア歌曲演習Ⅰ イタリア語を学ぶ	イタリア歌曲について学ぶ	Caro mio ben	コンコーネ	No.8		
2	イタリア歌曲演習Ⅱ 歌唱におけるイタリア語について学ぶ		Caro mio ben	コンコーネ	No.8		
3	イタリア歌曲演習Ⅲ 母音と子音について学ぶ		Caro mio ben	コンコーネ	No.1		
4	イタリア歌曲演習Ⅳ 作曲家について学ぶ		Nel cor piu non mi sento	コンコーネ	No.1		
5	イタリア歌曲演習Ⅴ 音楽の流れに沿って歌の表現が出来る		Nel cor piu non mi sento	コンコーネ	No.2		
6	イタリア歌曲演習Ⅵ ピアノの伴奏に合わせて歌うことが出来る		Ombra mai fu	コンコーネ	No.2		
7	イタリア歌曲演習Ⅶ イタリア語の明るさと解放感を味わって歌うことが出来る		Ombra mai fu	コンコーネ	No.3		
8	ドイツ歌曲演習Ⅰ ドイツ語を学ぶ	ドイツ歌曲を学ぶ	Heidenröslein	コンコーネ	No.3		
9	ドイツ歌曲演習Ⅱ 歌唱におけるドイツ語を学ぶ		Heidenröslein	コンコーネ	No.4		
10	ドイツ歌曲演習Ⅲ 母音と子音の歌い方の違いについて学ぶ		Heidenröslein	コンコーネ	No.4		
11	ドイツ歌曲演習Ⅳ 作詞・作曲家について学ぶ		Auf Flügeln des Gesanges	コンコーネ	No.5		
12	ドイツ歌曲演習Ⅴ ドイツ語特有のウムラウトについて学ぶ		Auf Flügeln des Gesanges	コンコーネ	No.5		
13	ドイツ歌曲演習Ⅵ ドイツ語の歌詞を音楽的に表現できる		Auf Flügeln des Gesanges	コンコーネ	No/6		
14	イタリア歌曲・ドイツ歌曲まとめ 各自で選曲した曲を、ピアノの伴奏に合わせて表現する			コンコーネ	No.6		
15	1年で学んだ歌唱の技術を、表現力豊かに演奏できる						
時間外での学修	毎日の発声を欠かさないこと。言葉の訓練を怠らない事。						
受講学生へのメッセージ	身体表現の授業です。健康には留意してください。 オフィスアワーは授業後教室にて 月曜日12:10~12:30						

【MB】 ソルフエージュ I		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Or・MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修						
実務家教員	声楽家43年、声楽指導40年、合唱指導26年						
授業内容	音楽を的確に表現するための、音楽的基礎能力の育成・視覚・聴覚訓練をしていきます。						
授業方法	実技、実践を中心として基礎的な音楽知識の習得をしていきます。						
到達目標	知識・理解	音感、リズム感、和音感を身につけフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。	◎				
	思考・判断・表現	得られた知識を実際の音楽の現場に対応できるものにする。	○				
	技能	音楽の専門家としての情報収集能力と技術を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。	△				
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションをとろうとする意欲がある。	○				
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表（グループ発表含む）		20	-	10	10	40
	筆記試験		30	10	-	-	40
	自己評価		5	5	-	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		55	15	10	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成館 『コンコーネ50番（中声用）』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティール・エヌ 手持ち可						
参考書・教材	なし						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ソルフエージュについて（授業ガイダンス、ソルフエージュの理解と確認） 〔準備・課題〕 これまでに学んだことのあるソルフエージュについての質疑応答。（1～2h）						
2	音楽の3要素よりメロディーについて学ぶ。 〔準備・課題〕 読譜・歌唱演習とコールユーブンゲンNo. 18、No. 19を予習。（1～2h）						
3	音楽の3要素よりリズムについて学ぶ。 〔準備・課題〕 リズム演習（1～2h）						
4	音楽の3要素より和音について学ぶ。（二声、三声） 〔準備・課題〕 二声、三声を歌唱、ピアノで演奏する。（1～2h）						
5	既習の学習成果の確認テストを行う 〔準備・課題〕 既習のメロディー、リズム、和音を書きとり、歌唱することが出来る。（1～2h）						
6	音楽の3要素よりメロディー、リズムについて学ぶ 〔準備・課題〕 課題のプリントを復習し確実なものにする。（1～2h）						
7	音楽の3要素よりメロディー、リズムについて学ぶ 〔準備・課題〕 コールユーブンゲンNo. 20、No. 23の予習をし、リズムを体得する。（1～2h）						
8	四度音程を理解する 四度和音について学ぶ 〔準備・課題〕 コールユーブンゲンNo. 24～No. 29の予習をする。（1～2h）						
9	五度音程の理解をする 五度和音について学ぶ 〔準備・課題〕 五度音程の理解をしておく。コールユーブンゲンNo. 30～No. 35の予習をする。（1～2h）						
10	確認テストを行う No. 35まで 〔準備・課題〕 コールユーブンゲンNo. 35までの復習をする。（1～2h）						
11	六度音程の理解をする 六度和音について学ぶ 〔準備・課題〕 六度音程の理解をしておく。コールユーブンゲンNo. 36～No. 40の予習をする。（1～2h）						
12	七度音程の理解をする 七度和音について学ぶ 〔準備・課題〕 七度音程の理解をしておく。コールユーブンゲンNo. 42、No. 45の予習をする。（1～2h）						
13	既習のメロディー、リズム、和音の展開演習 〔準備・課題〕 既習の演習課題を復習しておく。（1～2h）						
14	既習のメロディー、リズム、和音の展開演習 〔準備・課題〕 既習の演習課題を復習しておく。（1～2h）						
15	確認テストを行う 〔準備・課題〕 既習の演習課題を復習しておく。（1～2h）						
時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかり行うことがソルフエージュ上達を確実なものにします。						
受講学生へのメッセージ	一回一回の授業がとても大切です。欠席しないよう体調にも気を付けてください。 オフィスアワーは授業後教室にて 木曜日12:10～12:20						

【MS】 ソルフェージュⅡ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Or・MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修						
実務家教員	声楽家43年、声楽指導40年、合唱指導26年						
授業内容	一年前期で習得した音楽を、更に的確に表現するための音楽的基礎能力の育成、聴覚訓練をしていきます。						
授業方法	実技、実践を中心として基礎的な音楽知識の習得をしていきます。						
到達目標	知識・理解	音感、リズム感、和音感を身につけフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。			◎		
	思考・判断・表現	得られた知識を実際の音楽の現場に対応できるものにする。			○		
	技能	音楽の専門家としての情報収集能力と技術を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。			△		
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表(グループ発表含む)		20	-	10	10	40
	筆記試験		30	10	-	-	40
	自己評価		5	5	-	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		55	15	10	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成館 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 手持ち可						
参考書・教材	なし						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	調の関係を理解する(長音階) 〔準備・課題〕ト長調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 48		
2	嬰種長音階を理解する 〔準備・課題〕ニ長調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 49		
3	嬰種長音階を理解する 〔準備・課題〕イ長調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 50		
4	変種長音階を理解する 〔準備・課題〕ヘ長調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 59		
5	変種長音階を理解する 確認小テスト 〔準備・課題〕変ロ長調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 58		
6	変種長音階を理解する 〔準備・課題〕変ホ長調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 57		
7	既習課題の確認テスト 〔準備・課題〕既習全長音階の課題を理解する。(1~2h)						
8	短音階を理解する 〔準備・課題〕イ短調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 60, 76		
9	嬰種短音階を理解する 〔準備・課題〕ホ短調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 77		
10	嬰種短音階を理解する 確認小テスト 〔準備・課題〕ロ短調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 78		
11	嬰種短音階を理解する 〔準備・課題〕嬰ヘ短調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 79		
12	嬰種短音階を理解する 〔準備・課題〕嬰ヘ短調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 75		
13	変種短音階を理解する 〔準備・課題〕ト短調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 74		
14	変種短音階を理解する 〔準備・課題〕変ハ短調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1~2h)			コールユーブンゲン	No. 73		
15	既習課題の確認テスト 〔準備・課題〕既習短音階の課題を理解する。(1~2h)						
時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかりと行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。						
受講学生へのメッセージ	一回一回の授業がとても大切です。欠席しないよう体調にも気を付けてください。 オフィスアワーは授業後教室にて 木曜日12:10~12:30						

【MB】音楽理論 I		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	MT・P/MT・Or/MTコース必修						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者(含 高等学校教員)・31年						
授業内容	音楽を演奏するためには、楽譜についての「約束事」を知る必要があります。それが音楽理論です。すでに知っていることなども、基本から系統立てて学修します。音・音楽についての正確な知識を身に付け、自身の演奏する楽曲について理解を高め、演奏に活かされることを目指します。						
授業方法	講義授業ですが、問題を解きながら進めていきます。						
到達目標	知識・理解	楽譜についての基礎的な知識を理解することができる。			◎		
	思考・判断・表現	修得した基礎知識を応用することができる。			○		
	関心・意欲・態度	理論を実践に活かすことができるよう、意欲的に取り組むことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		40	20	-	-	60
	小テスト		15	5	-	-	20
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		55	25	-	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『新装版「楽典」理論と実習』音楽之友社(2,106円) ISBN:978-4276100008						
参考書・教材	必要な資料等は配布します。五線ノートは準備してください。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業説明 音・純正律と十二平均律 楽譜の書き方 [準備・課題] テキストの序章をひと通り読んでおく、音部記号・音符を書いてみる (2h)						
2	譜表と音名 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題 (2h)						
3	音符と休符 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題 (2h)						
4	リズムと拍子 (1) リズム、拍と拍子、拍子の記法、拍子に関する演奏上の注意、強起と弱起 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題 (4h)						
5	リズムと拍子 (2) 拍子の種類、拍子の変化、シンコペーション、リズムに関する記譜上の注意 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題 (4h)						
6	音程 (1) 度数、音程における完全・長・短などの種類、幹音どうしの2音によってできる音程 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題 (4h)						
7	音程 (2) 派生音(♯・♭などのついた音)を含む2音によってできる音程 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題 (4h)						
8	音程 (3) 複音程 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題 (4h)						
9	音程 (4) 音程の転回、協和音程と不協和音程 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題 (4h)						
10	音階 (1) 長音階と短音階① [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題 (4h)						
11	音階 (2) 長音階と短音階② [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題 (4h)						
12	音階 (3) 調① [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題 (4h)						
13	音階 (4) 調② [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題 (4h)						
14	音階 (5) 調の相互関係 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題 (4h)						
15	前期まとめ [準備・課題] 学修した内容の復習・試験対策 (4~10h)						
時間外での学修	復習・宿題は必ず行いましょう。						
受講学生へのメッセージ	一項目ずつ理解し次々と応用していけるよう、欠席はせず、理解できないことは積極的に質問してください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。						

【MS】音楽理論Ⅱ		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	MT・P/MT・Or/MTコース必修						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者(含 高等学校教員)・31年						
授業内容	前期に引き続き、音・音楽についての正確な知識を身に付け、音楽理論の理解を深めていきます。学修した理論が実践に活かされることを目指します。						
授業方法	講義授業ですが、問題を解きながら進めていきます。						
到達目標	知識・理解	楽譜についての基礎的な知識を理解することができる。			◎		
	思考・判断・表現	修得した基礎知識を応用することができる。			○		
	関心・意欲・態度	理論を実践に活かすことができるよう、意欲的に取り組むことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		40	20	-	-	60
	小テスト		15	5	-	-	20
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		55	25	-	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『『新装版「楽典」理論と実習』』音楽之友社(2,106円)ISBN:978-4276100008 「音楽理論Ⅰ」履修者は購入済						
参考書・教材	必要な資料等は配布します。五線ノートは準備してください。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	音階(6) 移調と転調① [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題(4h)						
2	音階(7) 移調と転調② [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題(4h)						
3	音階(8) 調の判定① [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題(4h)						
4	音階(9) 調の判定② [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題(4h)						
5	音階(10) 調の判定③、その他の音階 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題(4h)						
6	和音(1) 三和音と七の和音 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題(4h)						
7	和音(2) 三和音の種類 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題(4h)						
8	和音(3) 和音の基本形および転回形 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題(4h)						
9	和音(4) 音階各音上の三和音、七の和音 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題(4h)						
10	和音(5) 和音の機能、主要三和音と副三和音 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題(4h)						
11	速さ・強さに関する表示法 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題(4h)						
12	曲想・奏法に関する表示法(1) 曲想に関する用語(発想標語) [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題(4h)						
13	曲想・奏法に関する表示法(2) 奏法を指示する用語・記号 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題(4h)						
14	曲想に関する表示法(3) 装飾音・装飾記号、略記法 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題(4h)						
15	まとめ [準備・課題] 学修した内容の復習・試験対策(4h)						
時間外での学修	復習・宿題は必ず行いましょう。						
受講学生へのメッセージ	一項目ずつ理解し次々と応用していけるよう、欠席はせず、理解できないことは積極的に質問してください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。						

【MB】音楽史 I		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	P・0r・P/MT・0r/MTコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業内容	音楽のルーツ、歴史、作曲家が生きた時代とその生涯について学びます。						
授業方法	講義形式で行います。自分に必要な音楽をたくさん聴きたい、感じたい、学びたいという姿勢で取り組んで欲しいので、ノートは、必ず、取っていただきます。						
到達目標	知識・理解	音楽史の基礎的な知識を身に付け、人に伝えられるようになる。			◎		
	思考・判断・表現	音楽分野全般への感性を高めるために、音楽の背景を知る。			○		
	技能	音楽史を学ぶ事により得た情報能力を、コミュニケーション能力に発展させる。			○		
	関心・意欲・態度	音楽史の知識を、演奏、音楽指導活動に活かせるようにする。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		40	20	20	-	80
	ノートチェック		-	-	-	10	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		40	20	20	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生のは、単位を与えません。						
テキスト	『西洋音楽史概説』 門馬直美 春秋社(3,024円) ISBN:978-4393930014						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	古代、中世の音楽 [課題]音楽史の本を読んでみましょう。(0.5h)						
2	ルネサンス音楽 [課題]モンテベルディ、パレストリーナを聴いてみましょう。(0.5h)						
3	バロック音楽 [課題]ヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルを聴いてみましょう。(0.5h)						
4	クラシック音楽 [課題]モーツァルトを聴いてみましょう。(0.5h)						
5	クラシック音楽 [課題]ベートーヴェンを聴いてみましょう。(0.5h)						
6	ロマン主義音楽 [課題]メンデルスゾーン、シューベルトを聴いてみましょう。(0.5h)						
7	ロマン主義音楽 [課題]シューマン、ショパンを聴いてみましょう。(0.5h)						
8	第1回レポート [課題]興味・関心を持った作曲家、曲、時代について、調べてまとめましょう。(1h)						
9	ロマン主義音楽 [課題]リストを聴いてみましょう。(0.5h)						
10	新ロマン主義音楽 [課題]ヴァーグナー、ブラームスを聴いてみましょう。(0.5h)						
11	フランス音楽 [課題]ビゼー、サンサーンスを聴いてみましょう。(0.5h)						
12	イタリア音楽 [課題]ヴェルディ、プッチーニを聴いてみましょう。(0.5h)						
13	イギリス音楽 [課題]エルガー、ホルストを聴いてみましょう。(0.5h)						
14	ウィーン音楽 [課題]Jシュトラウスを聴いてみましょう。(0.5h)						
15	アメリカの音楽 [課題]フォスター、ガーシュウィンを聴いてみましょう。(0.5h)						
時間外での学修	興味をもった作曲家について調べたり、音楽を聴いたりしてください。図書館を有効利用するのも良いと思います。						
受講学生へのメッセージ	音楽を勉強していく上で、音楽史を知ることが、演奏力の向上にもつながると思います。積極的に受講してください。 一生懸命書いたノートは、大切な記録となると思います。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【MS】音楽史Ⅱ		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	P・Or・P/MT・Or/MTコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業内容	音楽のルーツ、歴史、作曲家が生きた時代とその生涯について学びます。						
授業方法	講義形式で行います。自分に必要な音楽をたくさん聴きたい、感じたい、学びたいという姿勢で取り組んで欲しいので、ノートは、必ず、取っていただきます。						
到達目標	知識・理解	音楽史の基礎的な知識を身に付け、人に伝えられるようになる。			◎		
	思考・判断・表現	音楽分野全般への感性を高めるために、音楽の背景を知る。			○		
	技能	音楽史を学ぶ事により得た情報能力を、コミュニケーション能力に発展させる。			○		
	関心・意欲・態度	音楽史の知識を、演奏、音楽指導活動に活かせるようにする。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		40	20	20	-	80
	ノートチェック		-	-	-	10	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		40	20	20	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生のは、単位を与えません。						
テキスト	『西洋音楽史概説』 門馬 直美 春秋社(3,024円) ISBN:978-4393930014 「音楽史Ⅰ」履修者は購入済						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ロシアの音楽 [課題]ロシア5人組、ムソルグスキーの音楽を聴いてみましょう。(0.5h)						
2	ロシアの音楽 [課題]チャイコフスキーの音楽を聴いてみましょう。(0.5h)						
3	ノルウェー、フィンランドの民族主義音楽 [課題]グリーグ・シベリウスの音楽を聴いてみましょう。(0.5h)						
4	チェコスロヴァキアの音楽 [課題]スメタナ、ドヴォルザークの音楽を聴いてみましょう。(0.5h)						
5	スペインの音楽 [課題]アルベニス、グラナドスの音楽を聴いてみましょう。(0.5h)						
6	民族主義音楽のまとめ [課題]お気に入りの曲を見つけて聴いてみおましよう。(0.5h)						
7	第3回レポート [課題]ノートチェックもしますので、忘れないようにしましょう。(1h)						
8	近代・現代の音楽 [課題]ドビュッシー・ラヴェルの音楽を聴いてみましょう。(0.5h)						
9	近代・現代の音楽 [課題]シェーンベルク、ストラヴィンスキーの音楽を聴いてみましょう。(0.5h)						
10	近代・現代の音楽 [課題]プロコフィエフ、バルトークの音楽を聴いてみましょう。(0.5h)						
11	近代・現代の音楽 [課題]ハチャトゥーリアンの音楽を聴いてみましょう。(0.5h)						
12	近代・現代の音楽 [課題]カバレフスキーの音楽を聴いてみましょう。(0.5h)						
13	近代・現代の音楽 [課題]バルトークの音楽を聴いてみましょう。(0.5h)						
14	日本の音楽 [課題]日本の音色にも、耳を傾けてみましょう。(0.5h)						
15	世界の音楽 [課題]インターネットを利用して、動画を見てみましょう。(0.5h)						
時間外での学修	興味をもった作曲家について調べたり、音楽を聴いたりしてください。図書館を有効利用するのも良いと思います。						
受講学生へのメッセージ	音楽を勉強していく上で、音楽史を知ることが、演奏力の向上にもつながると思います。積極的に受講してください。 一生懸命書いたノートは、大切な記録となると、思います。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【MB】鍵盤楽器 I		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	野口 歩						
資格・制限等	MT・W/MTコース必修						
実務家教員							
授業内容	ピアノ（鍵盤楽器）の基礎的な音楽知識や演奏技術を習得し、音楽の楽しさ素晴らしさを感じ、演奏表現ができるようにしていきます。						
授業方法	一人一人の進度に合った個人レッスンです。レッスンの時間までの空き時間は、練習室で自主練習をしてください。						
到達目標	知識・理解	ピアノの演奏に必要な基礎的な奏法を身につけることができる。			○		
	思考・判断・表現	演奏する曲にふさわしい奏法や表現力を自ら考え培うことができる。			◎		
	技能	自身の演奏技術を磨き、各専門分野に結び付け役立てていくことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	曲に対する関心を持ち意欲的に取り組んで自己研鑽していくことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		25	-	-	15	40
	合計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、受講生全員の合同で行います。受講態度は、学修への取り組み状況を含みます。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	個々のレベルに合った楽譜を選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業ガイダンス [準備・課題] 次回からの練習曲を個々に選曲し譜読みする(1h)						
2	練習曲・指使い [準備・課題] レッソンの復習をし、指のポジションや指使いを確認する(1h)						
3	練習曲・部分練習 [準備・課題] レッソンの復習をし、片手奏や部分練習を行う(1h)						
4	練習曲・音楽表現 [準備・課題] レッソンの復習をし、音の強弱やフレーズを考えて演奏する(1h)						
5	練習曲・曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、曲想を付ける(1h)						
6	練習曲・弾き込み [準備・課題] レッソンの復習をし、曲の流れをつかむ(1h)						
7	練習曲・仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、曲をまとめる(1h)						
8	試験曲・譜読み [準備・課題] 試験曲を選曲し譜読みする(1h)						
9	試験曲・指使い [準備・課題] レッソンの復習をし、指使いの工夫やポジションの再確認をする(1h)						
10	試験曲・フレージング・バランス [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽の流れやバランスを考える(1h)						
11	試験曲・曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、曲にふさわしいテンポや響きを作り出す(1h)						
12	試験曲・暗譜 [準備・課題] レッソンの復習をし、丁寧に暗譜をする(1h)						
13	試験曲・弾き込む [準備・課題] レッソンの復習をし、曲の流れを捉えて弾き込む(1h)						
14	試験曲・仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、反復練習を行い曲をまとめる(1h)						
15	試験曲・休暇中の課題曲決め 試験曲を自信をもって演奏できるように繰り返し練習する(1h)						
時間外での学修	レッスンで習得したことを改善していけるように日々の練習の積み重ねが大切です。						
受講学生へのメッセージ	個々の進度に合わせて課題を進めていきますので、レッスンで学んだことを忘れずに復習するように心がけてください。 オフィスアワーはレッスン時間の前後休み時間です。						

【MS】鍵盤楽器Ⅱ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	野口 歩						
資格・制限等	MT・W/MTコース必修						
実務家教員							
授業内容	ピアノ（鍵盤楽器）の基礎的な音楽知識や演奏技術を習得し、音楽の楽しさ素晴らしさを感じ、演奏表現ができるようにしていきます。						
授業方法	一人一人の進度に合った個人レッスンです。レッスンの時間までの空き時間は練習室で自主練習してください。						
到達目標	知識・理解	ピアノの演奏に必要な基礎的な奏法を身につけることができる。			○		
	思考・判断・表現	演奏する曲にふさわしい奏法や表現力を自ら考え培うことができる。			◎		
	技能	自身の演奏技術を磨き、各専門分野に結び付け役立てていくことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	曲に対する関心を持ち意欲的に取り組み自己研鑽していくことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		25	-	-	15	40
	合計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、受講生全員の合同で行います。受講態度は、学修への取り組み状況を含みます。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	個々のレベルに合った楽譜を選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	休暇中の課題曲・見直し [準備・課題] 休暇中の課題曲の発表。次回からの練習曲決め(1h)						
2	練習曲・譜読み [準備・課題] 新しい練習曲の譜読みをする(1h)						
3	練習曲・フィンガートレーニング [準備・課題] レッソンの復習をし、指使いを考え練習を進める(1h)						
4	練習曲・部分練習 [準備・課題] レッソンの復習をし、片手奏や部分練習を行う(1h)						
5	練習曲・音楽表現 [準備・課題] レッソンの復習をし、音の強弱やフレーズを考えて演奏する(1h)						
6	練習曲・曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、曲にふさわしい音色やハーモニーを作る(1h)						
7	練習曲・弾き込み [準備・課題] レッソンの復習をし、曲の流れをつかむ(1h)						
8	練習曲・仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、曲を仕上げる・試験曲を決める(1h)						
9	試験曲・譜読み [準備・課題] 試験曲の譜読みを丁寧に行う・指使いの工夫やポジションの再確認をする(1h)						
10	試験曲・部分練習 [準備・課題] レッソンの復習をし、片手奏や部分練習を行う(1h)						
11	試験曲・曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、曲にふさわしいテンポや響きを作り出す(1h)						
12	試験曲・音楽表現 [準備・課題] レッソンの復習をし、豊かなハーモニー作りをする(1h)						
13	試験曲・暗譜 [準備・課題] レッソンの復習をし、暗譜をする(1h)						
14	試験曲・弾き込み [準備・課題] レッソンの復習をし、暗譜を確実にし反復練習する(1h)						
15	試験曲・まとめ [準備・課題] レッソンの復習をし、試験に向けて自信を持って演奏できるように練習に励む(1h)						
時間外での学修	レッスンで習得したことを改善していけるように日々の練習の積み重ねが大切です。						
受講学生へのメッセージ	個々の進度に合わせて課題を進めていきますので、レッスンで学んだことを忘れずに復習するように心がけてください。 オフィスアワーはレッスン時間の前後休み時間です。						

【MF】スポーツ・レクリエーションⅠ		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	中野 由香里						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合った軽スポーツやレクリエーションを楽しむことができます。これら軽スポーツやレクリエーションの特性について理解し、レクリエーションの中で行われる遊びや活動によってもたらされる「楽しさ」についてスポーツと関連させて学修し、音楽療法や地域活動等で活かせるレクリエーションを学びます。						
授業方法	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、主に体育館で実技を実施します。内容によって教室にて講義を実施します。学外授業は次の①と②です。①5月26日(日) 関ヶ原町笹尾山グラウンド ②6月9日(日)は大垣市総合体育館 ①、②について詳細と振替日について、第1回の授業時に説明します。						
到達目標	知識・理解	レクリエーションの特性について理解する。			△		
	思考・判断・表現	音楽療法士として、レクリエーションの方法について理解し、実践することができる。			◎		
	技能	学んだ知識や技能を療育や地域活動等で活かすことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	レクリエーション活動の中で、仲間と協力することができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	小テスト		10	-	10	-	20
	レポート		-	15	-	-	15
	自己評価		-	15	-	-	15
	課題提出		-	-	20	-	20
	受講態度		-	-	-	30	30
合計(点)		10	30	30	30	100	
評価の特記事項	小テスト(1回)、課題提出(1回)、レポートと自己評価は出席カードの内容を基に評価します。受講態度は毎時間の取り組み姿勢を評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生は単位を与えません。						
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』公益財団法人 日本レクリエーション協会(1,944円) ISBN:978-4-931-18095-6 『楽しいアイスブレイキングゲーム集』公益財団法人 日本レクリエーション協会(972円) ISBN:978-4-931-18072-7						
参考書・教材	『チャレンジ・ザ・ゲーム(ルールガイド)』幼稚園教育要領具解説、保育所保育指針、ほか必要に応じて配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	講義：レクリエーション概論「レクリエーションとレクリエーション・インストラクター」 〔準備・課題〕資格について理解し、手続きの書類を準備する。(1h~2h)						
2	講義：楽しさと心の元気づくりの理論Ⅰ「楽しさを通した心の元気づくりと対象者の心の元気」 〔準備・課題〕講義内容をノートにまとめ、学外授業の準備をする。(1h~2h)						
3	講義：レクリエーション支援の理論Ⅰ「コミュニケーションと信頼関係づくりの理論」、アイスブレイキングの実践1(安心感をつくる) 〔準備・課題〕講義内容をノートにまとめ、実践の復習をする。(1h~2h)						
4	実技(学外授業)：レクリエーション支援の方法Ⅰ-1「信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ1」 〔準備・課題〕実技内容をノートにまとめ、実践の復習をする。(1h~2h)						
5	実技：レクリエーション支援の方法Ⅰ-2「信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ2」、学外授業の説明 〔準備・課題〕実技内容をノートにまとめ、実践の復習をする。(1h~2h)						
6(5月26日)	講義(学外授業)：楽しさと心の元気づくりの理論Ⅱ「心の元気と地域のきずな」(ノートにまとめた内容を基に) 〔準備・課題〕講義内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
7(5月26日)	実技(学外授業)：レクリエーション支援の方法Ⅱ-1「良好な集団づくりの方法1」 〔準備・課題〕実技内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
8(5月26日)	実技(学外授業)：レクリエーション支援の方法Ⅱ-2「良好な集団づくりの方法2」 〔準備・課題〕実技内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
9	講義：レクリエーション支援の理論Ⅱ「良好な集団づくりの理論」、学外授業の説明 〔準備・課題〕講義内容ノートにまとめ、学外授業の準備をする。(1h~2h)						
10(6月9日)	実技(学外授業)：レクリエーション支援の方法Ⅲ-1「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法1」 〔準備・課題〕学修内容を振り返り、ノートにまとめる。(1h~2h)						
11(6月9日)	実技(学外授業)：レクリエーション支援の方法Ⅲ-2「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法2」 〔準備・課題〕学修内容を振り返り、ノートにまとめる。(1h~2h)						
12(6月9日)	実技(学外授業)：レクリエーション支援の方法Ⅲ-3「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法3」 〔準備・課題〕学修内容を振り返り、ノートにまとめる。(1h~2h)						
13	講義：レクリエーション支援の理論Ⅲ「自主的、主体的に楽しむ力を高める理論」、学外授業のまとめ(ノートを基に) 〔準備・課題〕学修内容を振り返り、ノートにまとめる。(1h~2h)						
14	実技：レクリエーション支援の方法Ⅲ-4「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法4」 〔準備・課題〕学修内容を振り返り、ノートにまとめる。(1h~2h)						
15	実技：チャレンジ・ザ・ゲーム記録会 〔準備・課題〕記録をノートにまとめ、前期の振り返りをする。(1h~2h)						
時間外での学修	特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会又は特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会主催の催しに積極的に参加すること。(参加手続きが必要な場合が有ります)						
受講学生へのメッセージ	スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるように一所懸命に取り組んでください。安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。オフィスアワーは研究室(H203:H号館2F)で毎週金曜日12:15~12:45です。						

【MF】スポーツ・レクリエーションⅡ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	中野 由香里						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合った軽スポーツやレクリエーションを楽しむ人が増加しています。コミュニケーションを深めるためのゲームやニュースポーツを中心にレクリエーション的な要素を取り入れながら実践します。また、スポーツ・レクリエーションに関する知的理解と指導法について学びます。11月2日(土)は、学外授業となります(授業時に説明します)。						
授業方法	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、授業は主に全て体育館で実施します。						
到達目標	知識・理解	各種目の競技特性を理解し、実践することができる。			◎		
	思考・判断・表現	音楽療法士として、状況を把握判断し、主体的に活動することができる。			○		
	技能	学んだ知識や技能を療育や地域活動等で活かすことができる。			○		
	関心・意欲・態度	レクリエーション・活動の中で仲間と協力することができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		15	-	-	-	15
	自己評価		15	-	-	-	15
	発表		-	20	20	-	40
	受講態度		-	-	-	30	30
合計(点)		30	20	20	30	100	
評価の特記事項	レポート、自己評価、発表(2回)、は出席カードを基に評価します。受講態度は、毎時間の取り組みを評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』公益社団法人 日本レクリエーション協会(1,944円) ISBN:978-4-931-18095-6 『楽しいアイスブレーキングゲーム集』公益社団法人 日本レクリエーション協会(972円) ISBN:978-4-931-18072-7 前期「スポーツ・レクリエーションⅠ」受講者は購入済み						
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、ほか必要に応じて配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、学外授業の説明 [準備・課題] 授業内容を理解し学外授業の計画を立てる。(1h~2h)						
2	コミュニケーションワークⅠ(個人ゲーム) [準備・課題] 個人ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。(1h~2h)						
3	実技：岐阜県レクリエーションフェスティバル「グランドゴルフ大会」 [準備・課題] 大会の記録をまとめ、大会内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
4	目的に合わせたレクリエーション・ワーク(ドッジボール) [準備・課題] ドッジボールのルールを理解し、ノートにまとめる。(1h~2h)						
5	学外授業：岐阜県レクリエーションフェスティバル(スタッフとして) [準備・課題] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
6	学外授業：岐阜県レクリエーションフェスティバル(スタッフとして) [準備・課題] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
7	学外授業：岐阜県レクリエーションフェスティバル(参加者として) [準備・課題] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
8	学外授業：岐阜県レクリエーションフェスティバル(参加者として) [準備・課題] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
9	学外授業：岐阜県レクリエーションフェスティバル(参加者として) [準備・課題] 学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
10	対象に合わせたレクリエーション・ワーク(フライングディスク・ディスクゴルフ) [準備・課題] ディスクゴルフのコースづくりを計画し、ノートにまとめる。(1h~2h)						
11	対象に合わせたレクリエーション・ワーク(ボールゲーム) [準備・課題] これまでの授業内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
12	活動領域に合わせたアクティビティ(伝言ゲーム) [準備・課題] クリスマス会に向けて準備をする。(1h~2h)						
13	イベント企画Ⅰ(グループ作り、計画準備) [準備・課題] クリスマス会の計画と準備をノートにまとめる。(1h~2h)						
14	イベント企画Ⅱ(企画準備・内容確認) [準備・課題] クリスマス会の準備をし、ノートにまとめる(1h~2h)						
15	イベント企画Ⅲ(クリスマス会(発表)、まとめ) [準備・課題] クリスマス会を振り返り、後期の学修内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
時間外での学修	特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会又は特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会主催の催しに積極的に参加すること。(参加手続きが必要な場合があります)						
受講学生へのメッセージ	スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるように一所懸命に取り組んでください。安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。オフィスアワーは研究室(H203:H号館2F)で毎週金曜日12:15~12:45です。						

【MS】子どもの保健		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	岩瀬 桃子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	看護学科教員（小児看護学） 5年						
授業内容	子どもの保健とは、子どもの健康について考え、守り、さらに増進させるための学問や技術のことです。健康についての考え方や子どもを取り巻く環境は時代とともに大きく変化をし、子どもの健康に大きな影響を与えます。この授業では、子どもの身体発育や生理機能の特性・発達、子どもの健康状態とその把握など、保育における保健的対応に必要な基礎知識を学びます。						
授業方法	課題に関する発表・グループワーク（20分）、講義（60分）、まとめ・感想（10分）						
到達目標	知識・理解	子どもの発育・発達と保健を理解し、保育に関わる人として必要な知識を修得することができる。			◎		
	思考・判断・表現	子どもの発育・発達と母子保健活動の関連性を考え、子どもを取り巻く環境の現状と課題について自己の考えを表現することができる。			○		
	技能	保育者としての基盤となる子どもの保健に関する課題の現状の説明ができる。			△		
	関心・意欲・態度	子どもの発育・発達や母子保健について興味や関心を持ち、積極的に学習に取り組むことができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	10	-	-	40
	受講態度		-	-	-	20	20
	発表（グループ発表含む）		10	10	10	10	40
	合計(点)		40	20	10	30	100
評価の特記事項	受講態度は、講義中の姿勢、講義のアンケートから総合的に判断します。遅刻・欠席、提出物の期限遅延は減点とします。						
テキスト	『新基本保育シリーズ11 子どもの保健』松田博雄 金森三枝 中央法規(2,000円) ISBN:978-4-8058-5791-5						
参考書・教材	新時代の保育双書 こどもの保健 I 第2版 服部右子 大森正英 編 みらい 価格：2200円 ISBN:978-4-86015-406-6						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業ガイダンス（子どもの保健とは、授業の進め方、評価方法などの説明） 第1講：生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的 〔準備・課題〕 p2～11までの学習内容を予習する。(4h)						
2	第2講：健康の概念と健康指標 〔準備・課題〕 p14～24までの学習内容を予習する。(4h)						
3	第2講：健康の概念と健康指標 こどもの貧困の現状と課題について グループワーク、グループ発表 〔準備・課題〕 こどもの貧困について調べておく。新聞記事やニュース、書籍などから現代の子どもの貧困についての現状と課題を考える。(4h)						
4	第3講：現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策 〔準備・課題〕 p26～33までの学習内容を予習する。(4h)						
5	第3講：現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策 〔準備・課題〕 可能な限り、自分の住んでいる市町村の広報をみて、母子保健対策としてどのような事業があるのかを調べる。(4h)						
6	第4講：地域における保健活動と子ども虐待防止 〔準備・課題〕 p40～49までの学習内容を予習する。(4h)						
7	第4講：地域における保健活動と子ども虐待防止 こどもの虐待の現状と課題について グループワーク、グループ発表 〔準備・課題〕 子どもの虐待について調べる。新聞記事やニュースなどから現代の子どもの虐待の現状と課題について考える。(4h)						
8	第5講：身体発育および運動機能の発達と保健 〔準備・課題〕 出生時の身長体重やその後の発育について家の人から可能な限り、聞いてくる。(4h)						
9	第5講：身体発育および運動機能の発達と保健 〔準備・課題〕 p52～61までの学習内容を予習・復習する。(4h)						
10	第6講：生理機能の発達と保健 〔準備・課題〕 人体の構造、解剖に関して、臓器の名称と機能を学習する。(4h)						
11	第6講：生理機能の発達と保健 〔準備・課題〕 p66～75までの学習内容を予習・復習する。(4h)						
12	第7講：健康状態の観察および心身の不調などの早期発見 〔準備・課題〕 p78～87までの学習内容を予習・復習する。(4h)						
13	第8講：発育・発達と把握と健康診断 〔準備・課題〕 p90～99までの学習内容を予習・復習する。(4h)						
14	第9講：保護者との情報共有 〔準備・課題〕 p102～109までの学習内容を予習・復習する。(4h)						
15	まとめ 〔準備・課題〕 今まで学んだことを振り返っておく。要点を理解できるようにしておく。(4h)						
時間外での学修	〔準備・課題〕 に示した該当箇所を予習して受講してください。						
受講学生へのメッセージ	子どもの発育・発達とそれを取り巻く環境や行政について学び、子どもの保健における現代の課題について興味・関心を持ちましょう。また、子どもの保健について学ぶ中で、自分の成長発達を振り返り、子どもの発育に必要なものは何かを考えましょう。そして自分が保育者になるときに学びを生かせるように積極的に学修に臨みましょう。オフィスアワーは教室にて講義の前後です。						

【MS】教育原理		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	矢田貝 真一						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	中学校教諭・20年						
授業内容	いじめ、不登校、非行、学力低下など多くの教育に関わる課題とその解決が求められるわが国において、「教育とは何か」という問いへの自分なりの考えを持つために、教育の目的・内容・方法・行政を含む制度などの基本原理について理解し、教育思想や制度の歴史についての認識を深めていきます。						
授業方法	講義を中心としますが、とらえ方や考え方などの討議や一人ひとりの発表も取り入れながら進めます。知識を身につけるだけでなく、教育というものに対する自分なりのとらえ方や考え方の形成をめざして、授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	音楽と関連する教育についての知識を習得し、理解することができる。			◎		
	思考・判断・表現	学んだ教育に関する内容を音楽と結びつけて考え、思考力や判断力、表現力にもとづいて「教育とは何か」という問いに自分なりに答えられる。			○		
	技能	学んだ教育に関する内容を、音楽の技能と結びつけてとらえ、活用することができる。			○		
	関心・意欲・態度	教育について興味や関心を持ち、積極的に学修に取り組むことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	10	10	-	60
	レポート・発表		5	10	5	-	20
	自己評価		-	-	5	5	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		45	20	20	15	100
評価の特記事項	自己評価は学修成果に対する自己の評価、受講態度は学修取組・発表・提出等の状況とします。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には規定により単位を与えません。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府、『保育所保育指針解説』厚生労働省、いずれも平成30年。『小学校学習指導要領』文部科学省、平成29年。他の学習指導要領（ここまでの教材は、いずれもWeb上で閲覧・ダウンロード可能）。山口意友『教育の原理とは何か』改訂版 日本教育理念を問う』ナカニシヤ出版、2017。他に必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス（この授業での学ぶ目標や内容、学び方と心構えなどについて理解する） 【課題・準備】 この授業で最も興味や関心を持った内容をあげ、学びたいことをまとめる（2～4h）						
2	教育とは何か（教育と環境の関係、学校教育・社会教育・家庭教育などについて知識を深め、教育というものについて考える） 【課題・準備】 「教育」がどのようにとらえられているのかを調べてまとめる（2～4h）						
3	教育の本質と要素（授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、ヒトに教育がなぜ必要か、教育の本質、教育の要素と相互関係などについて知識を得て理解を深める） 【課題・準備】 教育基本法での「教育の目的」と学校教育法での「短期大学の目的」を調べてまとめる（3～5h）						
4	教育の目的や目標（授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、教育基本法の理念、わが国の学校教育の目的と構造について理解を深める） 【課題・準備】 わが国の現在の学校教育制度について調べ、そのかかえる課題もあわせてまとめる（3～5h）						
5	わが国の教育制度（授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、公教育の考え、教育法規・教育制度の変遷としくみ、教育制度を支える教育行政について理解を深める） 【課題・準備】 教育制度をめぐる課題をひとつ取り上げてまとめ、自分の考えや意見をのべる（2～4h）						
6	諸外国の教育制度（制度やしぐみのちがいが、考え方の相違点と共通点について知識を得て理解を深め、授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、教育制度をめぐる課題について考える） 【課題・準備】 これまでの学びや経験から、教育者に人々が何を求めていると考えられるかをまとめる（3～5h）						
7	教育者に必要なもの（教員養成の変遷について知識を得て理解し、調べてきた課題も活用しながら、教育する者に必要な資質と能力について理解を深める） 【課題・準備】 前半の学修内容を振り返ってまとめる（4～6h）						
8	中間のまとめ（授業外の課題でこれまで調べてきたことも活用しながら、第1回～第7回に学んだ内容を復習する） 【課題・準備】 教育に関する思想（コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ、カントなどの教育のとらえ方）について調べてまとめる（4～6h）						
9	教育の歴史と思想（1）（諸外国の教育観や子供観の変化・教育の歴史・近代教育制度の成立と展開・教育に関する思想について知識を深め、授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら理解を深める） 【課題・準備】 学んだ教育観を参考に、最もふさわしい教育者のあり方について考えてまとめる（3～5h）						
10	教育の歴史と思想（2）（わが国の子供観や社会観・近代教育制度の成立と展開・教育に関する思想について知識を深め、これまで授業外の課題で調べてきたことも活用しながら教育課題について考える） 【課題・準備】 幼稚園から高等学校までのいずれかひとつの校種の教育要領または学習指導要領について、平成29年改訂の主な趣旨を調べてまとめる（3～5h）						
11	教育や保育の基準（教育要領や学習指導要領等の性格と位置づけを理解し、授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、過去の改訂の変遷や改訂主旨と背景について理解を深める） 【課題・準備】 「教育課程」の意味について調べてまとめる（3～5h）						
12	教育課程と指導計画（授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、教育課程の役割や原理と編成の方法などについて基本的な知識を得て理解を深める） 【課題・準備】 「カリキュラム・マネジメント」について用語の意味を調べてまとめる（3～5h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
13	カリキュラム・マネジメントと評価（授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、カリキュラム・マネジメントや評価などについて理解を深め、実際の事例について考える） [課題・準備] 「教育とは何か」という問いへの考えをまとめ、わが国の教育の特長や課題も調べてまとめる(4～6h)
14	わが国における教育の特長や課題を考える(授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、具体的な特長や課題について考えてグループで話し合っまとめ、発表できるよう準備する) [課題・準備] 教育に対する自分の考えと、教育の特長や課題に関するレポートを発表できるように準備する(3～5h)
15	教育の特長や課題についての発表と全体のまとめ（授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、これまで授業で学んだことをもとに、わが国の教育の特長や課題についてまとめ、その概要を発表し、これからの教育のあり方についても考える） [課題・準備] 配付資料に基づいて全体を復習する(4～6h)
時間外での学修	[課題・準備]は、授業の到達目標を達成するために必要となる内容ですので、()の標準学修時間をめどとして確実に学修しましょう。
受講学生へのメッセージ	授業では調べてレポートなどにまとめ、それを発表する活動もあるので、資料活用・表現などの力も身につけるよう努力しましょう。オフィスアワーはA305(A号館3F)で毎週木曜日の16:00から17:00です。質問等があれば、どうぞ。

【MS】発達心理学		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	茂木 七香						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	病院臨床心理士・6年、学生相談室臨床心理士・7年						
授業内容	生まれてから現在までの十数年間で、あなたの心と身体は様々な面で発達してきました。では、このあとはどうなるのでしょうか？「発達」というと赤ちゃんが大人になるまでの期間のみがクローズアップされがちですが、そのあとも人は死ぬまで発達します。この授業では、私たちの人生を「生涯発達心理学」の視点で捉えながら発達段階に沿って学びます。各時期の特徴や個性としての変化、他者や社会との関わりなど、心理的側面から理解していきます。これまでの人生を振り返り、これから先、人生の終わりが来るまでの人の発達を概観しておきましょう。						
授業方法	基本的には講義形式ですが、課題に取り組む、自分自身について振り返って記述する、グループワークに参加する、など能動的な学び（アクティブラーニング）を前提とした方法も取り入れて授業を行います。						
到達目標	知識・理解	全ての年齢の人を対象と捉え、その人の背景にある発達段階や発達課題に関する基礎的な知識を理解することができる。			◎		
	思考・判断・表現	目の前の対象の行為や表出を相手の発達段階や理解度を考慮して多角的に分析し、判断して対応することができる。			◎		
	技能	対象を理解し、相手の特性に合ったコミュニケーションを行うことができる。			○		
	関心・意欲・態度	新たに得た知識をもとに自らの学びを深め、自己理解や他者理解に努める。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験(中間・最終)		30	10	-	-	40
	授業時間内課題		-	10	15	5	30
	授業時間外課題		-	5	-	5	10
	小レポート		5	5	-	-	10
受講態度		-	-	-	10	10	
合計(点)		35	30	15	20	100	
評価の特記事項	小レポート課題はループリック(評価基準)とともに提示します。授業時間内課題とは、授業中に記入し、提出するワークシートやミニツペーパーのことです。受講態度は授業への取組みの様子で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。						
テキスト	教科書は指定しません。必要な教材は授業時に配付します。						
参考書・教材	保育所保育指針 幼稚園教育要項 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他、参考図書などは授業中に適宜紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	生涯発達心理学の概念や各発達段階における発達課題について理解する。 胎児期の特徴を理解する：母体から受ける影響 外界を認知する能力 [準備・課題] 胎児期の特徴について調べる。(2~4h)						
2	新生児の特徴を理解する：新生児の能力 原始反射 臨界期 微笑行動 模倣行動 乳児期の特徴を理解する①：視空間認知能力 乳児を対象とした実験 [準備・課題] 新生児の持つ能力について調べる。(2~4h)						
3	乳児期の特徴を理解する②：社会的参照行動 他者の認知 愛着の形成 [準備・課題] 小レポート：課題について800文字程度の小レポートを作成する。(8~10h)						
4	グループ学習：小レポートを用いてグループ学習を行い、各自の調べた内容を発表する。 [準備・課題] 他者のレポートから新たに学んだ内容をまとめる(4~8h)						
5	幼児期の特徴を理解する①：言語の獲得 自己の認識 他者理解 [準備・課題] 幼児の言語発達と絵本の関係についてまとめる(2~4h)						
6	幼児期の特徴を理解する②：思考の発達 心の理論 社会性の発達 [準備・課題] 中間試験に向けて1~6週の授業の復習をする(8~10h)						
7	1週目~6週目までの内容の確認の中間試験(30分間) 児童期の特徴を理解する①：学校生活の持つ意味 仲間関係の形成 自尊心と劣等感 [準備・課題] 中間試験を振り返り、学修成果の自己評価を行う(2~4h)						
8	児童期の特徴を理解する②：道徳性の発達 論理的思考 [準備・課題] 児童期に起こるトラブルを発達の視点で振り返る(2~4h)						
9	青年期の特徴を理解する①：友人関係の発達過程 青年期の発達課題と自我同一性 [準備・課題] 今、直面している青年期の課題について考える(2~4h)						
10	授業時間外課題(今直面している青年期の課題)を用いてワークを行う。 青年期の特徴を理解する②：性役割の発達 進路の決定 青年期に多い心理的問題とその対処 [準備・課題] 青年期の課題ワークに取り組んで新たに考えたことをまとめる(3h~6h)						
11	成人期の特徴を理解する①：職業への意識 親になること ワークライフバランス [準備・課題] 成人期の発達課題について調べる(2~4h)						
12	成人期の特徴を理解する②：中年期の危機 ライフキャリアレインボー [準備・課題] 加齢による変化をまとめる(2~4h)						
13	授業時間外課題(加齢による変化)を用いてワークを行う。 老年期の特徴を理解する①：加齢変化 役割変化と受容 [準備・課題] 身近な成人・老年期のモデルをライフキャリアレインボーに照らし合わせてみる(4~6h)						
14	老年期の特徴を理解する②：5つの性格特性 死についての発達 [準備・課題] 最終試験(7~15週の内容)に向けた復習(6~8h)						
15	まとめ：生涯発達心理学の視点から人の一生をあらためて概観する。 [準備・課題] 最終試験(7~15週の内容)に向けた復習(6~8h)						
時間外での学修	課題：毎回課せられる授業時間外課題や小レポートにしっかり取り組んでください。次回授業で用いることもあります。 日常生活：あなたも周りの人も、これまでに様々な側面での発達を経て今ここに居て、この瞬間にもまだ発達しているのだということを意識し、世の中を新たな視点で捉えなおしてみてください。						

受講学生への
メッセージ

発達心理学は、あなたが今まさに生きている人生の過程についての学問です。当事者として楽しむ視点と学問として学ぶ視点の両方を持って受講すると、より深く学ぶことができます。オフィスアワーは毎週火曜日の10時～12時、それ以外の時間でも、A306(A号館3階) に気軽に来てください。

【MB】音楽療法概論		音楽総合学科		1年前期		
		2単位	選択	講義	30時間	
教員	谷口 祐子					
資格・制限等	MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修					
実務家教員	音楽療法士・22年					
授業内容	音楽療法の定義とそのプロセスをふまえながら、多様な障がいや生きにくさを抱える人々を支援するために、音楽を有効に活用することを学びます。また、実践的な音楽活動を行うことで、音楽が心身に与える作用について体験します。					
授業方法	音楽療法を概観するために、講義だけでなく、実践現場や音楽活動を紹介しながら、模擬的な実践も行っています。					
到達目標	知識・理解	音楽療法の目的を理解し、その概要について基礎的な知識を得ている。			◎	
	思考・判断・表現	音楽療法の対象者のための音楽に思慮を深め、その適切な表現に努力する。			○	
	技能	音楽療法の対象者とコミュニケーションを取りながら、支援のための音楽を提供する。			△	
	関心・意欲・態度	音楽療法の対象者や協力者に関心を持ち、音楽の持つ可能性の理解に意欲がある。			◎	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	30	5	-	-	35
	提出物(レポート、感想)	5	10	-	15	30
	模擬実践	-	10	5	10	25
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	35	25	5	35	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『音楽療法(補完・代替医療)第3版』高橋多喜子 金芳堂(2,268円)ISBN:978-4-765-31708-5					
参考書・教材	授業内でプリントを配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業ガイダンス(音楽療法で使われる用語など) [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む(4h)					
2	音楽療法の定義、音楽療法の形態や対象 [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む(4h)					
3	音楽療法の歴史(原始時代～現代、日本の音楽療法) [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む(4h)					
4	音楽療法の現場紹介、音楽療法の手順 [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む(4h)					
5	高齢者への音楽療法Ⅰ(概要説明、対象者の理解) [課題]模擬実践に向けた準備(4h)					
6	高齢者への音楽療法Ⅱ(目標設定、計画、練習) [課題]模擬実践に向けた準備(4h)					
7	高齢者への音楽療法Ⅲ(練習、実践発表、記録) [課題]模擬実践の感想をまとめる(4h)					
8	高齢者への音楽療法Ⅳ(評価、振り返り) [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む(4h)					
9	音楽が心身に及ぼす作用 [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む(4h)					
10	児童への音楽療法Ⅰ(概要説明、対象者理解) [課題]模擬実践に向けた準備(4h)					
11	児童への音楽療法Ⅱ(音楽活動、評価) [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む(4h)					
12	成人への音楽療法Ⅰ(精神障害) [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む(4h)					
13	成人への音楽療法Ⅱ(その他) [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む(4h)					
14	医療現場での音楽療法 [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む(4h)					
15	音楽療法の課題、まとめ [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む(4h)					
時間外での学修	音楽療法や福祉、医療に関心を持ち、日頃から情報収集に努めてください。各授業で学んだ内容について理解し、自分の意見を言えるようにしてください。					
受講学生へのメッセージ	音楽活動を多く取り入れながら、音楽療法について理解を深めていきます。音楽で人を援助する意味を、一緒に考えましょう。オフィスアワーは教室にて授業後30分間です。					

【MB】音楽心理学		音楽総合学科		1年前期		
		2単位	選択	講義	30時間	
教員	菅田 文子					
資格・制限等	MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修					
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年					
授業内容	音楽心理学とは何かについて学びます。簡単な実験に参加することで、実際に音楽が人の心身にもたらす作用について学びます。音楽療法資格の取得にはこの授業が必修となっています。					
授業方法	演習を含む講義形式です。					
到達目標	知識・理解	音楽心理学研究の流れについて理解し、基礎的な知識を身につけている。			◎	
	思考・判断・表現	音楽心理学研究で用いられる研究法の違いを説明できる。			○	
	技能	音楽心理学で用いられる質問紙の点数計算ができる。			△	
	関心・意欲・態度	積極的に質問紙への解答、計算を含む課題に取り組み提出することができる。			◎	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	40	20	-	-	60
	課題提出	-	-	10	10	20
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	40	20	10	30	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、授業回数の1/3以上欠席した学生は受験資格がありません。					
テキスト	プリントを授業内に配布します。					
参考書・教材	『音は心の中で音楽になる—音楽心理学への招待』谷口高士 北大路書房(3,024円) ISBN:978-4762821738					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	音楽心理学とは 実験1：メンタルテンポの測定。安静時と活動後の違いの比較、集団活動、発表 [準備・課題]学んだ内容を復習し、メンタルテンポについてまとめる(4H)					
2	メンタルテンポと好みのテンポの関連について 実験2：ゲシュタルト原理と音の群化について 集団活動、発表 [準備・課題]学んだ内容を復習し、ゲシュタルトについて理解する(4H)					
3	リズム知覚能力の発達 実験3：調の色彩的表象(12色以上の色鉛筆を持参してください) 集団活動、発表 [準備・課題]学んだ内容を復習し、色彩と音との印象の関係についてまとめる(4H)					
4	共感覚について 実験4：楽器の音色による色彩的表象(12色以上の色鉛筆を持参してください) 集団活動、発表 [準備・課題]学んだ内容を復習し、音色と色の関係についてまとめる(4H)					
5	絶対音感と相対音感について 実験5：絶対音感テスト 音楽心理学の研究手法について(1)観察法(2)実験法(3)質問紙法 それぞれの特長と適した研究法について [準備・課題]学んだ内容を復習し、心理学研究の手法について理解する。自分の持つ音感の特性について理解する(4H)					
6	音による感情伝達 実験6：打楽器による感情表現 集団活動、発表 [準備・課題]学んだ内容を復習し、リズムの違いによる感情表現について理解する(4H)					
7	BGMについて BGMの歴史と現在の研究動向 [準備・課題]身近な環境にあるBGMについて調べレポートにまとめる(4H)					
8	音楽と消費者行動 CMにおける音楽の与える影響、店頭における音楽の影響について [準備・課題]知っているCMソングについて調べレポートにまとめる(4H)					
9	音楽心理学で用いる心理尺度について AVSM、STAI 集団活動 [準備・課題]学んだ内容を復習し、心理尺度の計算について理解する(4H)					
10	音楽聴取に関する研究1：感情の神経・生理学的測定について [準備・課題]学んだ内容を復習し、音楽に対する生理的反応について理解する(4H)					
11	音楽聴取に関する研究2：刺激間要因を問題として [準備・課題]学んだ内容を復習し、音楽の違いによる感情反応の違いについて理解する(4H)					
12	音楽聴取に関する研究3：聴取者間要因を問題として [準備・課題]学んだ内容を復習し、聴取者の性格特性による感情反応の違いについて理解する(4H)					
13	演奏不安に関する研究について 討論、発表 [準備・課題]学んだ内容を復習し、演奏反応の克服のための方法についてまとめる(4H)					
14	最近のトピックス 脳研究と音楽認知 [準備・課題]学んだ内容を復習し、理解を深める(4H)					
15	テスト前の振り返り [準備・課題]学んだ内容を復習し、テストの準備をする(4H)					
時間外での学修	プリントをみて学んだことを復習してください。					
受講学生へのメッセージ	実験の参加や心理尺度の評定など、学生が作業しなければならない活動も授業に含まれます。積極的に参加してください。 心理尺度の評定の提出状況なども採点に含まれます。 オフィスアワーは研究室(B403:B号館4階)で毎週木曜日の13:00~14:30です					

【MB】音楽療法演習		音楽総合学科		1年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	日比 あけみ					
資格・制限等	MT・(P)/MT・(Or)/MT・(W)/MTコース必修					
実務家教員						
授業内容	対象者に合わせた音楽活動の計画・実践・振り返りを模擬実践にて行います。実際の現場に立つ前に、基礎的な実践方法を身につけます。					
授業方法	学内での演習。実践形式で行います。					
到達目標	知識・理解	対象者理解、アセスメントができる。			○	
	思考・判断・表現	音楽の使い方が理解できる。			○	
	技能	音楽活動の計画・実践ができる。			◎	
	関心・意欲・態度	模擬セッションで各役割を担当できる。			◎	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実践発表	10	10	20	10	50
	受講態度	-	10	-	10	20
	レポート	-	-	10	10	20
	期末試験	10	-	-	-	10
	合計(点)	20	20	30	30	100
評価の特記事項						
テキスト	『弾き語りキーボード・セッション(1) 音楽療法の必須100曲 高齢者編』あおぞら音楽社(2,484円) ISBN: 978-4904437032 『弾き語りキーボード・セッション(2) 音楽療法の必須100曲 子ども編』あおぞら音楽社(2,484円) ISBN: 978-4904437049 『弾き語りキーボード・セッション(3) 音楽療法の必須100曲 おとな編』あおぞら音楽社(2,646円) ISBN: 978-4904437056					
参考書・教材	資料を配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション(年間計画・課題の確認) [準備・課題]目標設定1(1~3h)					
2	グループ発表準備 [準備・課題]計画、役割分担、練習(1~3h)					
3	グループ発表① [準備・課題]計画、実践、振り返り(1~3h)					
4	グループ発表② [準備・課題]計画、実践、振り返り(1~3h)					
5	グループ発表③ [準備・課題]計画、実践、振り返り(1~3h)					
6	グループ発表④ [準備・課題]計画、実践、振り返り(1~3h)					
7	グループ発表⑤ [準備・課題]計画、実践、振り返り(1~3h)					
8	グループ発表評価、個人発表準備 [準備・課題]自己評価、目標設定2、計画、練習(1~3h)					
9	個人発表① [準備・課題]計画、実践、振り返り(1~3h)					
10	個人発表② [準備・課題]計画、実践、振り返り(1~3h)					
11	個人発表③ [準備・課題]計画、実践、振り返り(1~3h)					
12	個人発表④ [準備・課題]計画、実践、振り返り(1~3h)					
13	個人発表⑤ [準備・課題]計画、実践、振り返り(1~3h)					
14	個人発表評価 [準備・課題]自己評価、目標設定3(1~3h)					
15	演習のまとめ [準備・課題]期末試験の取り組み(1~3h)					
時間外での学修	模擬実践を行うにあたり、授業外での準備は必須です。使用曲についての調査や練習は、事前に各自で進めてください。					
受講学生へのメッセージ	どのようにしたら相手と自分との関係作りがうまくいくのか、日常生活の中からも気づきを見つけてください。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。					

【MB】音楽療法・基礎		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	MT・(P)/MT・(Or)/MT・(W)/MTコース必修						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	この授業では、音楽療法のアセスメントの原理・方法についての基本的な知識と、アセスメントが実際にできるような技術について学びます。具体的には、アセスメントの種類について学ぶことと、音楽療法場面のビデオを見ながら記録を取る練習を通じて音楽療法士に必要な臨床的視点の獲得と、状況を的確に記録する文章能力を養います。						
授業方法	講義形式ですが授業の一部分で演習活動も含まれます。						
到達目標	知識・理解	音楽療法におけるアセスメントの種類や方法についての知識を持っている。			◎		
	思考・判断・表現	ランニング・アセスメントのビデオを見て、対象者の行動を客観的に正しく記述することができる。対象者のニーズを把握し、それに合った治療目標を設定し、目標を達成するための音楽活動を計画することができる。			◎		
	技能	音楽療法に関する専門用語を理解し、使うことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		40	30	-	-	70
	発表(グループ発表含む)		-	10	10	-	20
	受講態度		-	-	10	-	10
	合計(点)		40	40	20	-	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。課題の提出及び発表がない学生には単位を与えません。						
テキスト	『音楽療法を知る-その理論と技法』宮本啓子、二俣泉 杏林書院(2,700円) ISBN:978-4-7644-0532-5						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション：音楽療法の手順について アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習①、レポート提出 [準備・課題]学んだ内容を復習し音楽療法の手順について理解する						
2	アセスメントについて：調査票、標準化されたテスト、ランニング・アセスメントについて アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習②、レポート提出 [準備・課題]学んだ内容を復習し、ランニングアセスメントの役割について理解する(4H)						
3	行動観察について：アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習③ [準備・課題]学んだ内容を復習し、アセスメントの種類について理解する(4H)						
4	音楽活動の記録について：客観的な記述方法について。反応のあった音楽、視線、セラピストとのかかわりなどについて主観を交えずに描写することができる。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、客観的な記述について理解する(4H)						
5	対象者の立場で感じて、音楽活動やセラピストの働きかけが対象者にどのように受け止められたか、対象者の感情を押し量って記述し、次回からのセッションの活動で何を用い、どこを変えなければならないか自分の考えを記述することができる。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、主観的な記述と客観的な記述を分けて考えられるようにする(4H)						
6	目標設定について：対象者の分野別に異なる目標があることを知る。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、分野別の目標と活動内容についてレポートを作成する(4H)						
7	長期目標と短期目標について：それぞれの目標の違いを知り、短期目標の立て方を学ぶ。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、長期目標に対応した短期目標を含む音楽活動を考える(4H)						
8	目標に応じた音楽活動の計画1：「動きを促す音楽活動」短期目標として具体的な音楽活動を計画する。グループあるいは個人で活動を発表する。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、音楽活動の発表に向けて練習する(4H)						
9	目標に応じた音楽活動の計画2：「社会性を促す音楽活動」短期目標として具体的な音楽活動を計画する。グループあるいは個人で活動を発表する。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、社会性と音楽活動の関連について理解する(4H)						
10	目標に応じた音楽活動の計画3：「コミュニケーションを促す音楽活動」短期目標として具体的な音楽活動を計画する。グループあるいは個人で活動を発表する。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、コミュニケーション能力と音楽活動の関連について理解する(4H)						
11	事例から目標と活動を設定する演習1：児童 児童の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、児童の音楽活動に使用する曲を練習する(4H)						
12	事例から目標と活動を設定する演習2：成人 成人の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、成人の音楽活動に使用する曲を練習する(4H)						
13	事例から目標と活動を設定する演習3：高齢者 高齢者の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、高齢者の音楽活動に使用する曲を練習する(4H)						
14	この授業のレポート課題内容を説明する。 [準備・課題]レポート課題に取り組む(4H)						
15	レポート課題の作成 レポート課題を作成、完成させる。 [準備・課題]学んだ内容の復習(4H)						
時間外での学修	教科書や指定された参考資料を読み、授業で学んだ事柄を理解して次の授業に臨んでください。						
受講学生へのメッセージ	音楽療法士になるにあたって基本的な知識と技能を身につけるための重要な授業です。課題の提出状況が評価に含まれます。オフィスアワーは研究室(B403:B号館4階)で毎週木曜日の13:00~14:30です。						

【MB】音楽療法実践 I		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	MT・P/MT・Or/MT・W/MTコース必修						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	音楽療法において現場で良く用いられる簡単な楽器のアンサンブルと、臨床現場に携帯できる伴奏楽器（ギター）の基本的奏法を学びます。期末試験はギターの弾き語りをを行います。また、実際に福祉施設に出かけて音楽活動を実践し、レポートを書きます。最初は2年生の実践を見学することから始まり、学期の終わりには自分たちで活動が発表できるようになることが目標です。						
授業方法	学内の演習および学外施設の実践						
到達目標	知識・理解	簡単な和音奏の編曲ができる。簡単な打楽器の編曲ができる。			△		
	思考・判断・表現	施設における音楽活動を適切に振り返り記録することができる。			◎		
	技能	ギターのオープンコードを用いて弾き歌いができる。			◎		
	関心・意欲・態度	施設における音楽活動をグループで一部担当することができる。施設の利用者や職員に適切に対応することができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		-	40	-	-	40
	実技試験		-	-	40	-	40
	発表（グループ発表含む）		10	-	-	5	15
	受講態度		-	-	-	5	5
	合計(点)		10	40	40	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 3回の施設実習を予定していますが、施設実習に2回以上欠席した学生、あるいは実習レポート提出のない学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	授業内でプリントを配布します。 ギターはアコースティックギター（スチール弦）をピックで弾く形が望ましいのでこれから購入を検討するならば参考にしてください。学内専用（持ち出し不可）のギターもありそれを使い学内で練習することが可能です。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション ミュージックベルのアンサンブル（長調のI-IV-V） グループワーク：長調の既成曲で3和音でできている曲を探し自分たちで練習、発表する。 [準備・課題]長調3和音の既成曲を1曲探し譜面を作成、指揮の練習をする。（1H）						
2	ミュージックベルのアンサンブル（短調のI-IV-V） 宿題の発表。1人でグループを指揮する。短調の既成曲で3和音の曲を探し、アンサンブルの指揮をする練習を行う。わかりやすい合図の出し方を学ぶ。 [準備・課題]短調3和音の既成曲を1曲探し譜面を作成、指揮の練習をする。実習施設について調べる（1H）						
3	デイサービスにて音楽療法活動の見学 施設における適切な振る舞い（対象者への言葉かけ、身だしなみなど）ができる。 [準備・課題]学んだ内容の復習、見学レポート作成（1H）						
4	簡単なリズム楽器によるアンサンブル 2つのグループに分け、小物楽器のアンサンブルを行う。 [準備・課題]自分で1曲を選び小物楽器アンサンブルのための譜面を作成する（1H）						
5	ギター各部の名称、メンテナンスについて ダイアグラムの読み方、チューニングとオープンコード ①Em、E [準備・課題]学んだ内容の復習、課題曲の練習、A、A7、D、D7コードの予習（1H）						
6	オープンコード②A、A7、D、D7 [準備・課題]学んだ内容の復習、課題曲の練習、G、G7コードの予習（1H）						
7	特別養護老人ホームにて音楽療法活動の見学と補助 施設における適切な振る舞い（対象者への言葉かけ、身だしなみなど）ができる。 [準備・課題]見学レポートの作成。特に反応の良かった活動の要因とそうでない活動について課題点を記録する（1H）						
8	オープンコード③G、G7 [準備・課題]学んだ内容の復習、課題曲の練習、C、C7コードの予習（1H）						
9	オープンコード④C、C7 [準備・課題]学んだ内容の復習、課題曲の練習、Fコードの予習（1H）						
10	オープンコード⑤F アルペジオ [準備・課題]学んだ内容の復習、試験課題曲の選定（1H）						
11	障害者デイサービスにて音楽療法活動の見学と実践の手伝い 施設における適切な振る舞い（対象者への言葉かけ、身だしなみなど）ができる。 [準備・課題]見学レポートの作成、次回活動計画に向けた課題点を記載できるようにする（1H）						
12	試験の準備① 自分で弾ける曲を選び指導を受ける [準備・課題]学んだ内容の復習、ゆっくりと止まらずに演奏できるようにする（1H）						
13	試験の準備② 自分で弾ける曲を選び指導を受ける [準備・課題]学んだ内容の復習、テンポを上げて演奏できるようにする（1H）						

内容	
実施回	授業内容・目標
14	試験の準備③ 自分で弾ける曲を選び指導を受ける [準備・課題]学んだ内容の復習、弾き歌いのために声と演奏のバランスに気をつける (1H)
15	実技試験(ギター弾き歌い) 後期課題の説明、レポート課題の説明 [準備・課題]学んだ内容の復習、レポート課題の作成 (1H)
時間外での学修	施設での実践準備は授業内だけではなく授業外でも責任を持って行ってください。 アンサンブルの発表はグループで行いますので、協調性を持って課題に取り組んでください。
受講学生へのメッセージ	ギター(クラシック、フォークどちらでも可)は各自用意してください。第5週目から使用します。学校のギターは学内のみの練習に貸し出しします。 オフィスアワーは研究室(B403:B号館4階)で毎週木曜日の13:00~14:30です。

【MS】音楽療法実践Ⅱ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	MT・(P)/MT・(Or)/MT・(W)/MTコース必修						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	福祉施設におけるボランティア活動を通じて対象者への接し方や適切な行動を身につけることを目標とします。人前に出て話すこと、指導することにも慣れることができるように、役割を交代で分担します。グループ内で共同作業を行う上でのコミュニケーション能力を高めることも目的としています。						
授業方法	学内の演習と学外における実践						
到達目標	知識・理解	対象者グループの目標に沿った音楽活動を計画することができる。			△		
	思考・判断・表現	グループに分かれて音楽療法活動を計画、実践、記録を取ることができる。			◎		
	技能	高齢者と児童の現場でグループ音楽活動を実施することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	それぞれの施設でふさわしい振る舞いをする事ができる。グループ内で共同作業ができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		-	30	20	-	50
	受講態度		-	-	-	20	20
	発表(グループ発表含む)		10	-	10	10	30
	合計(点)		10	30	30	30	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。施設実習に3回出ますが2回以上欠席した学生、実習レポートの提出のない学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	授業内でプリントを配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 高齢者を対象とした音楽療法セッション1：対象者の説明、施設の概要など。対象者にあった選曲を行う。 [準備・課題]学んだ内容の復習、担当する活動で使用する高齢者に向けた曲の譜面を準備する(1H)						
2	高齢者を対象とした音楽療法セッション2：活動計画 [準備・課題]学んだ内容の復習、担当する活動の高齢者に向けた曲を練習する(1H)						
3	高齢者を対象とした音楽療法セッション3：活動の準備 [準備・課題]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、高齢者対象の目標設定に沿った提示を練習する(1H)						
4	高齢者を対象とした音楽療法セッション4：リハーサル [準備・課題]学んだ内容の復習、担当する活動の説明や流れを確認する。高齢者施設での活動の留意点を復習する(1H)						
5	高齢者を対象とした音楽療法セッション5：実践 [準備・課題]実践記録を記入する。自分の行った活動への対象者の反応を記録する。高齢者への働きかけで気をつけた点についてふりかえる(1H)						
6	先週の振り返り クリスマスコンサートのレポート1 [準備・課題]学んだ内容の復習、担当する活動のクリスマスに関連する曲の譜面を準備する(1H)						
7	クリスマスコンサートのレポート2 [準備・課題]学んだ内容の復習、担当する活動のクリスマスに関連する曲を練習する(1H)						
8	障害者を対象とした音楽活動準備 [準備・課題]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、障害者を対象とした目標設定に沿った提示を練習する(1H)						
9	障害者施設へ出向いての音楽活動ボランティア1 [準備・課題]実践記録の記入、障害者に対する接し方、働きかけについて記録する(1H)						
10	先週の振り返り、記録の提出、活動計画の作成 [準備・課題]学んだ内容の復習、今回の活動の反省点を踏まえた活動計画の作成(1H)						
11	障害者施設へのボランティア活動リハーサル [準備・課題]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、障害者に対する音楽療法の目標設定に沿った提示方法について各自で練習する(1H)						
12	障害者施設へのボランティア活動2 [準備・課題]実践記録を記入する。自分の行った活動への対象者の反応を記録する。表情、視線や発声について記録できるようにする(1H)						
13	先週の振り返り、記録の提出 [準備・課題]学んだ内容の復習、他の学生の振り返りも参考に(1H)						
14	音楽活動以外のレクリエーション技術 [準備・課題]学んだ内容の復習、自分でできる音楽活動以外のレクリエーションについてまとめる(1H)						
15	授業のまとめ、レポート課題について [準備・課題]学んだ内容の復習、レポートを作成、完成させる(1H)						
時間外での学修	自分が担当する活動は自分で責任を持って時間外に準備してください。授業時間は計画や合わせるためのリハーサルに使います。						
受講学生へのメッセージ	多少の失敗は恐れず、積極的に学ぶ姿勢で対象者に接してください。オフィスアワーは研究室(B403:B号館4階)で毎週木曜日の13:00~14:30です。						

【MB】 ウインドアンサンブル I A		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・野々垣 行恵						
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修						
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」						
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。			△		
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。			△		
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。長音階のスケールや正しい音程感覚をはじめとする演奏技術を身につける。			◎		
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。パート内交流。 [準備・課題] シラバスの熟読・自己の基礎力を確認 (2h~4h)						
2	基礎力向上の為の講座① (個人の基礎力チェック) パート内で確認し合う。 及び基礎力向上のための楽曲①配布・音だし [準備・課題] 楽曲①の研究及び練習、個々に基礎力をチェック (2h~4h)						
3	基礎力向上の為の講座③ (ロングトーン) 及び音楽鑑賞用楽曲②配布・音出し [準備・課題] 楽曲②の研究及び練習、ロングトーンの実践 (2h~4h)						
4	基礎力向上の為の講座⑤ (チューニング①) 及び音楽鑑賞用楽曲③配布・音だし [準備・課題] 楽曲③の研究及び練習、チューニング方法の確認 (2h~4h)						
5	基礎力向上の為の講座⑦ (長音階スケール) パート内で確認し合う。 及び音楽鑑賞用楽曲④配布・音出し [準備・課題] 楽曲④の研究及び練習、長音階スケールの練習 (2h~4h)						
6	基礎力向上の為の講座⑨ (長音階スケール) 及び音楽鑑賞用楽曲⑤配布・音出し [準備・課題] 楽曲⑤の研究及び練習、長音階スケールの練習 (2h~4h)						
7	基礎力向上の為の講座⑪ (ユニゾン) 及び音楽鑑賞用楽曲⑥配布・音出し [準備・課題] 楽曲⑥の研究及び練習、ユニゾンの合わせ方を復習 (2h~4h)						
8	基礎力向上の為の講座⑬ (3連符と12/8拍子での音階) 及び音楽鑑賞用楽曲⑦配布・音だし [準備・課題] 楽曲⑦の研究及び練習、3連符と12/8拍子での音階練習 (2h~4h)						
9	基礎力向上の為の講座⑮ (16分音符での音階) 及び音楽鑑賞用楽曲⑧配布・音出し [準備・課題] 楽曲⑧の研究及び練習、16分音符での音階練習 (2h~4h)						
10	基礎力向上の為の講座⑰ (3度) 及び音楽鑑賞用楽曲⑨配布・音だし [準備・課題] 楽曲⑨の研究及び練習、3度の練習 (2h~4h)						
11	基礎力向上の為の講座⑱ (4度) 及び音楽鑑賞用楽曲⑩配布・音出し [準備・課題] 楽曲⑩の研究及び練習、4度の練習 (2h~4h)						
12	基礎力向上の為の講座⑲ (5度) 及び音楽鑑賞用楽曲⑪配布・音だし [準備・課題] 楽曲⑪の研究及び練習、5度の練習 (2h~4h)						
13	基礎力向上の為の講座㉓ (アルペジオ:長調) 及び音楽鑑賞用楽曲⑫配布・音出し [準備・課題] 楽曲⑫の研究及び練習、アルペジオ:長調の練習 (2h~4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
14	基礎力向上の為の講座㉔（3度・4度・5度・6度の練習） 及び音楽鑑賞用楽曲⑬配布・音出し [準備・課題]楽曲⑬の研究及び練習、3度・4度・5度・6度の練習（2h～4h）
15	基礎力向上の為の講座㉕（長3和音と属7の和音） 試験指定曲の合奏 [準備・課題]試験指定の研究及び練習、長3和音と属7の和音の練習（2h～4h）
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【MB】 ウインドアンサンブル I B		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・長尾 洪基						
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修						
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」						
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セッションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。			△		
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。			△		
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。長音階のスケールや正しい音程感覚をはじめとする演奏技術を身につける。			◎		
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セッション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	入学前課題発表・鑑賞 [準備・課題]入学前課題の研究・練習・復習 (2h~4h)						
2	基礎力向上の為の講座② (個人の基礎力チェック) パート内で確認し合う。 及び基礎力向上のための楽曲①合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲①の研究及び練習、個々に基礎力をチェック (2h~4h)						
3	基礎力向上の為の講座④ (半音階) 及び音楽鑑賞用楽曲②合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲②の研究及び練習、半音階の練習 (2h~4h)						
4	基礎力向上の為の講座⑥ (チューニング②) 及び音楽鑑賞用楽曲③合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲③の研究及び練習、チューニング方法の実践 (2h~4h)						
5	基礎力向上の為の講座⑧ (長音階スケール) パート内で確認し合う。 及び音楽鑑賞用楽曲④合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲④の研究及び練習、長音階スケールの練習 (2h~4h)						
6	基礎力向上の為の講座⑩ (ユニゾン) 及び音楽鑑賞用楽曲⑤合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑤の研究及び練習、ユニゾンを合わせる練習 (2h~4h)						
7	基礎力向上の為の講座⑫ (3連符と12/8拍子での音階) 及び音楽鑑賞用楽曲⑥合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑥の研究及び練習、3連符と12/8拍子での音階練習 (2h~4h)						
8	基礎力向上の為の講座⑭ (16分音符での音階) 及び音楽鑑賞用楽曲⑦合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑦の研究及び練習、16分音符での音階練習 (2h~4h)						
9	基礎力向上の為の講座⑯ (3度) 及び音楽鑑賞用楽曲⑧合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑧の研究及び練習、3度の練習 (2h~4h)						
10	基礎力向上の為の講座⑰ (4度) 及び音楽鑑賞用楽曲⑨合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑨の研究及び練習、4度の練習 (2h~4h)						
11	基礎力向上の為の講座⑱ (5度) 及び音楽鑑賞用楽曲⑩合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑩の研究及び練習、5度の練習 (2h~4h)						
12	基礎力向上の為の講座㉒ (アルペジオ：長調) 及び音楽鑑賞用楽曲⑪合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑪の研究及び練習、アルペジオ：長調の練習 (2h~4h)						
13	基礎力向上の為の講座㉔ (3度・4度・5度・6度の練習) 及び音楽鑑賞用楽曲⑫合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑫の研究及び練習、3度・4度・5度・6度の練習 (2h~4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
14	基礎力向上の為の講座㉔（長3和音と属7の和音） 及び音楽鑑賞用楽曲㉓合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲㉓の研究及び練習、長3和音と属7の和音の練習（2h～4h）
15	基礎力向上の為の講座まとめ 試験指定曲の合奏 [準備・課題]試験指定の研究及び練習（2h～4h）
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セッション練習等を行ってください。
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【MS】ウインドアンサンブル I C (1年次生)		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	必修	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・野々垣 行恵						
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修						
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」						
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほか各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セッションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。			△		
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。			△		
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。短音階スケールやフレーズの歌い方をはじめとする演奏技術を身につける。			◎		
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セッション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	基礎力向上の為の講座①(短音階スケール)及び音楽鑑賞用楽曲①配布・音だし [準備・課題]楽曲①の研究及び練習、短音階スケールの練習 (2h~4h)						
2	基礎力向上の為の講座③(短音階スケール)パート内で確認し合う。 及び音楽鑑賞用楽曲②配布・音出し [準備・課題]楽曲②の研究及び練習、短音階スケールの練習 (2h~4h)						
3	基礎力向上の為の講座⑤(3連符と12/8拍子での音階)及び音楽鑑賞用楽曲③配布・音だし [準備・課題]楽曲③の研究及び練習、3連符と12/8拍子での音階練習 (2h~4h)						
4	基礎力向上の為の講座⑦(16分音符での音階)及び音楽鑑賞用楽曲④配布・音出し [準備・課題]楽曲④の研究及び練習、16分音符での音階練習 (2h~4h)						
5	基礎力向上の為の講座⑨(3度)及び音楽鑑賞用楽曲⑤配布・音出し [準備・課題]楽曲⑤の研究及び練習、3度の練習 (2h~4h)						
6	基礎力向上の為の講座⑪(アルペジオ:短調)及び音楽鑑賞用楽曲⑥配布・音出し [準備・課題]楽曲⑥の研究及び練習、アルペジオ:短調の練習 (2h~4h)						
7	基礎力向上の為の講座⑬(短3和音と減7の和音)及び定期演奏会選曲・音だし1 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究、短3和音と減7の和音の練習 (2h~4h)						
8	基礎力向上の為の講座⑮(グルーピング)及び定期演奏会選曲・音だし3 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究、グルーピングの復習 (2h~4h)						
9	基礎力向上の為の講座⑰(重心)及び定期演奏会に向けての練習1 楽曲1・2 [準備・課題]定期演奏会の研究及び楽曲1・2の練習、重心の復習 (2h~4h)						
10	基礎力向上の為の講座⑲(コントラスト)及び定期演奏会に向けての練習3 楽曲3・4 [準備・課題]定期演奏会の研究及び楽曲3・4の練習、コントラストの復習 (2h~4h)						
11	定期演奏会に向けての練習5 楽曲5~7 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究及び楽曲5~7の練習(2h~4h)						
12	定期演奏会に向けての練習7 楽曲8~10 [準備・課題]定期演奏会の研究及び楽曲8~10の練習(2h~4h)						
13	定期演奏会に向けての練習9 全曲 [準備・課題]定期演奏会の研究及び全曲の練習(2h~4h)						
14	定期演奏会に向けての練習11 全曲 及び試験指定曲の合奏 [準備・課題]定期演奏会の研究・練習及び試験指定曲の研究・練習 (2h~4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	定期演奏会に向けての練習 1 3 全曲 及び試験指定曲の合奏 [準備・課題]定期演奏会の研究・練習及び試験指定曲の研究・練習 (2h~4h)
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【MS】ウインドアンサンブル I D (1年次生)		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	必修	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・長尾 洪基						
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修						
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」						
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほか各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セッションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。			△		
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。			△		
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。短音階スケールやフレーズの歌い方をはじめとする演奏技術を身につける。			◎		
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セッション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	基礎力向上の為の講座②(短音階スケール)及び音楽鑑賞用楽曲①合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲①の研究及び練習、短音階スケールの練習 (2h~4h)						
2	基礎力向上の為の講座④(短音階スケール)パートで確認し合う。 及び音楽鑑賞用楽曲②合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲②の研究及び練習、短音階スケールの練習 (2h~4h)						
3	基礎力向上の為の講座⑥(3連符と12/8拍子での音階)及び音楽鑑賞用楽曲③合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲③の研究及び練習、3連符と12/8拍子での音階練習 (2h~4h)						
4	基礎力向上の為の講座⑧(16分音符での音階)及び音楽鑑賞用楽曲④合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲④の研究及び練習、16分音符での音階練習 (2h~4h)						
5	基礎力向上の為の講座⑩(3度)及び音楽鑑賞用楽曲⑤合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑤の研究及び練習、3度の練習 (2h~4h)						
6	基礎力向上の為の講座⑫(アルペジオ:短調)及び音楽鑑賞用楽曲⑥合奏・仕上げ [準備・課題]楽曲⑥の研究及び練習、アルペジオ:短調の練習 (2h~4h)						
7	基礎力向上の為の講座⑭(短3和音と減7の和音)及び定期演奏会選曲・音だし2 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究、短3和音と減7の和音の練習 (2h~4h)						
8	基礎力向上の為の講座⑯(フレーズ)及び定期演奏会選曲・音だし4 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究、フレーズの復習 (2h~4h)						
9	基礎力向上の為の講座⑰(アゴーギグ)及び定期演奏会に向けての練習2 楽曲1・2 [準備・課題]定期演奏会の研究及び楽曲1・2の練習、アゴーギグの復習(2h~4h)						
10	基礎力向上の為の講座まとめ及び定期演奏会に向けての練習4 楽曲3・4 [準備・課題]定期演奏会の研究及び楽曲3・4の練習(2h~4h)						
11	定期演奏会に向けての練習6 楽曲5~7 [準備・課題]定期演奏会の研究及び楽曲5~7の練習(2h~4h)						
12	定期演奏会に向けての練習8 楽曲8~10 [準備・課題]定期演奏会の研究及び楽曲8~10の練習(2h~4h)						
13	定期演奏会に向けての練習10 全曲 [準備・課題]定期演奏会の研究及び練習(2h~4h)						
14	定期演奏会に向けての練習12 全曲及び試験指定曲の合奏 [準備・課題]定期演奏会の研究・練習及び試験指定曲の研究・練習 (2h~4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	定期演奏会に向けての練習14 全曲 及び試験指定曲の合奏 [準備・課題]定期演奏会の研究・練習及び試験指定曲の研究・練習(2h~4h)
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【MB】吹奏楽理論 I		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年						
授業内容	一般的な音楽理論を含め、吹奏楽を指導、演奏する上での専攻楽器以外の各楽器の特徴を学び、移調を理解します。						
授業方法	音楽理論を含め吹奏楽で必要とされる理論を講義にて行います。						
到達目標	知識・理解	専攻楽器以外の特徴も理解する			◎		
	思考・判断・表現	楽典知識を活用できること			△		
	技能	移調を即座に出来ること			○		
	関心・意欲・態度	意欲的に授業に参加し、課題に取り組むこと			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	10	20	-	80
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		50	10	20	20	100
評価の特記事項							
テキスト	なし						
参考書・教材	その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス・授業の内容 [準備・課題]音楽基礎知識の予習(4h)						
2	楽譜・音符について [準備・課題]本時学習内容の復習(4h)						
3	音程1 [準備・課題]本時学習内容の復習(4h)						
4	音程2 [準備・課題]本時学習内容の復習(4h)						
5	音程3 [準備・課題]本時学習内容の復習(4h)						
6	音階 [準備・課題]本時学習内容の復習(4h)						
7	近親調 [準備・課題]本時学習内容の復習(4h)						
8	楽語・楽器論木管楽器1 フルートについて [準備・課題]本時学習内容の復習(4h)						
9	楽語・楽器論木管楽器2 オーボエ・ファゴットについて [準備・課題]本時学習内容の復習(4h)						
10	楽語・楽器論木管楽器3 クラリネットについて [準備・課題]本時学習内容の復習(4h)						
11	楽語・楽器論木管楽器4 サクソフォンについて [準備・課題]本時学習内容の復習(4h)						
12	移調 基本編 [準備・課題]本時学習内容の復習(4h)						
13	移調 応用編1 [準備・課題]本時学習内容の復習(4h)						
14	移調 応用編2 [準備・課題]本時学習内容の復習(4h)						
15	前期まとめ・筆記試験対策 [準備・課題]本時学習内容の復習(4h)						
時間外での学修	専攻楽器以外の理解が重要となってくるので、合奏やアンサンブル中も他楽器のことについて意識をもつこと。						
受講学生へのメッセージ	移調等の問題によって混乱しがちになりますが、たくさんの練習問題をこなしながら確実に理解していきましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。						

【MS】吹奏楽理論Ⅱ		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年						
授業内容	吹奏楽を指導、演奏する上で、各楽器の特徴を理解しスコアの読み方を学び、簡単な編曲を行います。						
授業方法	音楽理論を含め、吹奏楽で必要とされる理論を講義にて行います。						
到達目標	知識・理解	専攻楽器以外の特徴も理解する			◎		
	思考・判断・表現	楽典知識を活用できること			△		
	技能	移調を即座に出来ること			○		
	関心・意欲・態度	意欲的に授業に参加し、課題に取り組むこと			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	10	20	-	80
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		50	10	20	20	100
評価の特記事項							
テキスト	なし						
参考書・教材	その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	前期の復習 [準備・課題] 音楽基礎知識の予習(4h)						
2	楽器論金管楽器1 トランペット [準備・課題] 本時学習内容の復習(4h)						
3	楽器論金管楽器2 ホルン [準備・課題] 本時学習内容の復習(4h)						
4	楽器論金管楽器3 トロンボーン [準備・課題] 本時学習内容の復習(4h)						
5	楽器論金管楽器4 ユーフォニアム [準備・課題] 本時学習内容の復習(4h)						
6	楽器論金管楽器5 テューバ [準備・課題] 本時学習内容の復習(4h)						
7	コントラバスの構造・特徴について [準備・課題] 本時学習内容の復習(4h)						
8	コンデンススコアをアンサンブル譜へ書き替え(1) [準備・課題] 本時学習内容の復習(4h)						
9	コンデンススコアをアンサンブル譜へ書き替え(2) [準備・課題] 本時学習内容の復習(4h)						
10	コンデンススコアをアンサンブル譜へ書き替え(3) [準備・課題] 本時学習内容の復習(4h)						
11	打楽器について(種類・音域・楽譜の読み方) [準備・課題] 本時学習内容の復習(4h)						
12	打楽器の楽譜の書き方・作成(ドラムマーチ) [準備・課題] 本時学習内容の復習(4h)						
13	吹奏楽(管打楽器アンサンブル)の楽譜の書き方・作成1 [準備・課題] 本時学習内容の復習(4h)						
14	吹奏楽(管打楽器アンサンブル)の楽譜の書き方・作成2 [準備・課題] 本時学習内容の復習(4h)						
15	後期まとめ・筆記試験対策 [準備・課題] 本時学習内容の復習(4h)						
時間外での学修	専攻楽器以外の特徴が重要となってくるので、合奏やアンサンブル中も他楽器のことについて意識をもつこと。						
受講学生へのメッセージ	各自作成した楽譜を提出します。それぞれの楽器についての知識を再確認しておきましょう。オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。						

【MS】スコアリーディング		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年						
授業内容	吹奏楽を指導・演奏する為に必要な楽譜の読み取り方や内容解釈の方法を学び、実際の演奏への応用を研究します。						
授業方法	楽曲分析・和声・楽器法など、楽曲内容を読み取るために必要な知識や技術を課題や演習にて習得し、実際に吹奏楽楽曲（の総譜およびコンデンススコア）を用いてスコアリーディング実習を行います。						
到達目標	知識・理解	楽曲分析、和声、楽器法、などの知識を習得する			◎		
	思考・判断・表現	総譜を総合的に読み進める力を付ける			○		
	技能	読み取った内容を演奏や指導に活かすことができる			△		
	関心・意欲・態度	多様な音楽に関心を持ち積極的に取り込もうとすることができる			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		50	10	10	-	70
	受講態度		-	10	-	20	30
	合計(点)		50	20	10	20	100
評価の特記事項							
テキスト	なし						
参考書・教材	その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス・授業の内容 [準備・課題]本時学習内容の復習(4h)						
2	楽曲の形式について1 [準備・課題]本時学習内容（1部形式、2部形式、3部形式など）の復習(4h)						
3	楽曲の形式について2 [準備・課題]本時学習内容（複合形式、ソナタ形式など）の復習(4h)						
4	和声基礎1 [準備・課題]本時学習内容（基本形3和音の配置）の復習(4h)						
5	和声基礎2 [準備・課題]本時学習内容（基本形3和音の連結）の復習(4h)						
6	和声基礎3 [準備・課題]本時学習内容（非和声音）の復習(4h)						
7	楽器法（オーケストレーション）1 [準備・課題]本時学習内容（各楽器の特性および記譜）の復習(4h)						
8	楽器法（オーケストレーション）2 [準備・課題]本時学習内容（スコアの読譜）の復習(4h)						
9	楽曲分析1 [準備・課題]本時学習内容（楽曲の形式観）の復習(4h)						
10	楽曲分析2 [準備・課題]本時学習内容（楽曲各部分の和声解析）の復習(4h)						
11	楽曲分析3 [準備・課題]本時学習内容（読譜し楽曲の解釈）の復習(4h)						
12	スコアリーディング1 [準備・課題]本時学習内容（課題曲の読譜1）の復習(4h)						
13	スコアリーディング2 [準備・課題]本時学習内容（課題曲の読譜2）の復習(4h)						
14	スコアリーディング3 [準備・課題]本時学習内容（課題曲の読譜3及び演奏解釈への応用）の復習(4h)						
15	スコアリーディング4・筆記試験対策 [準備・課題]本時学習内容（1回～14回までの学習内容）の復習(4h)						
時間外での学修	学習内容が多岐にわたります。その一つ一つを丁寧に復習し、総合的な力にしていきたいと思います。吹奏楽だけではなく様々なジャンルの優れた音楽を積極的に聞きましょう。						
受講学生へのメッセージ	楽曲解釈を深めより質の高い演奏を目指す為に、音楽内容を正確に読み取る力をつけましょう。オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。						

【MB】リペア基礎(木管) I		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	松永 幸宏・鬼頭 加奈						
資格・制限等	R・W/Rコース必修						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、鬼頭：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	木管楽器（クラリネット、フルート、サクソフォン）の仕組み・構造を理解し、基礎となるリペア技術を学ぶ。 安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用法を学び、リペア技術に必要な基本となる動作や取扱い方を学んでいきます。						
授業方法	全体での実習を中心とし、講義や小テストなどを入れながら、木管楽器の基本的なリペア技術、基礎的な構造知識が身に着く授業にしていきます。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組み、構造を理解し、基礎的な管楽器の状態を把握することが出来る。			△		
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断できる。			◎		
	技能	各木管楽器の修理箇所到的確な技能を持って対応する。			◎		
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関して関心・興味を持ち、自らが率先して学修することが出来る。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	30	50	-	80
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		10	30	50	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』（上・下2巻）ヤマハ(15, 120円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	各社カタログ、必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方、工具の確認、使用方法について説明 [準備・課題] 工具の使い方、名称の復習 (1h)						
2	工具の加工、商品知識 [準備・課題] 加工技術の復習 (1h)						
3	クラリネットの初歩実習 キイ分解組み立てを行う事で、構造やキイ名称を学修する。また、工具の使用 方法についての説明も行う。 [準備・課題] 分解・組立の復習 (2h)						
4	クラリネットの基礎実習① 連絡バランス調整及び、タンポ交換手順 [準備・課題] タンポ交換の復習 (2h)						
5	フルート初歩実習 キイ分解組み立てを行う事で、構造やキイ名称を学修する。また、工具の使用 方法についての説明も行う。 [準備・課題] 分解・組立の復習 (2h)						
6	フルートの基礎実習① タンポ交換手順 [準備・課題] タンポ交換の復習 (2h)						
7	フルートの基礎実習② タンポ交換、連絡バランス調整 [準備・課題] タンポ交換の復習 (2h)						
8	サクソフォンの初歩実習 キイ分解組み立てを行う事で、構造やキイ名称を学修する。また、工具の 使用方法についても説明を行う。 [準備・課題] 分解・組立の復習 (3h)						
9	サクソフォンの基礎実習① タンポ交換手順 [準備・課題] タンポ交換の復習 (2h)						
10	サクソフォンの基礎実習② タンポ交換手順、連絡バランス調整 [準備・課題] タンポ交換の復習 (2h)						
11	クラリネットの基礎実習② ジョイントコルク交換 刃物等を使用するため、作業について細かく説明を行う。 [準備・課題] ジョイントコルク交換の復習 (1h)						
12	クラリネットの基礎実習③ 全体調整 (バネ圧、開き等の確認) [準備・課題] バランス調整の復習 (1h)						
13	フルートの基礎実習③ ヘッドコルク交換、反射板位置確認、 [準備・課題] 頭部管の復習 (1h)						
14	フルートの基礎実習④ 全体調整 (バネ圧、開き、アソビの取り方等) [準備・課題] バランス調整の復習 (2h)						
15	前期木管楽器復習演習 木管楽器全般について復習を行い、未達成な項目を解消する。						
時間外での学修	授業で学んだ手順をしっかりと復習して身につけましょう。 また、日頃から多くの楽器を見る、触るなどを行い、さまざまな楽器を知って下さい。 特に経験楽器については、よく観察しておいて下さい。						
受講学生へのメッセージ	全員が初めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持ち続けて取り組んで下さい。 分からない事は、後回しにしないで、直ぐに質問し理解をすることが上達への近道です。 板書は、ルーザーリーフなどに書き込みと各楽器ごとに纏めることが出来ますので活用して下さい。 オフィスアワーは、毎週水曜日5限16：40～18：10 F201教室で行います。						

【MS】リペア基礎(木管)Ⅱ		音楽総合学科		1年後期		
		2単位	必修	実技	90時間	
教員	松永 幸宏・鬼頭 加奈					
資格・制限等	R・W/Rコース必修					
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、鬼頭：楽器店修理販売職・10年					
授業内容	前期で学んだ木管楽器（クラリネット、フルート、サクソフォン）の基礎的な実習を更に拡大してリペアを行う事によって目指す品質はどう言ったものなのかを、各楽器で十分に理解する。前期で、工具等使い方を理解したと思いますが、より安全な作業を行うには、どうしたら良いかを考えながら学んでいきます。					
授業方法	実習がメインとなり、教科書や配布プリント、DVD、各社カタログを取り入れながら、前期授業で学んだ内容をさらに拡大して総合的なリペア技術を学修します。					
到達目標	知識・理解	各木管楽器のメーカーによるキンステムの違い（特別講義で解説します）			△	
	思考・判断・表現	リペア作業をするにあたって、原因を究明し対処法を考え作業を組み立てる			◎	
	技能	各木管楽器のリペア箇所適切な技能を持って対応する。			◎	
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関するの情報、他社系のリペア手段など興味を持って、自らが率先して学修する。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	10	-	-	-	10
	実技試験	-	30	50	-	80
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	10	30	50	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』（上・下2巻）ヤマハ(15, 120円) リペア科目共通テキスト					
参考書・教材	各社カタログ、資料などは、授業毎に配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	サクソフォンの基礎実習③ ネックコルク交換 [準備・課題]ネックコルク交換の復習 (1h)					
2	サクソフォンの基礎実習④ 全体調整（テーブルキイ）タンポ交換 [準備・課題]バランス調整の復習 (3h～5h)					
3	クラリネットの総合実習① タンポ交換、調整復習 [準備・課題]全体調整の復習 (3h)					
4	クラリネットの総合実習② タンポ交換、調整復習 [準備・課題]全体調整の復習 (3h)					
5	フルートの総合実習① タンポ交換、調整復習 [準備・課題]全体調整の復習 (3h)					
6	フルートの総合実習② タンポ交換、調整復習 [準備・課題]全体調整の復習 (3h)					
7	サクソフォンの総合実習① タンポ交換、調整復習 [準備・課題]全体調整の復習 (3h)					
8	サクソフォンの総合実習② タンポ交換、調整復習 [準備・課題]全体調整の復習 (3h)					
9	クラリネットの総合実習③ 全タンポ交換、全体調整 [準備・課題]時間短縮、総合的な復習 (3h)					
10	クラリネットの総合実習④ 全タンポ交換、全体調整 [準備・課題]時間短縮、総合的な復習 (3h)					
11	フルートの総合実習③ 全タンポ交換、全体調整 [準備・課題]時間短縮、総合的な復習 (3h)					
12	フルートの総合実習④ 全タンポ交換、全体調整 [準備・課題]時間短縮、総合的な復習 (3h)					
13	サクソフォンの総合実習③ 部分タンポ交換、全体調整 [準備・課題]時間短縮、総合的な復習 (3h)					
14	サクソフォンの総合実習④ 部分タンポ交換、全体調整 [準備・課題]時間短縮、総合的な復習 (3h)					
15	クラリネット全タンポ交換、全体調整、ジョイントコルク交換 [準備・課題]時間短縮、総合的な復習 (5h)					
時間外での学修	反復練習をすることによって精度、時間短縮を心がけよう。 また、日頃から多くの楽器を見る触れる等を行い、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいて下さい。					
受講学生へのメッセージ	基本手順をしっかり身につけて2年次への準備をしよう。分からない事は1年次で解決すること。 オフィスアワーは、毎週水曜日5限目16：40～18：10 F201教室で行います。					

【MB】リペア基礎(金管) I		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	松永 幸宏・鬼頭 加奈						
資格・制限等	R・W/Rコース必修						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、鬼頭：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	金管楽器（トランペット、ホルン、トロンボーン）の仕組み・構造を理解し、基礎となるリペア技術を学ぶ。 安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用方法を学び、リペア技術に必要な基本となる動作や取り扱い方を学んでいきます。						
授業方法	全体での実習を中心とし、講義や小テストを入れながら、金管楽器の基本的なリペア技術、基本的な構造知識が身に着く授業にしていきます。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組み、構造を理解し、基本的な管楽器の状態を把握することが出来る。			△		
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断できる。			◎		
	技能	各金管楽器の修理箇所的確な技能を持って対応する。			◎		
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関して関心・興味を持ち、自らが率先して学修することが出来る。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	30	50	-	80
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		10	30	50	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』（上・下2巻）ヤマハ(15, 120円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	各社カタログ、資料などは授業毎に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方、使用工具の確認、使用方法の説明 [準備・課題] 工具使用方法、名称の復習 (1h)						
2	工具製作、トランペットの初歩実習 基礎知識、取扱い法、分解組み立て [準備・課題] 分解・組立の復習 (1h)						
3	トランペットの基礎実習① ピストン調整 [準備・課題] ピストン調整の復習 (2h)						
4	トランペットの基礎実習② 抜き差し管調整 [準備・課題] 抜き差し管調整の復習 (2h)						
5	ハンダ付け（溶接）初歩実習 基礎知識、使用工具説明 [準備・課題] 半田付けの復習 (1h)						
6	ハンダ付け（溶接）初歩実習 ハンダ付け作業 [準備・課題] 半田付けの復習 (2h)						
7	ホルンの初歩実習 基礎知識、取扱い方法、分解組み立て [準備・課題] 分解・組立の復習 (1h)						
8	ホルンの基礎実習① ロータリー糸（紐）交換 [準備・課題] ロータリー紐交換の復習 (2h)						
9	ホルンの基礎実習② ロータリー調整、使用工具説明 [準備・課題] ロータリー調整の復習 (2h)						
10	トロンボーンの初歩実習 基礎知識、取扱い法、 [準備・課題] 取り扱いの復習 (1h)						
11	トロンボーンの基礎実習① ウォーターキー分解、コルク交換、スライドストップフェルト交換 [準備・課題] 部品交換の復習 (2h)						
12	トロンボーンの基礎実習② スライド調整 [準備・課題] スライド調整の復習 (2h)						
13	ハンダ付け基礎実習① ハンダ分解組み立て [準備・課題] 半田分解・組立の復習 (2h)						
14	ハンダ付け基礎実習② ハンダ分解組み立て [準備・課題] 半田分解・組立の復習 (2h)						
15	前期金管楽器基礎復習演習 金管楽器全般についての復習を行い、未達成な項目を解消する。						
時間外での学修	授業で学んだ手順をしっかりと復習して、基礎をしっかりと身につけましょう。 また、日頃から多くの楽器を見る、触れるなどを行い、さまざまな楽器を知って下さい。 特に経験楽器については、よく観察しておいて下さい。						
受講学生へのメッセージ	全員が初めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持ち続け取り組んで下さい。 分からない事は、後回しにしないで、直ぐに質問し理解することが上達への近道です。 板書は、ルーズリーフなどに書き込むと、各楽器ごとに纏めることが出来ますので活用して下さい。 オフィスアワーは、毎週水曜日5限16：40～18：10 F201教室で行います。						

【MS】リペア基礎(金管)Ⅱ		音楽総合学科		1年後期		
		2単位	必修	実技	90時間	
教員	松永 幸宏・鬼頭 加奈					
資格・制限等	R・W/Rコース必修					
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、鬼頭：楽器店修理販売職・10年					
授業内容	前期で学んだ金管楽器（トランペット、ホルン、トロンボーン）の基礎的な実習を更に拡大して、リペアを行う事によって目指す品質はどういったものなのかを、各楽器で十分に理解する。前期で、工具等の使い方を理解したと思いますが、より安全な作業を行うには、どうしたら良いかを考えながら学んでいきます。					
授業方法	実習がメインとなり、教科書や配布のプリント、DVD、配布プリント、各社カタログを取り入れながら、前期授業で学んだ内容をさらに拡大して総合的なリペア技術を学修します。					
到達目標	知識・理解	各金管楽器のメーカーによる構造等の違い（特別講義等で解説します）			△	
	思考・判断・表現	リペア作業をするにあたって、原因を究明し対処法を考え作業を組み立てる			◎	
	技能	各金管楽器のリペア箇所適切な技能を持って対応する。			◎	
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関する情報、他社系のリペア手段など興味をもって、自身が率先して学修する。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	10	-	-	-	10
	実技試験	-	30	50	-	80
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	10	30	50	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』（上・下2巻）ヤマハ(15, 120円) リペア科目共通テキスト					
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	トランペットの基礎実習① 抜き差し管ヘコミ修正、ピッチ、平行度調整 [準備・課題]各部調整の復習 (2h)					
2	トランペットの基礎実習① 抜き差し管ヘコミ修正、ピッチ平行度調整 [準備・課題]各部調整の復習 (2h)					
3	トランペットの基礎実習② マウスパイプ（吹き込み管）ハンダ分解組み立て [準備・課題]交換手順の復習 (3h～5h)					
4	トランペットの基礎実習② マウスパイプ（吹き込み管）ハンダ分解組み立て [準備・課題]交換手順の復習 (3h～5h)					
5	ホルンの基礎実習② ロータリー調整 [準備・課題]ロータリー調整の復習 (2h)					
6	ホルンの基礎実習② ロータリー調整 [準備・課題]ロータリー調整の復習 (2h)					
7	ホルンの基礎実習② レバー位置、ロータリー糸（紐）のテンション調整 [準備・課題]レバー、紐交換の復習 (2h)					
8	ホルンの基礎実習② レバー位置、ロータリー糸（紐）のテンション調整 [準備・課題]レバー、紐交換の復習 (2h)					
9	トロンボーンの基礎実習② スライド調整、ウォーターキー調整 [準備・課題]スライド調整復習 (2h)					
10	トロンボーンの基礎実習② スライド調整、ストップフェルト交換 [準備・課題]スライド調整の復習 (2h)					
11	金管楽器基礎実習① マウスピース固着、抜き差し管固着、マウスピースシャック変形修正 [準備・課題]固着修正復習 (1h)					
12	トランペットの基礎実習② ピストン固着修正、マウスパイプハンダ付け [準備・課題]固着修正の復習 (3h～5h)					
13	ホルンの基礎実習② ロータリー固着修正、ロータリー糸（紐）交換、全体調整 [準備・課題]固着修正の復習 (3h～5h)					
14	トロンボーンの基礎実習② スライド調整、ウォーターキーコルク交換、スライドストップフェルト交換 [準備・課題]スライド調整の復習 (3h～5h)					
15	ホルンロータリー固着修正、ロータリー糸（紐）交換、レバー位置修正 全体調整 [準備・課題]全体調整の復習 (5h)					
時間外での学修	反復練習をすることによって精度、時間短縮を心がけよう。 感覚的な説明を行いますので、理解不足になりがちにありますが、反復によってコツ等を掴んで下さい。					
受講学生へのメッセージ	基本手順をしっかり身につけて2年次への準備をしよう。分からない事は1年次で解決すること。 オフィスアワーは毎週水曜日5限16：40～18：10 F201教室で行います。					

【MB】リペア基礎(総合) I		音楽総合学科		1年前期		
		3単位	必修	実技	120時間	
教員	鬼頭 加奈・木村 幾乃					
資格・制限等	R・W/Rコース必修					
実務家教員	鬼頭：楽器店修理販売職・10年、木村：楽器店修理販売職・10年					
授業内容	木管楽器、金管楽器の区分にとらわれず広角的なアプローチから、機能、構造を理解して、基礎となるリペア技術を学修する。 安全な作業を十分に理解して、工具の適切な使用方法を学び、リペアに必要な基本動作、扱い方を身につけ、基礎的な知識、技能の習得。 正確性、効率性、商品知識や接客など現場での内容も視野に入れて授業を行っていきます。					
授業方法	全体での実技を中心として、講義、小テストなどを入れながら、管楽器の基本的な作業動作、基本的な知識、技能が身に着く授業にしていきます。また、卒後の方向に向けて、業界や楽器店の仕事内容等についても講話を行います。					
到達目標	知識・理解	各管楽器の仕組み、構造を理解し、基礎的な管楽器の状態を把握することが出来る。			△	
	思考・判断・表現	各管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断できる。			◎	
	技能	各管楽器の修理箇所への的確な技能を持って対応する。			◎	
	関心・意欲・態度	管楽器のみならず、吹奏楽等で使用される楽器について関心や興味を持って、自らが率先して知識向上に向け学修する。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	10	-	-	-	10
	実技試験	-	30	50	-	80
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	10	30	50	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ(15, 120円) リペア科目共通テキスト					
参考書・教材	各社カタログ、資料は授業毎に配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	工具の加工① ヤスリ掛け実習 [準備・課題]ヤスリ掛けの復習 (1h)					
2	工具の加工① ヤスリ掛け実習 [準備・課題]ヤスリ掛けの復習 (1h)					
3	管楽器基礎知識① メンテナンス用品の取り扱い他 (DVD使用) [準備・課題]取り扱い方法の復習 (2h)					
4	管楽器基礎知識① メンテナンス用品の取り扱い他 (DVD使用) [準備・課題]取り扱いの復習 (2h)					
5	クラリネット、トランペット基礎確認テスト [準備・課題]確認テスト内容の復習 (1h)					
6	管楽器製造方法① 使用材料や加工法 [準備・課題]管楽器の材料、加工法の復習 (1h)					
7	管楽器製造方法② 使用材料、表面仕上げ、加工法 [準備・課題]管楽器の表面処理の復習 (1h)					
8	フルート、ホルン基礎確認テスト [準備・課題]確認テスト内容の復習 (1h)					
9	管楽器製造方法③ 使用材料、表面仕上げ、加工法 [準備・課題]管楽器の製造工程の復習 (1h)					
10	管楽器以外の楽器類 [準備・課題]各種楽器の種類の復習 (1h)					
11	サクソフォン、トロンボーン基礎確認テスト [準備・課題]確認テスト内容の復習 (1h)					
12	主要管楽器メーカー特別講義 [準備・課題]特別講義内容の復習 (3h~5h)					
13	楽器店での管楽器リペア① 先輩達の進路を交えて [準備・課題]現場での修理の復習 (2h)					
14	工房や管楽器専門店での管楽器リペア② 先輩達の進路を交えて [準備・課題]楽器店における修理の復習 (2h)					
15	前期総合基礎演習 [準備・課題]苦手な修理の復習 (3h~5h)					
時間外での学修	授業で学んだ手順をしっかりと復習し、基礎を身につけてください。 また、日頃から多くの楽器類を見る触れるなどして、様々な楽器を知って下さい。 特に自身の楽器については、よく観察しておいてください。					
受講学生へのメッセージ	全員が初めて学ぶことばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持って取り組んで下さい。分からないことを後回しにしないで、直ぐに質問し理解することが上達への近道です。 オフィスアワーは毎週水曜日5限16:40~18:10 F201教室で行います。					

【MS】リペア基礎(総合)Ⅱ		音楽総合学科		1年後期		
		3単位	必修	実技	120時間	
教員	鬼頭 加奈・木村 幾乃					
資格・制限等	R・W/Rコース必修					
実務家教員	鬼頭：楽器店修理販売職・10年、木村：楽器店修理販売職・10年					
授業内容	木管楽器、金管楽器の区分にとらわれず、多角的なアプローチから、仕組みや構造を理解し、基礎となるリペア技能を学習する。 安全な作業を十分に理解し、適切な工具の使用法を学び、リペア技能に必要な基本動作や扱い方を身につける、基本的な知識や技能の習得。 正確性、効率性、商品知識、接客など現場での内容も視野に入れて授業を行っていきます。 実技以外で、楽器店状況や工房、製造メーカーの現状等についても講義を行っていきます。					
授業方法	全体での実技を中心とし、講義、DVD、小テストなどを入れながら、管楽器の基本的なリペア技能、基本的な知識等が身につく授業にしています。					
到達目標	知識・理解	各管楽器の仕組み、構造を理解し基礎的な楽器の状態を把握する事が出来る。			△	
	思考・判断・表現	各管楽器の状態を把握し、リペア箇所を見つけ解決法を判断できる。			◎	
	技能	各管楽器の状態を把握し、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。			◎	
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味、関心をもち自らが率先して学修することが出来る。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	10	-	-	-	10
	実技試験	-	30	50	-	80
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	10	30	50	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ(15, 120円) リペア科目共通テキスト					
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	管楽器専門知識① [準備・課題] 専門知識の復習 (1h)					
2	管楽器専門知識② [準備・課題] 専門知識の復習 (1h)					
3	管楽器専門知識③ [準備・課題] 専門知識の復習 (1h)					
4	主要楽器メーカー講習② [準備・課題] メーカー講習内容の復習 (3h~5h)					
5	管楽器専門知識④ [準備・課題] 専門知識の復習 (1h)					
6	管楽器専門知識⑤ [準備・課題] 専門知識の復習 (1h)					
7	特殊工具を使用するリペア [準備・課題] 特殊工具使用方法の復習 (1h)					
8	総合確認テスト [準備・課題] 確認テスト内容の復習					
9	楽器店での管楽器リペア③ [準備・課題] リペア業務の内容の復習 (1h)					
10	楽器店での管楽器リペア④ [準備・課題] 店頭でのリペア業務の復習 (1h)					
11	楽器店での管楽器リペア⑤ [準備・課題] 学校販売でのリペア業務の復習 (1h)					
12	主要管楽器メーカー特別講義 [準備・課題] メーカー特別講義内容の復習 (3h~5h)					
13	後期総合基礎復習 [準備・課題] 時間短縮及び苦手修理の復習 (3h~5h)					
14	後期総合基礎復習 [準備・課題] 時間短縮及び苦手修理の復習 (3h~5h)					
15	後期総合基礎復習 [準備・課題] 時間短縮及び苦手修理の復習 (3h~5h)					
時間外での学修	繰り返し練習することによって精度、時間短縮に心がけてください。 また、日頃から多くの楽器を見る触れる等で、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいてください。					
受講学生へのメッセージ	基本手順をしっかり身につけ、2年次への準備をしっかりして下さい。 オフィスアワーは毎週水曜日5限16：40～18：10 F201教室で行います。					

【MB】リペア基礎演習(木管) I		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	松永 幸宏・木村 幾乃						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、木村：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	リペア基礎(木管)の授業で学んだ内容を再確認し基礎となるリペア技術を理解する。安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用法を学び、リペア技術に必要な基本となる動作や取扱い方を学んでいきます。						
授業方法	全体での実習を中心とし、講義や小テストなどを入れながら、確認作業を行いリペア技術、基礎的な構造知識が身に着く授業にしていきます。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組み、構造を理解し、基礎的な管楽器の状態を把握することが出来る。			△		
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断できる。			◎		
	技能	各木管楽器の修理箇所的確な技能を持って対応する。			◎		
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関して関心・興味を持ち、自らが率先して学修することが出来る。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	30	50	-	80
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		10	30	50	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ(15, 120円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	各社カタログ、必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	工具の使用法の復習 [準備・課題]学んだ内容の復習(1h)						
2	工具の加工の復習 [準備・課題]工具の加工の復習(1h)						
3	クラリネットの初歩実習の復習 キイ分解組み立て、構造やキイ名称の再確認 [準備・課題]キイ名称の復習(2h)						
4	クラリネットの基礎実習①の復習 連絡バランス調整及び、タンポ交換手順の再確認 [準備・課題]タンポ交換手順の復習(2h)						
5	フルート初歩実習の復習 キイ分解組み立て、構造やキイ名称の再確認 [準備・課題]キイ名称の復習(2h)						
6	フルートの基礎実習①の復習 タンポ交換手順の再確認 [準備・課題]タンポ交換手順の復習(2h)						
7	フルートの基礎実習②の復習 タンポ交換、連絡バランス調整の再確認 [準備・課題]連絡バランス調整の復習(2h)						
8	サクソフォンの初歩実習の復習 キイ分解組み立て、構造やキイ名称の再確認 [準備・課題]キイ名称の復習(3h)						
9	サクソフォンの基礎実習①の復習 タンポ交換手順の再確認 [準備・課題]タンポ交換手順の復習(2h)						
10	サクソフォンの基礎実習②の復習 タンポ交換手順、連絡バランス調整の再確認 [準備・課題]連絡バランス調整の復習(2h)						
11	クラリネットの基礎実習②の復習 ジョイントコルク交換の再確認 [準備・課題]ジョイントコルク交換の復習(1h)						
12	クラリネットの基礎実習③の復習 全体調整(パネ圧、開き等の確認)の再確認 [準備・課題]全体調整の復習(1h)						
13	フルートの基礎実習③の復習 ヘッドコルク交換、反射板位置の再確認 [準備・課題]頭部管の復習(1h)						
14	フルートの基礎実習④の復習 全体調整(パネ圧、開き、アソビの取り方等)の再確認 [準備・課題]全体調整の復習(2h)						
15	前期木管楽器復習演習 木管楽器全般について復習を行い、未達成な項目を解消する。 [準備・課題]木管楽器全般の復習(2h)						
時間外での学修	授業で学んだ手順をしっかりと復習して身につけましょう。 また、日頃から多くの楽器を見る、触るなどを行い、さまざまな楽器を知って下さい。 特に経験楽器については、よく観察しておいて下さい。						
受講学生へのメッセージ	全員が初めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持ち続けて取り組んで下さい。 分からない事は、後回しにしないで、直ぐに質問し理解をすることが上達への近道です。 板書は、ルーブリーフなどに書き込むと各楽器ごとに纏めることが出来ますので活用して下さい。 オフィスアワーは、毎週水曜日5限16:40~18:10 F201教室で行います。						

【MS】リペア基礎演習(木管)Ⅱ		音楽総合学科		1年後期		
		2単位	選択	演習	60時間	
教員	松永 幸宏・木村 幾乃					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、木村：楽器店修理販売職・10年					
授業内容	リペア基礎（木管）の授業で学んだ内容を再確認し基礎的な実習を更に拡大してリペアを行う事によって目指す品質はどう言ったものなのかを、各楽器で十分に理解する。前期で、工具等使い方を理解したと思いますが、より安全な作業を行うには、どうしたら良いかを考えながら学んでいきます。					
授業方法	実習がメインとなり、教科書や配布プリント、DVD、各社カタログを取り入れながら、前期授業で学んだ内容をさらに拡大して総合的なリペア技術を学修します。					
到達目標	知識・理解	各木管楽器のメーカーによるキンステムの違い（特別講義で解説します）			△	
	思考・判断・表現	リペア作業をするにあたって、原因を究明し対処法を考え作業を組み立てる			◎	
	技能	各木管楽器のリペア箇所適切な技能を持って対応する。			◎	
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関するの情報、他社系のリペア手段など興味を持って、自らが率先して学修する。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	10	-	-	-	10
	実技試験	-	30	50	-	80
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	10	30	50	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』（上・下2巻）ヤマハ(15, 120円) リペア科目共通テキスト					
参考書・教材	各社カタログ、資料などは、授業毎に配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	サクソフォンの基礎実習③の復習 ネットコルク交換の再確認 [準備・課題] ネットコルク交換の復習 (1h)					
2	サクソフォンの基礎実習④の復習 全体調整（テーブルキー）タンポ交換の再確認 [準備・課題] 全体調整の復習 (3h～5h)					
3	クラリネットの総合実習①の復習 タンポ交換、調整の再確認 [準備・課題] 全体調整の復習 (3h)					
4	クラリネットの総合実習②の復習 タンポ交換、調整の再確認 [準備・課題] 全体調整の復習 (3h)					
5	フルートの総合実習①の復習 タンポ交換、調整の再確認 [準備・課題] 全体調整の復習 (3h)					
6	フルートの総合実習②の復習 タンポ交換、調整の再確認 [準備・課題] 全体調整の復習 (3h)					
7	サクソフォンの総合実習①の復習 タンポ交換、調整の再確認 [準備・課題] 全体調整の復習 (3h)					
8	サクソフォンの総合実習②の復習 タンポ交換、調整の再確認 [準備・課題] 全体調整の復習 (3h)					
9	クラリネットの総合実習③の復習 全タンポ交換、全体調整の再確認 [準備・課題] 総合的な修理の復習 (3h)					
10	クラリネットの総合実習④の復習 全タンポ交換、全体調整の再確認 [準備・課題] 総合的な修理の復習 (3h)					
11	フルートの総合実習③の復習 全タンポ交換、全体調整の再確認 [準備・課題] 総合的な修理の復習 (3h)					
12	フルートの総合実習④の復習 全タンポ交換、全体調整の再確認 [準備・課題] 総合的な修理の復習 (3h)					
13	サクソフォンの総合実習③の復習 部分タンポ交換、全体調整の再確認 [準備・課題] 総合的な修理の復習 (3h)					
14	サクソフォンの総合実習④の復習 部分タンポ交換、全体調整の再確認 [準備・課題] 総合的な修理の復習 (3h)					
15	クラリネット全タンポ交換、全体調整、ジョイントコルク交換の再確認 [準備・課題] 総合的な修理の復習 (5h)					
時間外での学修	反復練習をすることによって精度、時間短縮を心がけよう。 また、日頃から多くの楽器を見る触れる等を行い、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいて下さい。					
受講学生へのメッセージ	基本手順をしっかり身につけて2年次への準備をしよう。分からない事は1年次で解決すること。 オフィスアワーは、毎週水曜日5限目16：40～18：10 F201教室で行います。					

【MB】リペア基礎演習(金管) I		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	松永 幸宏・木村 幾乃						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、木村：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	リペア基礎(金管)の授業で学んだ内容を再確認し基礎となるリペア技術を理解する。安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用方法を学び、リペア技術に必要な基本となる動作や取り扱い方を学んでいきます。						
授業方法	全体での実習を中心とし、講義や小テストを入れながら、金管楽器の基本的なリペア技術、基本的な構造知識が身に着く授業にしていきます。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組み、構造を理解し、基本的な管楽器の状態を把握することが出来る。			△		
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断できる。			◎		
	技能	各金管楽器の修理箇所的確な技能を持って対応する。			◎		
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関して関心・興味を持ち、自らが率先して学修することが出来る。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	30	50	-	80
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		10	30	50	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ(15, 120円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	各社カタログ、資料などは授業毎に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	使用工具の確認、使用方法の説明の復習 [準備・課題]工具使用方法の復習(1h)						
2	工具製作、トランペットの初歩実習の復習 基礎知識、取扱い法、分解組み立ての再確認 [準備・課題]分解組立の復習(1h)						
3	トランペットの基礎実習①の復習 ピストン調整の再確認 [準備・課題]ピストン調整の復習(2h)						
4	トランペットの基礎実習②の復習 抜き差し管調整の再確認 [準備・課題]抜き差し管調整の復習(2h)						
5	ハンダ付け(溶接)初歩実習の復習 基礎知識の再確認 [準備・課題]ハンダ付け手順の復習(1h)						
6	ハンダ付け(溶接)初歩実習の復習 ハンダ付け作業の再確認 [準備・課題]ハンダ付けの復習(2h)						
7	ホルンの初歩実習の復習 基礎知識、取扱い方法、分解組み立ての再確認 [準備・課題]分解・組立の復習(1h)						
8	ホルンの基礎実習①の復習 ロータリー系(紐)交換の再確認 [準備・課題]ロータリー紐交換の復習(2h)						
9	ホルンの基礎実習②の復習 ロータリー調整の再確認 [準備・課題]ロータリー調整の復習(2h)						
10	トロンボーンの初歩実習の復習 基礎知識、取扱い法での再確認 [準備・課題]スライドの扱い方の復習(1h)						
11	トロンボーンの基礎実習①の復習 ウォーターキー分解、コルク交換、スライドストップフェルト交換での再確認 [準備・課題]各部品交換の復習(2h)						
12	トロンボーンの基礎実習②の復習 スライド調整の再確認 [準備・課題]スライド調整の復習(2h)						
13	ハンダ付け基礎実習①の復習 ハンダ分解組み立ての再確認 [準備・課題]ハンダ分解組立の復習(2h)						
14	ハンダ付け基礎実習②の復習 ハンダ分解組み立ての再確認 [準備・課題]ハンダ分解組立の復習(2h)						
15	前期金管楽器基礎復習演習 金管楽器全般についての復習を行い、未達成な項目を解消する。 [準備・課題]金管楽器全般の復習(2h)						
時間外での学修	授業で学んだ手順をしっかりと復習して、基礎をしっかり身につけましょう。 また、日頃から多くの楽器を見る、触れるなどを行い、さまざまな楽器を知って下さい。 特に経験楽器については、よく観察しておいて下さい。						
受講学生へのメッセージ	全員が初めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持ち続け取り組んで下さい。 分からない事は、後回しにしないで、直ぐに質問し理解することが上達への近道です。 板書は、ルーズリーフなどに書き込むと、各楽器ごとに纏めることが出来ますので活用して下さい。 オフィスアワーは、毎週水曜日5限16:40~18:10 F201教室で行います。						

【MS】リペア基礎演習(金管)Ⅱ		音楽総合学科		1年後期		
		2単位	選択	演習	60時間	
教員	松永 幸宏・木村 幾乃					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、木村：楽器店修理販売職・10年					
授業内容	リペア基礎（金管）の授業で学んだ内容を再確認し基礎的な実習を更に拡大してリペアを行う事によって目指す品質はどう言ったものなのかを、各楽器で十分に理解する。 前期で、工具等使い方を理解したと思いますが、より安全な作業を行うには、どうしたら良いかを考えながら学んでいきます。					
授業方法	実習がメインとなり、教科書や配布のプリント、DVD、配布プリント、各社カタログを取り入れながら、前期授業で学んだ内容をさらに拡大して総合的なリペア技術を学修します。					
到達目標	知識・理解	各金管楽器のメーカーによる構造等の違い（特別講義等で解説します）			△	
	思考・判断・表現	リペア作業をするにあたって、原因を究明し対処法を考え作業を組み立てる			◎	
	技能	各金管楽器のリペア箇所に適切な技能を持って対応する。			◎	
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関するの情報、他社系のリペア手段など興味をもって、自身が率先して学修する。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	10	-	-	-	10
	実技試験	-	30	50	-	80
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	10	30	50	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、1/3以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』（上・下2巻）ヤマハ(15, 120円) リペア科目共通テキスト					
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	トランペットの基礎実習①の復習 抜き差し管へコミ修正、ピッチ、平行度調整の再確認 [準備・課題]抜き差し調整の復習 (2h)					
2	トランペットの基礎実習①の復習 抜き差し管へコミ修正、ピッチ平行度調整の再確認 [準備・課題]抜き差し調整の復習 (2h)					
3	トランペットの基礎実習②の復習 マウスパイプ（吹き込み管）ハンダ分解組み立ての再確認 [準備・課題]ハンダ分解組立の復習 (3h～5h)					
4	トランペットの基礎実習②の復習 マウスパイプ（吹き込み管）ハンダ分解組み立ての再確認 [準備・課題]ハンダ分解組立の復習 (3h～5h)					
5	ホルンの基礎実習②の復習 ロータリー調整の再確認 [準備・課題]ロータリー調整の復習 (2h)					
6	ホルンの基礎実習②の復習 ロータリー調整の再確認 [準備・課題]ロータリー調整の復習 (2h)					
7	ホルンの基礎実習②の復習 レバー位置、ロータリー系（紐）のテンション調整の再確認 [準備・課題]ロータリー紐交換の復習 (2h)					
8	ホルンの基礎実習②の復習 レバー位置、ロータリー系（紐）のテンション調整の再確認 [準備・課題]ロータリー紐交換の復習 (2h)					
9	トロンボーンの基礎実習②の復習 スライド調整、ウォーターキー調整の再確認 [準備・課題]スライド調整の復習 (2h)					
10	トロンボーンの基礎実習②の復習 スライド調整、ストップフェルト交換の再確認 [準備・課題]スライド調整の復習 (2h)					
11	金管楽器基礎実習①の復習 マウスピース固着、抜き差し管固着、マウスピースシャンク変形修正の再確認 [準備・課題]固着修正の復習 (1h)					
12	トランペットの基礎実習②の復習 ピストン固着修正、マウスパイプハンダ付けの再確認 [準備・課題]総合的な修理の復習 (3h～5h)					
13	ホルンの基礎実習②の復習 ロータリー固着修正、ロータリー系（紐）交換、全体調整の再確認 [準備・課題]総合的な修理の復習 (3h～5h)					
14	トロンボーンの基礎実習②の復習 スライド調整、ウォーターキーコルク交換、スライドストップフェルト交換の再確認 [準備・課題]総合的な修理の復習 (3h～5h)					
15	ホルンロータリー固着修正、ロータリー系（紐）交換、レバー位置修正 全体調整の再確認 [準備・課題]総合的な修理の復習 (5h)					
時間外での学修	反復練習をすることによって精度、時間短縮を心がけよう。 感覚的な説明を行いますので、理解不足になりがちにと思いますが、反復によってコツ等を掴んで下さい。					
受講学生へのメッセージ	基本手順をしっかり身につけて2年次への準備をしよう。分からない事は1年次で解決すること。 オフィスアワーは毎週水曜日5限16：40～18：10 F201教室で行います。					

【MB】演奏会研究Ⅰ		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	鈴木 考育						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員							
授業内容	年間約6公演を鑑賞します。鑑賞に当たっては事前に演目、出演者などの研究をする事により、深い知識を持って鑑賞に臨みます。様々な音楽を聴くことで、個々の感受性を高め、音楽の表現力、楽器の技術力等を学びます。CD等のメディアでは得ることのできない本番の臨場感、演奏家のエネルギーを感じ取り、自分の演奏技術、表現力に活かします。プログラム構成、企画、舞台演出、宣伝活動など、演奏以外の面についても研究をし、自分たちの企画する演奏会に活かします。						
授業方法	各公演、鑑賞前には3～4週にわたって演目や出演者などの研究をし、また鑑賞後には、演奏の様子や、自身の感想をレポートにまとめ、鑑賞前後にそれぞれ提出してもらいます。コンサートの日程により授業の予定が大きく変わることがあります。						
到達目標	知識・理解	演奏会を聴くにあたって、その演奏会のプログラム、演奏者の基本情報を調べ演奏会に臨み、その知識を理解することができる。			◎		
	思考・判断・表現	演奏者の表現を受け入れ分析し評価する事ができ、自身の演奏表現に活かすことができる。また、演奏会の構成や演出を研究し、自分たちの企画する演奏会に活かすことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	自分の理想とする演奏を求め、より質の高い演奏や演奏会を目指し、積極的に努力して学修に取り組むことができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		30	30	-	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	鑑賞態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		30	30	-	40	100
評価の特記事項	レポート提出は、鑑賞前の事前レポートと観賞後の事後レポートで評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、この授業で学ぶこと 研究の仕方、レポートの内容、公演日程等の説明等 [準備・課題]演奏会1における演奏者(演技者)について調べる(1～2h)						
2	演奏会1に関するCDの鑑賞及び演奏者(演技者)の解説 [準備・課題]演奏会1における演目内容詳細について研究する(1～2h)						
3	演奏会1鑑賞前レポート提出及び発表 [準備・課題]演奏会1全般についてまとめ、鑑賞前の準備を整える。(1～2h)						
4	演奏会1鑑賞 [準備・課題]演奏会1についてレポートの材料を整理する。(1～2h)						
5	演奏会1鑑賞後レポート提出 [準備・課題]演奏会2における演奏者(演技者)について調べる(1～2h)						
6	演奏会2に関するCDの鑑賞及び演奏者(演技者)の解説 [準備・課題]演奏会2における演目内容詳細について研究する(1～2h)						
7	演奏会2鑑賞前レポート提出及び発表 [準備・課題]演奏会2全般についてまとめ、鑑賞前の準備を整える。(1～2h)						
8	演奏会2鑑賞 [準備・課題]演奏会2についてレポートの材料を整理する。(1～2h)						
9	演奏会2鑑賞後レポート提出 [準備・課題]演奏会3における演奏者(演技者)について調べる(1～2h)						
10	演奏会3に関するCDの鑑賞及び演奏者(演技者)の解説 [準備・課題]演奏会3における演目内容詳細について研究する(1～2h)						
11	演奏会3鑑賞前レポート提出及び発表 [準備・課題]演奏会3全般についてまとめ、鑑賞前の準備を整える。(1～2h)						
12	演奏会3鑑賞 [準備・課題]演奏会3についてレポートの材料を整理する。(1～2h)						
13	演奏会3鑑賞後レポート提出 [準備・課題]演奏会1～3をグループで振り返る(1～2h)						
14	演奏会1～3のまとめ [準備・課題]演奏会1～3を定期演奏会にどう活かすか話し合う。(1～2h)						
15	自由選択演奏会の調査 [準備・課題]自由選択演奏会の研究(1～2h)						
時間外での学修	授業日までのレポート提出となります。期限に遅れないのはもちろん、内容の充実したレポート作成を心がけてください。						
受講学生へのメッセージ	鑑賞に当たっては服装等、マナーを守り、何事も学ぶ姿勢で鑑賞しましょう。オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。						

【MS】演奏会研究Ⅱ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	鈴木 考育						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員							
授業内容	年間約6公演を鑑賞します。鑑賞に当たっては事前に演目、出演者などの研究をする事により、深い知識を持って鑑賞に臨みます。様々な音楽を聴くことで、個々の感受性を高め、音楽の表現力、楽器の技術力等を学びます。CD等のメディアでは得ることのできない本番の臨場感、演奏家のエネルギーを感じ取り、自分の演奏技術、表現力に活かします。プログラム構成、企画、舞台演出、宣伝活動など、演奏以外の面についても研究をし、自分たちの企画する演奏会に活かします。						
授業方法	各公演、鑑賞前には3～4週にわたって演目や出演者などの研究をし、また鑑賞後には、演奏の様子や、自身の感想をレポートにまとめ、鑑賞前後にそれぞれ提出してもらいます。コンサートの日程により授業の予定が大きく変わることがあります。						
到達目標	知識・理解	演奏会を聴くにあたって、その演奏会のプログラム、演奏者の基本情報を調べ演奏会に臨み、その知識を理解することができる。			◎		
	思考・判断・表現	演奏者の表現を受け入れ分析し評価することができ、自身の演奏表現に活かすことができる。また、演奏会の構成や演出を研究し、自分たちの企画する演奏会に活かすことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	自分の理想とする演奏を求め、より質の高い演奏や演奏会を目指し、積極的に努力して学修に取り組む事ができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート提出		30	30	-	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	鑑賞態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		30	30	-	40	100
評価の特記事項	レポート提出は、鑑賞前の事前レポートと観賞後の事後レポートで評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	自由選択演奏会研究・鑑賞レポート [準備・課題]演奏会4における演奏者(演技者)について調べる。(1～2h)						
2	演奏会4に関するCDの鑑賞及び演奏者(演技者)の解説 [準備・課題]演奏会4における演目内容詳細について研究する。(1～2h)						
3	演奏会4鑑賞前レポート提出及び発表 [準備・課題]演奏会4全般についてまとめ、鑑賞前の準備を整える。(1～2h)						
4	演奏会4鑑賞 [準備・課題]演奏会4についてレポートの材料を整理する。(1～2h)						
5	演奏会4鑑賞後レポート提出 [準備・課題]演奏会5における演奏者(演技者)について調べる。(1～2h)						
6	演奏会5に関するCDの鑑賞及び演奏者(演技者)の解説 [準備・課題]演奏会5における演目内容詳細について研究する。(1～2h)						
7	演奏会5鑑賞前レポート提出及び発表 [準備・課題]演奏会5全般についてまとめ、鑑賞前の準備を整える。(1～2h)						
8	演奏会5鑑賞 [準備・課題]演奏会5についてレポートの材料を整理する。(1～2h)演						
9	演奏会5鑑賞後レポート提出 [準備・課題]演奏会6における演奏者(演技者)について調べる。(1～2h)						
10	演奏会6に関するCDの鑑賞及び演奏者(演技者)の解説 [準備・課題]演奏会6における演目内容詳細について研究する。(1～2h)						
11	演奏会6鑑賞前レポート提出及び発表 [準備・課題]演奏会6全般についてまとめ、鑑賞前の準備を整える。(1～2h)						
12	演奏会6鑑賞 [準備・課題]演奏会6についてレポートの材料を整理する。(1～2h)						
13	演奏会6鑑賞後レポート提出 [準備・課題]演奏会1～6のまとめと定期演奏会へどう活かすか話し合う。(1～2h)						
14	演奏会1～6まとめと考察 及び学んだことを定期演奏会に最大限に活用する。 [準備・課題]1年間の総括(1～2h)						
15	まとめ 一年を通して学んだこと [準備・課題]今後の演奏会の鑑賞の仕方と定期演奏会のあり方について考える(1～2h)						
時間外での学修	授業日までにレポートの提出となります。期限に遅れないのはもちろん、内容の充実したレポート作成を心がけてください。						
受講学生へのメッセージ	鑑賞に当たっては服装等、マナーを守り、何事も学ぶ姿勢で鑑賞しましょう。オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。						

【MB】 楽器奏法 I		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	佐溝 佳奈						
資格・制限等	R・W/Rコース必修						
実務家教員							
授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくは、プロの技術者とは呼ばれません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。						
授業方法	各楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。						
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。			△		
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。			△		
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。			◎		
	関心・意欲・態度	各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	各楽器の修得力		10	10	-	-	20
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の説明、レッスンのグループ分け、レッスンの受け方 [準備・課題] 次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)						
2	楽器1レッスン1:グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
3	楽器1レッスン2:グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
4	楽器1レッスン3:グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
5	楽器1レッスン4:グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] 次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)						
6	楽器2レッスン1:グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
7	楽器2レッスン2:グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
8	楽器2レッスン3:グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
9	楽器2レッスン4:グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] 次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)						
10	楽器3レッスン1:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
11	楽器3レッスン2:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
12	楽器3レッスン3:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
13	楽器3レッスン4:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の復習(1～2h)						
14	不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
15	不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。						
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンにあたっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。						

【MS】楽器奏法Ⅱ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	佐溝 佳奈						
資格・制限等	R・W/Rコース必修						
実務家教員							
授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくは、プロの技術者とは呼ばれません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。						
授業方法	各楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。						
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。			△		
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。			△		
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。			◎		
	関心・意欲・態度	各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	各楽器の修得力		10	10	-	-	20
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の説明、レッスンのグループ分け、レッスンの受け方 [準備・課題] 次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)						
2	楽器1レッスン1:グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
3	楽器1レッスン2:グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
4	楽器1レッスン3:グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
5	楽器1レッスン4:グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] 次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)						
6	楽器2レッスン1:グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
7	楽器2レッスン2:グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
8	楽器2レッスン3:グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
9	楽器2レッスン4:グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] 次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)						
10	楽器3レッスン1:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
11	楽器3レッスン2:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
12	楽器3レッスン3:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
13	楽器3レッスン4:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の復習(1～2h)						
14	不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
15	不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [準備・課題] レッスン楽器の練習(1～2h)						
時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。						
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンに当たっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。						

【MB】 楽器研究 I		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	木下 紘治郎						
資格・制限等	W・R・W/R・W/MTコース必修						
実務家教員	楽器製造販売会社勤務・35年						
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・管打楽器業界で即戦力として通用する人材に必要な、豊富でより専門的な知識の修得を行います。 ・演奏力、指導力、幅広い音楽知識、リペア技術と、又は、それに関する知識を背景を持った人材であるプレイング・セールス・エンジニアの育成を目指します。 ・お客様に信頼され支持され地域に貢献することができる人間性豊かな人材の育成をします。 						
授業方法	講義形式で行います。より理解を深めるため楽器本体、カタログ、DVD、CD等を使用します。						
到達目標	知識・理解	管打楽器の成り立ちや発音原理、構造、材質等の基礎知識を持ち、各楽器ごとの特徴を理解できる。日本のスクールバンドで使用される国内外のメーカーを知り、その売れ筋商品を知ることが出来る。			◎		
	思考・判断・表現	営業活動や楽器指導にあたって、十分な理解を得られる伝え方を研究、工夫しコミュニケーションをとることが出来る。			△		
	関心・意欲・態度	管打楽器及び関連商品の幅広い知識と新しい情報に敏感であり、より専門的な情報収集に努めることが出来る。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	試験		80	5	-	5	90
	レポート		5	3	-	2	10
	合計(点)		85	8	-	7	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『管楽器価格一覧表2019年度版』ミュージックトレード社(972円) 『打楽器価格一覧表2019年度版』ミュージックトレード社(864円)						
参考書・教材	授業ごとに自作資料を配布します。 楽器別カタログを配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス「この授業で学ぶこと」プレイング・セールス・エンジニアについて。「音楽産業と楽器産業」について [準備・課題]学んだことの復習。プレイング・セールス・エンジニアについて理解する。各楽器ごとの授業前にカタログを予め読んでおくこと (1h)						
2	管楽器の基礎知識 (1) 歴史、発音原理、楽器の分類と種類、構造、管体材料について [準備・課題]学んだことの復習。発音原理は実際にマウスピース等で吹いてみる。 (3h)						
3	管楽器の基礎知識 (2) バルブとスライド、円筒管と円錐管、トーンホール、キイメカニズム、調性について [準備・課題]学んだことの復習。各自の専門楽器以外は学生同士で確認すること。 (3h)						
4	フルート 各国での名称、歴史、種類、キイタイプ、管体材料、トーンホール、ヘッド、ハンドメイド、メーカーについて [準備・課題]学んだことの復習。実際に楽器、ヘッドで確認すること。 (3h)						
5	クラリネット 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料リード・リガチャー・マウスピースの3点セット、メーカーについて [準備・課題]学んだことの復習。実際に楽器、リード、リガチャー、マウスピースで確認すること。 (3h)						
6	サクソフォン 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料ネック (ボーカル)、メーカーについて [準備・課題]学んだことの復習。実際に楽器等で確認すること (3h)						
7	オーボエ 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、リード、メーカーについて [準備・課題]学んだことの復習。実際に楽器等で確認すること (3h)						
8	バスーン (ファゴット) 各国での名称、歴史、種類、キイシステム管体材料、リード、ボーカル、メーカーについて [準備・課題]学んだことの復習。実際に楽器等で確認すること (3h)						
9	トランペット 各国での名称、歴史、種類、管体材料、バルブの種類、支柱と響き、ボアサイズ、ベル、トリガー、メーカーについて [準備・課題]学んだことの復習。実際に楽器で確認すること (3h)						
10	ホルン 各国での名称、歴史、調性による分類、タイプによる分類、管体材料、デタッチャブル、ゲシュトップ、ベル、メーカーについて [準備・課題]学んだことの復習。実際に楽器で確認すること (3h)						
11	トロンボーン 各国での名称、歴史、種類、管体材料、スライド、バルブの種類、ボアサイズ、ベル、メーカーについて [準備・課題]学んだことの復習。実際に楽器で確認すること (特にスライド、バルブ) (3h)						
12	ユーフォニアム&チューバ 各国での名称、歴史、種類、管体材料、バルブの種類、管の巻き方、コンベンセティングシステム、メーカーについて [準備・課題]学んだことの復習。実際に楽器等で確認すること (3h)						
13	サクソルン族 歴史、種類、ホルネット、アルトホルン、バリトン、メーカーについて。イギリス式金管バンド編成。 [準備・課題]学んだことの復習。金管バンドのDVD、CDを視聴し興味をもつこと。 (4h)						
14	マーチングプラス 歴史、特徴、種類、コンバーチブルモデル、メーカーについて [準備・課題]学んだことの復習。カタログやCD、DVDを視聴し興味を持つこと (4h)						
15	前期のまとめ。夏期休暇課題提示「吹奏楽又はマーチングコンクール、コンテスト視察。楽器店訪問」 [準備・課題]これまで学んだ内容についてまとめを行うこと (10h)						

時間外での学修	コンクール視察は演奏を聴くだけでなく、会場での関係者の動線、編成、使用楽器（打楽器）演奏曲の傾向などを観察してください。楽器業界の第一線である楽器店訪問からは学ぶことが多くあります。機会を見つけ訪問しましょう。専門誌、インターネット等で最新情報を入手する習慣をつけましょう。専門楽器以外の楽器は学生同士で研究しましょう。
受講学生へのメッセージ	自分の専門楽器だけでなく、すべての楽器に興味を持ってください。そこから得た知識が将来必ず活かされます。リペアを仕事にしようとする方は必須です。又、楽器店勤務を希望する方にもオールマイティな知識が求められます。 オフィスアワー：質問等は授業前後に教室で対応します。

【MS】楽器研究Ⅱ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	木下 紘治郎						
資格・制限等	W・R・W/R・W/(MT)コース必修						
実務家教員	楽器製造販売会社勤務・35年						
授業内容	前期に引き続き楽器知識について行います。打楽器類（コンサート用、マーチング用、音板打楽器）和楽器（太鼓類、笛類、弦楽器類）、教育楽器（リコーダー、鍵盤ハーモニカ、教育機器）楽器店で扱われる楽器（鍵盤楽器、弦楽器、LM楽器、民族楽器、管打楽器関連商品）の知識、チューナー、メトロノームのスクールバンドに於ける活用研究及び関連知識として吹奏楽の歴史を学びます。						
授業方法	講義形式で行います。より理解を深めるため楽器本体、カタログ、DVD、VTR、CDを活用します。						
到達目標	知識・理解	打楽器、和楽器、教育楽器、楽器店で販売している楽器群についての特徴を知ることができる。特に、教育楽器は教育上の特性等、学校教育との関連を理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	営業活動や指導にあたって、十分な理解を得られる伝え方を思考し、工夫し表現できる。			△		
	関心・意欲・態度	楽器本体及び関連商品の幅広い知識と情報に敏感であり、よりプロフェッショナルな顧客対応ができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		70	5	-	5	80
	レポート		10	5	-	5	20
	合計(点)		80	10	-	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	前期で購入した『管・打楽器価格一覧表』、『楽器別カタログ』を使用します。						
参考書・教材	授業ごとに自作資料を配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	打楽器(1) コンサート打楽器の分類 ①ティンパニ(各国での名称、歴史、種類、構造、サイズ、セッティング、チューニングインジゲーター、メーカー)について [準備・課題]学習内容の復習。楽器本体(学校備品)で確認しておくこと。コンサート打楽器をカタログで確認しておくこと(4h)						
2	打楽器(2) スネアドラム、バスドラム、シンバル、チャイム他(各国での名称、歴史、種類、サイズ、チューニング、構造、材質、メーカー)について [準備・課題]学習内容の復習。カタログ、楽器で確認すること。音板打楽器をカタログで確認しておくこと(3h)						
3	打楽器(3) 音板打楽器(概論、種類、各部の名称、材質、湿度・温度とピッチの関係、取り扱い、メーカー)について [準備・課題]学習内容の復習。楽器本体で確認すること。マーチングパーカッションをカタログで確認しておくこと(4h)						
4	打楽器(4) マーチングパーカッション(概論、種類、構造、編成、チューニング、アクセサリ、メーカー)について [準備・課題]学習内容の復習。楽器本体、カタログで確認すること。DVD等で確認すること。(3h)						
5	和楽器(1) 邦楽と和楽器について、歴史、種類と分類、奏法、各流派 (1)和太鼓 (2)管楽器類(尺八)について [準備・課題]学習内容の復習。DVD等で確認すること。(3h)						
6	和楽器(2) 管楽器類 篠笛、竜笛、能管、笙、箏「雅楽について」 [準備・課題]学習内容の復習。DVD等で確認すること。(3h)						
7	和楽器(3) 弦楽器(三味線、琴と箏)について [準備・課題]学習内容の復習。和楽器の知識をまとめておくこと(3h)						
8	教育楽器(1) リコーダー(各国での名称、歴史、種類、材質、バロック式とジャーマン式、教育的特性、生涯学習とリコーダー、奏法、メーカー)について [準備・課題]学習内容の復習。楽器本体で確認すること。(3h)						
9	教育楽器(2) 鍵盤ハーモニカ(歴史、種類(鍵盤数)、教育的特性、生涯学習と鍵盤ハーモニカ、メーカー(独自の商品名)について [準備・課題]学習内容の復習。楽器本体で確認すること。(3h)						
10	教育機器(種類、電子式指導用オルガンの教育的特性と機能)について メーカーについて [準備・課題]学習内容の復習。総合楽器店で扱われる楽器類を確認しておくこと(3h)						
11	楽器店で扱われる楽器類(鍵盤楽器、弦楽器、LM楽器、民族楽器、楽器関連商品)について。メーカーについて [準備・課題]学習内容の復習。楽器店で確認することを勧める。(6h)						
12	楽器関連商品(チューナーとメトロノームの吹奏楽活動での効果的な活用研究)について [準備・課題]学習内容の復習。自身の効果的な活用法を考える事(6h)						
13	日本における吹奏楽の歴史(日本の吹奏楽の始まりから現在、そして将来を展望する) [準備・課題]学習内容の復習及び後期実施資料を準備し、読み直ししておきましょう(6h)						
14	後期のまとめ。後期授業内容をまとめます。 [準備・課題]学習内容の復習。後期実施全資料を持参してください。返却された夏期休暇課題を読み直し、来週持参してください(4h)						
15	夏期休暇課題のまとめ。コンクール視察、楽器店訪問で気付いた事と学んだこと。新しい視点で観察した現場を整理し、これからの繋げる [準備・課題]学習内容の復習。後期授業内容を確認しましょう。(10h)						

時間外での学修	楽器店を訪問して商品の展示方法（レイアウト、メーカー、機種、量、POP等）を観察したり、新しい情報を入手しましょう。調査ではありません。必ず客として訪問してください。お店の方々と仲良くなる事で、多くの知識、情報を得ることができます。学ばせていただく姿勢が大切です。邦楽を生演奏で聴くことは少ないと思いますが、名古屋市能楽堂での公演、熱田神宮の神事、結婚式での雅楽演奏。参列しなくても外から鑑賞できます。お祭りのお神楽など機会を見つけてください。
受講学生へのメッセージ	楽器のオールマイティーを目指しましょう。興味と関心、好奇心が最大の資質です。授業内容を復習しカタログや専門誌、インターネット等で確認し、知識を確実にしましょう。学校備品、友人の楽器、コンサート等で実際に楽器を観察することを勧めます。 オフィスアワー：質問等は授業の前後に教室で対応します。

【MB】専攻楽器 I		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	服部 篤典・鈴木 孝育					
資格・制限等	W・W/R・W/MTコース必修					
実務家教員	服部篤典「オーケストラ：25年」					
授業内容	演奏能力向上に向け基礎力、演奏技術、表現力の向上を図るレッスンをを行います。各々のレベルに合わせ、希望する楽曲を選択し、楽曲を深く理解して演奏に臨みます。					
授業方法	演奏曲目の個人レッスンを各々の進捗状況に応じて行います。必要に応じてピアノ伴奏付きで行います。					
到達目標	知識・理解	楽曲の様式、作曲家などの基本的な知識がある。			△	
	思考・判断・表現	楽譜を深く理解し音楽性を伴った演奏ができる。			△	
	技能	伴奏との意思疎通ができ、専攻楽器として相応しい演奏をすることができる。			◎	
	関心・意欲・態度	積極的な演奏技術の向上と質の高い演奏を目指す努力ができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	-	60	-	60
	受講態度	-	-	-	20	20
	成長度	10	10	-	-	20
	合計(点)	10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席・遅刻は減点とし、3分の1以上欠席した学生は単位を与えません。					
テキスト	ありません。					
参考書・教材	取り組む楽曲は各自で購入。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス 授業の進め方 [準備・課題] 楽曲選択研究 (2~3h)					
2	楽曲選曲 各々のレベルに合った楽曲を教員と相談の上決めます [準備・課題] 選択楽曲の研究・練習 [正確な譜読みをする] (2~3h)					
3	前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [正確な譜読みをする] (2~3h)					
4	前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [7-ティエレーションに留意する] (2~3h)					
5	前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [7-ティエレーションに留意する] (2~3h)					
6	前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [ダイナミクスの変化に留意する] (2~3h)					
7	前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [ダイナミクスの変化に留意する] (2~3h)					
8	前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [指定のテンポで演奏できるようにする] (2~3h)					
9	前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [指定のテンポで演奏できるようにする] (2~3h)					
10	前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [フレーズの歌い方を研究する] (2~3h)					
11	前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [フレーズの歌い方を研究する] (2~3h)					
12	前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [伴奏と合わせる] (2~3h)					
13	前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [伴奏と合わせる] (2~3h)					
14	前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [仕上げ] (2~3h)					
15	最終確認 試験会場でのリハーサル [準備・課題] リハーサルの復習と確認 (2h~3h)					
時間外での学修	日頃から練習時間を確保し、計画的に自己研鑽をしてください。より質の高い演奏ができるように努力しましょう。					
受講学生へのメッセージ	出来なかったことが出来るようになる喜びを感じてください。 オフィスアワーはB104にて水曜日16:40~。					

【MS】専攻楽器Ⅱ		音楽総合学科		1年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	服部 篤典・鈴木 孝育					
資格・制限等	W・W/R・W/(MT) コース必修					
実務家教員	服部篤典「オーケストラ：25年」					
授業内容	演奏能力向上に向け基礎力、演奏技術、表現力の向上を図るレッスンをを行います。各々のレベルに合わせ、希望する楽曲を選択し、楽曲を深く理解し演奏に臨みます。					
授業方法	個人レッスン。 必要に応じてピアノ伴奏付きで行います。					
到達目標	知識・理解	楽曲の様式、作曲家などの基本的な知識がある。			△	
	思考・判断・表現	楽譜を深く理解し音楽性を伴った演奏ができる。			△	
	技能	伴奏との意思疎通ができ、専攻楽器として相応しい演奏をすることができる。			◎	
	関心・意欲・態度	積極的な演奏技術の向上と質の高い演奏を目指す努力ができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	-	60	-	60
	受講態度	-	-	-	20	20
	成長度	10	10	-	-	20
	合計(点)	10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席・遅刻は減点とし、3分の1以上欠席した学生は単位を与えません。					
テキスト						
参考書・教材	取り組む楽曲は各自で購入。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス 授業の進め方 [準備・課題] 楽曲選択研究 (2~3h)					
2	楽曲選曲 各々のレベルに合った楽曲を教員と相談の上決めます。 [準備・課題] 選択楽曲の研究・練習 [正確な譜読みをする] (2~3h)					
3	後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [正確な譜読みをする] (2~3h)					
4	後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [アーティキュレーションに留意する] (2~3h)					
5	後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [アーティキュレーションに留意する] (2~3h)					
6	後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [ダイナミクスの変化に留意する] (2~3h)					
7	後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [ダイナミクスの変化に留意する] (2~3h)					
8	後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [指定のテンポで演奏できるようにする] (2~3h)					
9	後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [指定のテンポで演奏できるようにする] (2~3h)					
10	後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [フレーズの歌い方を研究する] (2~3h)					
11	後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [フレーズの歌い方を研究する] (2~3h)					
12	後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [伴奏と合わせる] (2~3h)					
13	後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [伴奏と合わせる] (2~3h)					
14	後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 [仕上げ] (2~3h)					
15	最終確認 試験会場でのリハーサル [準備・課題] リハーサルの復習と確認 (2h~3h)					
時間外での学修	日頃から練習時間を確保し、計画的に自己研鑽をしてください。より質の高い演奏ができるように努力しましょう。					
受講学生へのメッセージ	出来なかったことが出来るようになる喜びを感じてください。 オフィスアワーはB104にて水曜日16:40~。					